

着物着用者のブログ分析における話題の相関と変遷 に関する研究

—衣服を基にした消費生活の見直しを目指して—

玉井 郁圭

環境計画学科環境社会計画専攻において学士（環境科学）の学位授与の資格の
一部として滋賀県立大学環境科学部に提出した研究報告書

2009 年度

承認

指導教員

衣服を基にした消費生活の見直しに関する研究—着物着用者のブログ分析を通して—

近藤研究室 0612029 玉井郁圭

1. 背景・論点

1-1 環境学の視点から見た衣(clothing)

社会の経済活動が大量生産・大量消費・大量廃棄型となり高度化するにつれ、資源採取から廃棄にいたる各段階での環境への負荷が著しくなった¹⁾。このような状況において、住・食に比べて衣服(Clothing)環境問題として扱われることは少ない。日本の繊維消費量は一人当たり年間 20kg を超え、世界第 7 位である²⁾。『環境学総論』³⁾によると、本来衣服着用の直接的目的は、①体温の調節、②外部からの身体の保護、③身体清潔の保持、④装飾として美しく見せる、権威をつけるため、などである。しかし現代の生活では、目的④が重要視される傾向が強いために、衣服の消費行動は拡大しやすく抑えにくい状態であり、環境配慮をすることが難しいと捉えられやすい。

1-2 着物への着目

そこで本研究では、繊維の製造から廃棄までの過程を図化した「衣料のライフサイクル」というものを考え(図 1)、その中で環境配慮が可能と考えられる項目を 8 つ挙げると共に、それらの項目の性質を元々備えるとされる「着物」に着目した(表 1)。

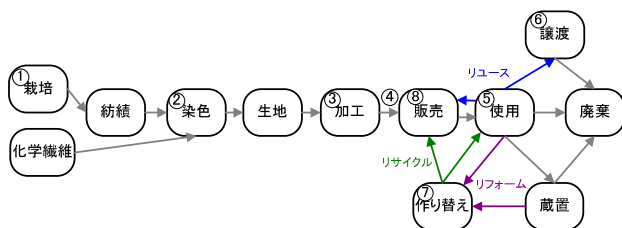


図 1 衣のライフサイクル

表 1 着物に備わる性質(番号は図 1 に対応)

	衣料の環境配慮	着物の性質
①	自然素材の利用	絹・綿・麻・ウールなどの天然素材が主
②	自然染め	植物染料・顔料の使用
③	無駄のない加工	和裁は端切れが出ず何度でも仕立て直しが可能
④	地産地消	全国に染物・織物の産地が併せて 100 以上あり、半数以上が伝統工芸品指定品目
⑤	長期的な利用	サイズ調整が容易・流行がない
⑥	リユース	仕立て直し・染め直し・世代間でも譲渡できる
⑦	リサイクル	着物→帯・羽織・小物→おしめ・雑巾

⑧	リデュース	譲渡しやすい・息が長い
---	-------	-------------

着物は日本の風土と生活様式に合わせて進化を続けてきた衣服である。現在一般的に知られている着用の決まりは明治時代に確立したものとされる⁴⁾が、普段着として着用される着物は現在も生活様式に合わせて変化を続けている。

着物を着用することにより人々の意識や行動に洋装の時とは異なる変化が起きる可能性があると考え、本研究では着物着用者の意識・行動に焦点を当てる。日常生活の中での意識や行動を探るため、分析対象には着物着用者が運営するブログを用いる。

2. 研究の目的・意義

本研究の目的を以下に示す。

- ① 着物着用者のブログ分析により、着物着用に基づく着用生活の性質を示す
- ② ブログ分析およびアンケート調査より得た対象者の特徴より、着物着用者の生活における意識・行動を明らかにする
- ③ 日常生活に着物を組み込むことによって起きる意識・行動の変化より、衣・身体を基点として消費生活を見直すプロセスを提言する

以上の目的を達成する事は、着物を用いた生活の魅力を再認識することにより、現代の生活を見直すきっかけとなる。

本研究の意義は、着物着用生活と消費生活との関係を導き出し、環境配慮のひとつの視点として提唱することで、着物への注目を促すことである。さらに、大量にものを消費することなく快適性や感覚に富んだ生活を営むことができることを主張する。

3. 研究方法

3-1 対象の選定

(1) 「びいめ〜る⁵⁾」にて対象者を募集

研究の概要を説明したうえで分析の対象者を募った。ブログの更新頻度や記事の性質がランキングのブログとは異なるものもあるが、本研究の趣旨に興味を持ったことにより、環境への意識・意欲も高いと考えられ、着物着用と環境意識のつながりを見つけやすいことを期待した。(対象 4〜6)

(2) ブログランキング

2009 年 1 月の時点で「日本ブログ村⁶⁾」の「呉服・着物」カテゴリーで上位 20 位以内にあったブログの中から、ブログ自体に仕事の宣伝等の性格が強くないものを選定した。ランキングを使用したのは、で

きるだけ他者が閲覧する機会が多いことと、更新頻度が高いことを期待したためである。

対象数は募集によって決まったものに合わせ3つとする。(対象1～3)

表2 対象一覧

	ブログ名	性別	着用暦	着用頻度
対象1	ほぼ日刊?着物新聞	女	2年	週1以上
対象2	キモノは別腹	女	23年	週2～3
対象3	着物で一息♪ティータイム	女	15年	週1以上
対象4	ちくちくきもの	女	2年	週3以上
対象5	丁髷 髪切り職人	男	4年	毎日
対象6	お気楽着物暮らし	女	4年	毎日

3-2 アンケート調査

対象者に対し、属性および着物着用に関する基礎情報等についてアンケート調査を行う。これによって得たデータはブログでの話題の特徴と比較し、個人の特徴を出す
と共に着物着用者の心理・行動の共通点を導き出す。

3-3 ブログ分析手順

分析の対象期間は、対象の多くが研究実施時点でブログを付け始めて2年を経過していないことを考慮し、季節を網羅し、かつ研究の実施期間において最も新しいデータを得るために2008/9～2009/8の一年間とする。分析の手順は以下の通りである。

- 記事ごとに登場する話題を分類する(話題項目は詳細にし、各対象者の特性を出しやすくする)話題項目は8つのカテゴリーに分類した(表3)

表3 話題項目のカテゴリーと話題数

カテゴリー\対象	1	2	3	4	5	6
着物(物)	9	8	8	8	9	8
着物(動作・意識)	12	8	9	10	7	7
和(日本)	5	6	4	4	4	1
自然	4	4	4	3	4	4
食物	7	3	3	2	5	2
生活行動	6	5	6	7	6	6
交流・外出	6	7	7	7	5	4
趣味・その他	4	4	3	4	6	4

- 季節ごとに話題想起率⁷⁾を算出する

ある話題の話題想起率(%)

$$= \frac{\text{ある話題が出現した回数(話題出現数)}}{\text{全記事数}} \times 100$$

- 季節(9～11, 12～2, 3～5, 6～8月)を時系列的な区切りとして、項目間でクロス集計表を出し、ソ

シオグラムを用いて話題相関図を作成する。

- 表現の中で着物着用や生活に関して対象者の考えが表れている部分を抜粋し、考察する

3-4 考察

分析および考察については、各対象者について行ったのち対象間で比較する。

各対象者の個別分析については話題相関図と話題想起率にどのような特徴があるかを考察し、表現の内容やアンケートの結果と関連付けて着物着用と環境意識の関係性について考察していく。

対象間の比較については、対象のブログに共通して出てきた話題について着用者ごとの話題想起率を比較し、得られた結果および個人の分析結果とアンケートの回答との関係を明らかにして着用者のパターンを探る。

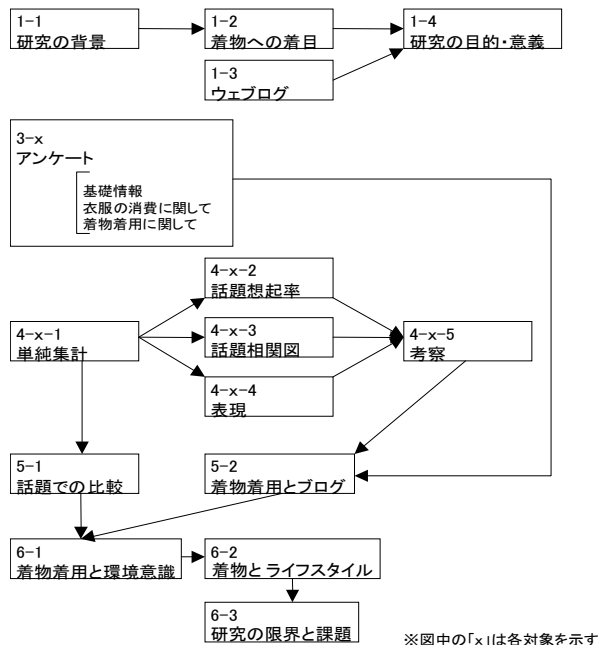


図2 研究の流れ

4. ブログ分析結果

4-1 話題出現率と話題想起率

対象1: 想起率の偏りが少なく、多くの話題についてバランスよく記事を展開している。時期を追うごとに「着物」の話題が減り「和(日本)」の話題が増えているのが特徴である。

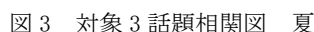
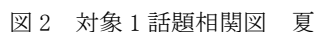
対象2: ブログの更新頻度には変化が無いのに話題出現数が減ることから、ひとつの記事で扱う話題の数が減ったことがわかる。

対象3: 「着物(物)」カテゴリーの話題が徐々に減る。それに代わって「手作り」「再利用」の話題が増えるが、徐々に「再利用」に意識が向くためである。

対象4: 話題出現数・想起率共に大きな変化はなく、話題が安定しているブログであるといえる。着物

対象6: 分析対象期間が他の対象者の半分であるが、
 その中で増える話題は「生地・素材」「道具」、減る
 話題は「色」「柄」と「自然」カテゴリーである。

対象6:「着物」や「自然」カテゴリーの多くの話題
が互いにつながり、多角形を形成している。



が変わったことを挙げている。また、「30 年以上も前の着物が、袖を通せば今も生き生きと蘇る(対象 3, 2008_11_23)」のように着物の息の長い性質に対する表現や、物を作ったり再利用するといった表現も多い。「こんなサステナブルな衣服が環境っていう視点から見直されないってのが勿体無い(対象 4, 2009_2_5)」のように対象者の中には「着物」を環境問題対策のひとつと捉えている者もいる。

5-1 着物着用と衣服消費量

- ファッションや趣味で着物を着用する者(対象1・3)は洋服も着物も同様に消費する
- 「長く着られる」という着物の性質を着用目的にする者(対象2・4・5・6)は衣服は着物だけでいいと考える傾向があり洋服も着物も新品のものはほとんど購入しない

表3 対象者の着物を着る目的

対象1	ファッションとして
対象2	好きだから・長い付き合いのできる衣類だから
対象3	気分転換
対象4	楽しい・体調が良くなる
対象5	普段着として
対象6	普段着として

冬は最もコーディネート幅が広がる季節であり、着用機会も増えるので「着用(動作・意識)」カテゴリや「交流」カテゴリの話題が増える。着用には、防寒などの着方に関するものと、素材など着物や小物そのものの双方に、工夫を施す余地がある。これらの特徴は話題相関図が複雑化することからもうかがえ、特に着用歴の浅い者に顕著である。

一方、夏は着物や浴衣の色柄や素材が単一で、着物着用そのものも簡素になることと、話題相関図が単純化することが関係している戸考えられる。しかし暑さを防止するための工夫や、熱を抜く方法などの話題が増え、「工夫」の話題は冬と同様に多くの話題とのつながりが見られる。

着物は季節によって着る物が決まっていたり色や柄によって季節感を表現できるという特性を持っている。対象者も、気候の変化に合わせて着る物を変えて季節を楽しむ行動が見られる。中でも春は特に

季節を意識して着物着用をしていることが話題相関図から明らかになった。

5-3 「和」へのこだわり

対象者は「和風」や「文化・伝統・歴史」といった日本らしいものの話題をよく扱い、それらに興味があることがわかる。「着物」か「和風」か、どちらへの興味が先に湧いたかに関わらず、着物を着ると一層日本の文化や伝統など着物が似合う「背景」「空間」「雰囲気」に興味が広がると言える。

どの対象にも着物を着用することで感覚が洗練され素材や季節感、色柄などに敏感になるといった表現があり、着物着用によって日本らしさを感覚で捉えられるようになると言える。

5-4 手作り・再利用

「手作り」の話題は一樣に多いが、対象者は「物を作ること」にも「手作りの物」にも興味があり、着物に限らず「再利用」をしたり物を大切に長く使う行動が共通して見られる。対象者のほとんどが「もの作り」や「再利用」を生活の中で行っている。洋服入手時はほぼ 100%新品購入であるのに着物では手作りやリサイクル品がほとんどであることから、「着物を着用すること」と「手作り」や「再利用」が関係していることがわかる。

5-6 身体

「健康・身体」の話題から、着物着用によって身体に現れた変化として「代謝が上がるということ」、「姿勢や所作が変わること」が挙げられる。また、服に身体を合わせる洋服とは異なり、布を身体に沿わせて着用する着物という衣服が身体に優しいということもわかる。布を身体に沿わせて着用する衣服は、着物に限らずインドの「サリー」やブータンの「キラ」など他国の民族衣装にも共通している。

6. 結論

(1)着物着用者の環境意識

ブログの記事では「環境意識」に分類される話題は少なかった。しかし意識していなくても「再利用」等の行動が着物着用生活には内在する。また着物を着ると「着物が似合う生活」をしたくなり、食物や生活空間に季節感を感じるものや日本らしいものを求めるようになる。

そもそも衣服の大量消費はファストファッションの文化によるもので、「流行が次々に変わること」「安く衣服が買えること」による。そのような性質とは真逆の性質を持つのが着物着用生活である。

対象 4 からは「ファストファッションに疲れた」「そんな若い世代の女性はたくさんいるはずで、そ

の一部が着物着用を始めている」という意見を得たが、対象 5・6 でも「着物を着るようになって洋服には何もいい所が無いことに気付いた」という意見を得た。着物を着用することによって客観的に見ることで洋服の無駄な部分に気付くと言える。

(2)日常生活に着物を組み込むこと

環境問題は人間が利便性を求めて研究・開発を繰り返した結果の副作用である。食物アレルギーや花粉症など、経済発展と技術開発で人間が作り出したものによって生まれたとされる疾病もある。身体に直接触れるものを見直すことでこれらは改善される場合もある。

本研究の対象者にも、着物以外にも自然素材にこだわったり、化粧品を天然由来の原料で手作りするといった生活行動が見られる。素材にこだわる生活、健康にこだわる生活のひとつが着物着用生活である。

日本人は既に洋服での生活に慣れて、それがあたかも必然的でもっとも快適な生活であるように感じている。しかし対象者から得た意見では洋服には「身体が冷える」「窮屈」「流行があつて数年で着たくなる」「個性に欠ける」「色や質感に鈍感になる」といった欠点がある。

身体に優しい生活をするのが豊かな感性を生むことにも環境に負荷を与えないことにも繋がる。

7. 本研究の限界と課題

本研究のブログ分析(話題の分類・話題の抽出)方法は、筆者の主観で行うしかない。基準を設けても主観が抜けきらず、「何度行っても」「誰が行っても」同じ結果が出るとは言えない。第三者の立場で行える分析方法の検討が必要である。

また、研究の対象者が少なく、属性も偏っていた。サンプル数を上げ、男女・年代・職業・家族構成など様々な属性比較を行えることが望ましい。

8. 参考文献

- 1) 杉本弘子:衣服のリユース-着物の創造的なリユースの視点から-,日本衣服学会誌,48(1),17-22(2004)
- 2) 日本科学繊維協会統計資料 <<http://www.jcfa.gr.jp/f7-stat/statistics.html>>,2008_11_28
- 3)植田栄二 他:環境学総論-地球・社会・思想・情報・メディア-,同文館,27-28(2001)
- 4)小池三枝 他:概説 日本服飾史,光生館(2000)
- 5) 日本ブログ村<<http://www.blogmura.com/>>,2009_5_3
- 6) 元気情報発信基地びいめ～る web 版 <<http://www.bmail.gr.jp/>>,2009_4_26
- 7) 武内 孝:居住地と環境学習充実度からみた小学校における体験型環境学習のあり方に関する研究-『湖の子』を事例として-,滋賀県立大学学位論文,15(2001)

目次

第1章 序章

1-1 研究の背景	1
1-1-1 環境学の視点から見た「衣(clothing)」	1
1-1-2 衣料のライフサイクルと着物	1
1-2 着物への着目	3
1-2-1 現在の着物	3
1-2-2 現在の着物着用と着物離れ	4
1-2-3 着物着用者の環境意識	5
1-2-4 着物に関する既往研究	6
1-3 ウェブログへの着目	6
1-3-1 ウェブログとは	6
1-3-2 ブログ記事に焦点を当てること	7
1-3-3 ブログに関する既往研究	7
1-4 本研究の目的・意義	8

第2章 研究の方法

2-1 研究の構成	11
2-2 対象の選定	12
2-3 言葉の定義	12
2-4 ブログ分析手順	13
2-4-1 話題分類	13
2-4-2 話題想起率	16
2-4-3 話題相関図	16
2-5 表現抽出	18
2-6 アンケート	18
2-7 分析・考察	18

第3章 対象概要

3-1 対象1	21
3-2 対象2	22
3-3 対象3	24
3-4 対象4	25
3-5 対象5	26

3-6 対象6	27
3-7 対象ブログの比較	28

第4章 対象別ブログ分析

4-1 対象1「ほぼ日刊？着物新聞」	33
4-1-1 単純集計	34
4-1-2 話題想起率	34
4-1-3 話題相関図	36
4-1-4 抽出した表現	39
4-1-5 考察	40
4-2 対象2「キモノは別腹」	42
4-2-1 単純集計	43
4-2-2 話題想起率	44
4-2-3 話題相関図	45
4-2-4 抽出した表現	48
4-2-5 考察	48
4-3 対象3「着物で一息♪ティータイム」	49
4-3-1 単純集計	50
4-3-2 話題想起率	51
4-3-3 話題相関図	52
4-3-4 抽出した表現	55
4-3-5 考察	56
4-4 対象4「ちくちくきもの」	57
4-4-1 単純集計	58
4-4-2 話題想起率	59
4-4-3 話題相関図	60
4-4-4 抽出した表現	63
4-4-5 考察	64
4-5 対象5「丁髷 髪切り職人」	66
4-5-1 単純集計	67
4-5-2 話題想起率	68
4-5-3 話題相関図	69
4-5-4 抽出した表現	72
4-5-5 考察	72
4-6 対象6「お気楽着物日和」	74
4-6-1 単純集計	75

4-6-2	話題想起率	76
4-6-3	話題相関図	77
4-6-4	抽出した表現	79
4-6-5	考察	79

第5章 対象間比較と着用者のパターン

5-1	項目ごとの比較	81
5-2	話題相関図の比較	87
	(1)秋(2008/9～2008/11)	87
	(2)冬(2008/12～2009/2)	91
	(3)春(2009/3～2009/5)	95
	(4)夏(2009/6～2009/8)	99
5-3	アンケートの比較	103
5-3-1	衣服消費	103
5-3-2	属性と着用者のパターン	104
	(1)性別	104
	(2)年代および着用歴	105
	(3)着物を着る目的	107
	(4)着物を着るようになったきっかけ	108

第6章 結論

6-1	着物着用と対象者の意識・行動	111
6-1-1	対象者に共通する意識・行動	111
	(1)季節による特徴	111
	(2)話題による特徴	111
	(3)着用者の特性による特徴	112
6-1-2	着用者の環境意識	114
6-2	ライフスタイルとしての着物	115
6-3	本研究の限界と課題	115

図表目次

【表】

表 1-1	主要国の一人当たり繊維消費量(2000 年データ)	1
表 1-2	衣料における環境配慮が可能な性質	2
表 1-3	着物における環境配慮が可能な性質	3
表 1-4	着物のきまり	4
表 1-5	着物を着ない要因「九ない」	5
表 1-6	着物初心者の意見による着物離れの要因	5
表 1-7	着物着用者に聞いた「着物の環境配慮の性質」	5
表 2-1	ブログ記事話題分類例	14
表 2-2	ブログ記事分類話題および定義一覧	15
表 2-3	クロス集計表 例	16
表 2-4	想起率によって求めたつながり 例	17
表 2-5	アンケート項目	18
表 3-1	対象 1 概要及びアンケート結果	21
表 3-2	対象 2 概要及びアンケート結果	23
表 3-3	対象 3 概要及びアンケート結果	24
表 3-4	対象 4 概要及びアンケート結果	25
表 3-5	対象 5 概要及びアンケート結果	26
表 3-6	対象 6 概要及びアンケート結果	27
表 3-7-1	各ブログの対象期間における記事数	28
表 3-7-2	各対象の記事分類話題一覧	30
表 4-1-1	「ほぼ日刊? 着物新聞」話題出現数	33
表 4-1-2	「ほぼ日刊? 着物新聞」話題想起率	33
表 4-1-3	「ほぼ日刊? 着物新聞」表現	39
表 4-2-1	「キモノは別腹」話題出現数	42
表 4-2-2	「キモノは別腹」話題想起率	42
表 4-2-3	「キモノは別腹」表現	48
表 4-3-1	「着物で一息 ♪ ティータイム」話題出現数	49
表 4-3-2	「着物で一息 ♪ ティータイム」話題想起率	49
表 4-3-3	「着物で一息 ♪ ティータイム」表現	55

表 4-4-1	「ちくちくきもの」話題出現数	57
表 4-4-2	「ちくちくきもの」話題想起率	57
表 4-4-3	「ちくちくきもの」表現	63
表 4-5-1	「丁髷 髪切り職人」話題出現数	66
表 4-5-2	「丁髷 髪切り職人」話題想起率	66
表 4-5-3	「丁髷 髪切り職人」表現	72
表 4-6-1	「お気楽着物暮らし」話題出現数	74
表 4-6-2	「お気楽着物暮らし」話題想起率	74
表 4-6-3	「お気楽着物暮らし」表現	79

表 5-1	ブログ記事分類話題一覧	82
表 5-2	季節によって想起率が変化する話題	86
表 5-3	話題相関図 つながりの凡例(回)	87
表 5-4	衣服消費に関するアンケート回答	103
表 5-5	対象者の性別	104
表 5-6	男女の着物の違い	104
表 5-7	対象者の年代と着用歴	105
表 5-8	着物を着る目的と衣服入手数	107
表 5-9	着物を着るようになったきっかけ	108

【図】

図 1-1	衣料のライフサイクル	2
図 2-1	本研究の構成および研究の流れ	11
図 2-2	話題相関図 例	17
図 3-1	全対象カテゴリー別話題出現数	31
図 3-2	全対象話題別話題出現数	31
図 3-3	全対象カテゴリー別話題想起率	32
図 3-4	全対象話題別話題想起率	32
図 4-1-1	「ほぼ日刊？着物新聞」カテゴリー別話題出現数	34
図 4-1-2	「ほぼ日刊？着物新聞」話題別話題出現数	34
図 4-1-3	「ほぼ日刊？着物新聞」カテゴリー別話題想起率	35

図 4-1-4	「ほぼ日刊？着物新聞」話題別話題想起率・・・・	35
図 4-1-5	「ほぼ日刊？着物新聞」話題相関図 秋・・・・	37
図 4-1-6	「ほぼ日刊？着物新聞」話題相関図 冬・・・・	37
図 4-1-7	「ほぼ日刊？着物新聞」話題相関図 春・・・・	38
図 4-1-8	「ほぼ日刊？着物新聞」話題相関図 夏・・・・	38
図 4-2-1	「キモノは別腹」カテゴリー別話題出現数・・・・	43
図 4-2-2	「キモノは別腹」話題別話題出現数・・・・	43
図 4-2-3	「キモノは別腹」カテゴリー別話題想起率・・・・	44
図 4-2-4	「キモノは別腹」話題別話題想起率・・・・	44
図 4-2-5	「キモノは別腹」話題相関図 秋・・・・	46
図 4-2-6	「キモノは別腹」話題相関図 冬・・・・	46
図 4-2-7	「キモノは別腹」話題相関図 春・・・・	47
図 4-2-8	「キモノは別腹」話題相関図 夏・・・・	47
図 4-3-1	「着物で一息♪ティータイム」カテゴリー別話題出現数・・・・	50
図 4-3-2	「着物で一息♪ティータイム」話題別話題出現数・・・・	50
図 4-3-3	「着物で一息♪ティータイム」カテゴリー別話題想起率・・・・	51
図 4-3-4	「着物で一息♪ティータイム」話題別話題想起率・・・・	51
図 4-3-5	「着物で一息♪ティータイム」話題相関図 秋・・・・	53
図 4-3-6	「着物で一息♪ティータイム」話題相関図 冬・・・・	53
図 4-3-7	「着物で一息♪ティータイム」話題相関図 春・・・・	54
図 4-3-8	「着物で一息♪ティータイム」話題相関図 夏・・・・	54
図 4-4-1	「ちくちくきもの」カテゴリー別話題出現数・・・・	58
図 4-4-2	「ちくちくきもの」話題別話題出現数・・・・	58
図 4-4-3	「ちくちくきもの」カテゴリー別話題想起率・・・・	59
図 4-4-4	「ちくちくきもの」話題別話題想起率・・・・	59
図 4-4-5	「ちくちくきもの」話題相関図 秋・・・・	61
図 4-4-6	「ちくちくきもの」話題相関図 冬・・・・	61
図 4-4-7	「ちくちくきもの」話題相関図 春・・・・	62
図 4-4-8	「ちくちくきもの」話題相関図 夏・・・・	62
図 4-5-1	「丁髷 髪切り職人」カテゴリー別話題出現数・・・・	67
図 4-5-2	「丁髷 髪切り職人」話題別話題出現数・・・・	67
図 4-5-3	「丁髷 髪切り職人」カテゴリー別話題想起率・・・・	68
図 4-5-4	「丁髷 髪切り職人」話題別話題想起率・・・・	68
図 4-5-5	「丁髷 髪切り職人」話題相関図 秋・・・・	70
図 4-5-6	「丁髷 髪切り職人」話題相関図 冬・・・・	70
図 4-5-7	「丁髷 髪切り職人」話題相関図 春・・・・	71

図 4-5-8	「丁髷 髪切り職人」話題相関図 夏	71
図 4-6-1	「お気楽着物暮らし」カテゴリー別話題出現数	75
図 4-6-2	「お気楽着物暮らし」話題別話題出現数	75
図 4-6-3	「お気楽着物暮らし」カテゴリー別話題想起率	76
図 4-6-4	「お気楽着物暮らし」話題別話題想起率	76
図 4-6-5	「お気楽着物暮らし」話題相関図 春	78
図 4-6-6	「お気楽着物暮らし」話題相関図 夏	78
図 5-1-1	想起率比較「きもの」	83
図 5-1-2	想起率比較「生地・素材」	83
図 5-1-3	想起率比較「道具」	83
図 5-1-4	想起率比較「着物」	83
図 5-1-5	想起率比較「着付け」	83
図 5-1-6	想起率比較「工夫」	83
図 5-1-7	想起率比較「和風」	84
図 5-1-8	想起率比較「伝統・文化・歴史」	84
図 5-1-9	想起率比較「和イベント」	84
図 5-1-10	想起率比較「洋服・洋物」	84
図 5-1-11	想起率比較「苦労・悩み」	85
図 5-1-12	想起率比較「手作り」	85
図 5-1-13	想起率比較「再利用」	85
図 5-1-14	想起率比較「他の着用者」	86
図 5-2-a	対象別話題相関図アイコン凡例(%)	87
図 5-2-b	全対象話題相関図アイコン凡例(%)	87
図 5-2-1	「ほぼ日刊？着物新聞」話題相関図 秋	87
図 5-2-2	「キモノは別腹」話題相関図 秋	88
図 5-2-3	「着物で一息♪ティータイム」話題相関図 秋	88
図 5-2-4	「ちくちくきもの」話題相関図 秋	89
図 5-2-5	「丁髷 髪切り職人」話題相関図 秋	89
図 5-2-6	全対象話題相関図 秋	90
図 5-2-7	「ほぼ日刊？着物新聞」話題相関図 冬	91
図 5-2-8	「キモノは別腹」話題相関図 冬	91
図 5-2-9	「着物で一息♪ティータイム」話題相関図 冬	92
図 5-2-10	「ちくちくきもの」話題相関図 冬	92
図 5-2-11	「丁髷 髪切り職人」話題相関図 冬	93
図 5-2-12	全対象話題相関図 冬	93

図 5-2-13	「ほぼ日刊？着物新聞」話題相関図	春	95
図 5-2-14	「キモノは別腹」話題相関図	春	95
図 5-2-15	「着物で一息♪ティータイム」話題相関図	春	96
図 5-2-16	「ちくちくきもの」話題相関図	春	96
図 5-2-17	「丁髷 髪切り職人」話題相関図	春	97
図 5-2-18	「お気楽着物暮らし」話題相関図	春	97
図 5-2-19	全対象話題相関図	春	98
図 5-2-20	「ほぼ日刊？着物新聞」話題相関図	夏	99
図 5-2-21	「キモノは別腹」話題相関図	夏	99
図 5-2-22	「着物で一息♪ティータイム」話題相関図	夏	100
図 5-2-23	「ちくちくきもの」話題相関図	夏	100
図 5-2-24	「丁髷 髪切り職人」話題相関図	夏	101
図 5-2-25	「お気楽着物暮らし」話題相関図	夏	101
図 5-2-26	全対象話題相関図	夏	102
図 5-3-1	対象 1 話題相関図	冬	105
図 5-3-2	対象 2 話題相関図	冬	105
図 5-3-3	対象 3 話題相関図	冬	105
図 5-3-4	対象 4 話題相関図	冬	105
図 6-1	対象 1 の流れ		113
図 6-2	対象 2 の流れ		113
図 6-3	対象 3 の流れ		113
図 6-4	対象 4 の流れ		114
図 6-5	対象 5 の流れ		114
図 6-6	対象 6 の流れ		114

第 1 章 序章

第1章 序章

1-1 研究の背景

1-1-1 環境学の視点から見た「衣(clothing)」

社会の経済活動が大量生産・大量消費・大量廃棄型となり高度化するにつれ、資源採取から廃棄にいたる各段階での環境への負荷が著しくなった¹⁾。このような状況において、食・住に比べて衣服(Clothing)が環境問題として扱われることは少ない。

衣服は、大量生産・消費されるものの代表とも言える。衣服に限らず敷物や不織布なども含む日本の繊維消費量は一人当たり年間 20kg を超え、世界第 7 位である(表 1-1)。「環境学総論」³⁾によると、本来衣服着用の直接的目的は、①体温の調節、②外部からの身体の保護、③身体清潔の保持、④装飾として美しく見せる、権威をつけるため、などである。しかし現代の生活では、目的④が重要視される傾向が強いために、衣服の消費行動は拡大しやすく抑えにくい状態であり、環境配慮をすることが難しいと捉えられやすい。「女子大生の衣生活行動と環境意識との関係」⁴⁾によると、実際、環境保全や省資源問題に関心がある者でも、周囲にものがあふれていることに慣れた生活状態においては消費行動が資源・エネルギーの枯渇につながることに對して鈍感になる。また豊かで便利な個人の生活は失いたくないという本音もうかがわれるとされている。

表 1-1 主要国の一人当たり繊維消費量(2000 年データ)²⁾

国名	繊維消費量 (kg)	順位	国名	繊維消費量 (kg)	順位
アメリカ	33.3	1	イタリア	19.3	10
カナダ	26.6	2	サウジアラビア	19.1	11
シンガポール	26.5	3	フランス	17.5	12
韓国	24.8	4	スウェーデン	16.4	13
スイス	23.7	5	ロシア	9.0	14
イギリス	22.1	6	ブラジル	7.5	15
ドイツ	22.0	7	中国	6.2	16
日本	22.0	7	インドネシア	3.3	17
オーストラリア	21.5	9	インド	3.2	18

* 一人当たり繊維消費量＝国内市場への繊維換算の見掛け消費量／国の人口

見掛け消費量＝工場消費量＋輸入－輸出

1-1-2 衣料のライフサイクルと着物

そこで本研究では、繊維の製造から商品の加工、運搬、販売、使用、資源化、廃棄までの過程を図化した「衣料のライフサイクル」というものを考え(図 1-1)、その中で環境配慮が可能と考えられる項目を 8 つ挙げた(表 1-2)。

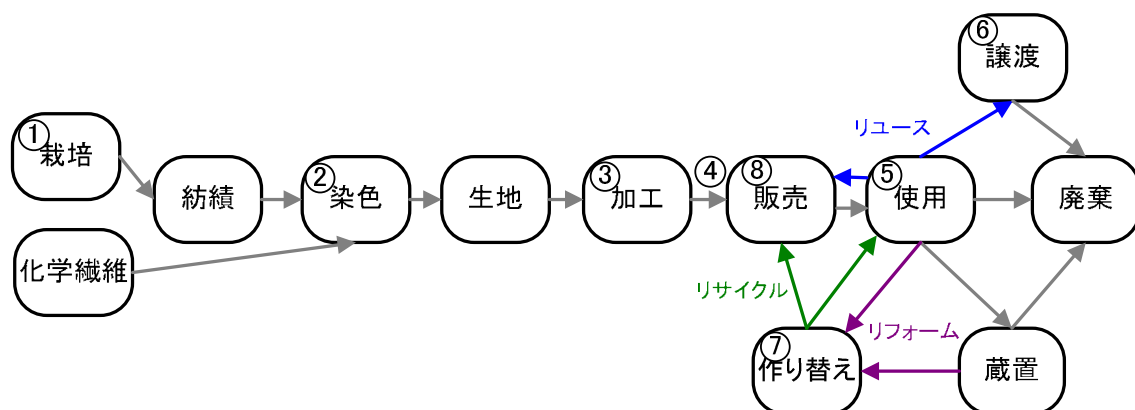


図 1-1 衣料のライフサイクル

表 1-2 衣料における環境配慮が可能な性質

①	自然素材の利用	化学繊維を使わない
②	自然染め	天然由来の染料を使用する
③	無駄のない加工	端切れを出さないまたは他のことに活用する
④	地産地消	運搬の費用やエネルギーの削減
⑤	長期的な利用	使い捨てにならない
⑥	リユース	譲渡等による再利用
⑦	リサイクル	他のものに作り替えて再利用する
⑧	リデュース	新調しない

衣服に関する環境配慮については、化学繊維のものよりも綿や麻といったオーガニックコットンを選ぶことや⁵⁾、フリーマーケットや個人間でのリサイクルやリユース、ファッション産業での取り組みなど上記の項目に対し個々に対応が見られる。企業ごとには「売上げの一部を植樹の基金にする」「製造過程の省資源化・効率化」などの取り組みがある^{6),7)}。

そこで注目するのが、「衣料のライフサイクル」における環境配慮が可能な8つの項目の性質を元々備えるとされる(表 1-3)「着物」である。着物は本来、日本製であり天然素材を使用する。端切れは一切出ず、サイズの微調整も容易とあって、長期どころか何世代にも渡って着ることが出来る。仕立直しや染め直しを経て、どうしても着なくなったら小物などに作り替え、おむつや雑巾としてぼろぼろになるまで使うという仕組みが昔から日本人の生活に組み込まれてきた⁸⁾。現在の着物着用者はそのライフスタイルや着物に対する姿勢がそれぞれ異なるため、これらの性質をどれだけ生かしているかは推し量ることができないが、日本の風土と生活様式に合わせて進化した着物という衣服を着ることにおいて、洋装の時とは異なる人々の意識や行動が存在すると考え、本研究では着物着用者の意識・行動に焦点を当てる。

表 1-3 着物における環境配慮が可能な性質

	衣料の環境配慮	着物の性質
①	自然素材の利用	絹・綿・麻・ウールなどの天然素材が主
②	自然染め	元々は植物染料・顔料を使用
③	無駄のない加工	和裁は端切れが出ず何度でも仕立て直しが可能
④	地産地消	全国に染物・織物の産地が併せて 100 以上あり、半数以上が伝統工芸品指定品目*
⑤	長期的な利用	サイズ調整が容易・流行がない
⑥	リユース	仕立て直し・染め直し・世代間でも譲渡できる
⑦	リサイクル	着物→帯・羽織・小物→おしめ・雑巾
⑧	リデュース	譲渡しやすい・息が長い

*元々着物は日本の風土に合わせて発展した衣服なので、各地に織物や染物の産地があり地産地消は当然であったが、近年では化繊のものや中国製を中心とした輸入品も増えている。

1-2 着物への着目

1-2-1 現在の着物

「概説 日本服飾史」⁹⁾によると、現在の着物の形が確立したのは江戸時代以降であり、着物の柄が一枚の絵になっているような模様小袖ではなく、渋い色合いや縞などの単調な模様が広まったのは江戸後期 1700 年代後半以降である。つまりそれ以前の庶民の着物には現在のような「おはしより」もなければ帯も無かったため、現在のものとは区別する必要がある。更に、着物の格が明確化し帯の結び方や着物の模様が現在のものになったのは明治以降、洋服や機械が日本に入ってきてからである。その後洋服へと次第に変化していく。

このように、着物は時代ごとに人々の生活に合わせて変化してきた。前述で明治時代以降に確立されたとした現在の着物着用は、表 1-3 に示した「着物のきまり」が一般的である。

「普段着」「お出かけ」「礼装」など着用の場面ごとに着る物が決まっており、紋の数や柄行によって格式も変わるため、着用目的に合わせて着物を選ぶ必要がある。嫁入り道具で着物を揃える際は、表 1-4 に載った各種着物を一着以上ずつ用意するのが一般的である。また、着物には季節による決まりもあり、大きく分けて冬(9 月～4 月)は袷、夏(5～8 月)は単のものを着用する。夏は浴衣も着用するし、季節や気候に合わせて生地で着物を選んだり季節感のある柄や色のものを着用する。季節や着用目的に合わせて足袋や半襟などの小物も変えることができる。

現在の着用者に関してはこの「着物のきまり」に忠実に着用している人と、普段着ではそれらのルールに捉われずに自由に着用している人がいる。後者では着物に使う生地や帯結びなど生活に適用しやすいように変化を続けている。

表 1-4 着物のきまり ¹⁰⁾

名称	特徴	用途	格
黒留袖	地色は黒で裾模様. 5つ紋. 既婚女性の第一礼装	結婚式や披露宴で, 仲人夫人や新郎 新婦の母親や親族が着用.	⬆ 上 ⬆
振り袖	袖丈の長さによって4段階に分かれる. 紋がつくと格が上がる. 「絵羽模様」が一般的. 未婚女性の第一礼装.	成人式や披露宴のお呼ばれ, その他 お祝い事に着用.	
色留袖	地色は黒以外で裾模様. 5つ紋で黒留袖と同格. 3つ・1つ紋で準礼装.	訪問着感覚で, 披露宴のお呼ばれや パーティーなどに着用.	
訪問着	豪華な絵羽模様. 紋をつけると準礼装になる.	社交着, 披露宴のお呼ばれ, パー ティー, お茶会, 節目のごあいさつなど	
付け下げ	柄行やコーディネートによって色々使えて便利. シ ンプルな柄が多いので, 上品な着こなしを求め るミセスにぴったり.	披露宴のお呼ばれからおしゃれ着ま で. TPOに合わせて使い分けできる.	
色無地	1色で無地染め. 紋の数やコーディネートで印象や格が大きく変 わる. 最も応用範囲が広い着物. 色や地紋, 生地の種類で吉事・凶事を区別.	3つ紋→披露宴やパーティ 1つ紋→茶席, 入学式, 七五三, 冠婚 葬祭など 紋無し→おしゃれ着	
小紋	同じ柄が全体に渡っている. ややカジュアルなおしゃれ着. 極小の江戸小紋などは格が高く, 紋をつけると 色無地と同じくらいの準礼装になる.	仲間内のパーティや観劇など. ちょっ としたお出かけに.	⬆ 下 ⬆
紬・御召 木綿・麻 ポリエステル	おしゃれ着や普段着として着られる. 染めや模 様によって高価なものもあるが, カジュアルなお しゃれ着という印象.	おしゃれ着, 普段着として. 訪問着や 付け下げ, 色無地, 小紋として着られ るものもあるが一般的でない.	
浴衣	木綿素材の最も身近でカジュアルな夏の着物. 昔, 入浴の時に身につけた「湯帷子」が語源.	普段の外出着の他, 上質な素材や染 めの浴衣地は, ちょっとしたお出かけ 着になる.	

1-2-2 現在の着物着用と着物離れ

1960 年代頃までは普段着として一般的に着られていた着物も, 現在ではほとんど見られなくなった. 着物を着ると言えば茶道や華道などと共に嗜みとして着付けを習う場合が多い. その場合も毎日着ることは少なく, 着用するものも正絹や紬などの高価なものが多く, 普段着として着られることが極端に減った.

「社団法人全日本きものコンサルタント協会」の会長であり「装道礼法きもの学院」の学院長でもある山中氏は, 武道や茶道のようにその道を追求するものとして「装道」を提唱した. 「和装」と「礼法」の日本の心を大切に, より豊かで美しい人生の創造を目指す

「装道」では、現在の着物離れの原因として「九ない」を挙げている(表 1-5)。

また、着物を着たことが無い者が数日間着用してみても感想からも着物離れにつながると考えられる要因を挙げた(表 1-6)。

これらの要因は、実際に着用をしたり形式に捉われすぎない着用をすることによって克服できるものも多い。また、そもそも着用に踏み切れないような原因もあるが、本研究により新たな着物の魅力を提言することができれば、着用を促すことができると考える。

表 1-5 着物を着ない要因「九ない」⁸⁾

自分では着られない	縫う喜びを知らない	縫えない
着物を伝える人がいない	選べない	着物の真価を知らない
値段が高くて買えない	しまうところがない	装っていく所がない

表 1-6 着物初心者意見による着物離れの要因¹¹⁾

恥ずかしい	しんどいイメージ	わからないことが多い
聞く人がいない	初期投資がかかる	動きにくい

1-2-3 着物着用者の環境意識

着物着用者が運営しているインターネット上の掲示板¹²⁾において「着物は環境に優しいと考えますか」と問いかけたところ、表のような回答が多数得られた。

表 1-7 着物着用者に聞いた「着物の環境配慮の性質」

着物本来の環境配慮
・反物を無駄なく使い、端切れが出ない ・体型や年齢の差をカバーできる ・着付けでサイズの調整が可能 ・仕立て直してサイズ変更が可能 ・染め替え ・「お下がり」が基本 ・一枚の着物でほとんどの季節をカバーできる ・帯や羽織に仕立て換え→座布団、巾着、雑巾、おしめ
着物着用によって生まれる環境配慮
・引張れても布が破れないように縫い目を粗くする ・スーパーの袋が似合わないのでマイ風呂敷を持ち歩く ・着ているだけで暖かいので暖房を使う時間が断然少ない（冷え性も緩和できる） ・洋服暮しの時より「汚さないで着る」ことが身に付く

着物着用者は、着物が本来持っている環境配慮の性質を認識しているだけでなく、着用

によって生活行動や所作に変化が生まれる．具体的には夏には涼しく冬は暖かいので冷暖房の使用が減ったり，着用を続けることで身体の代謝が上がり，冷え症が治ったり体調が良くなったりするようだ．これらの性質は，初心者意見や後述のブログ分析対象者からも同様に窺える．

1-2-4 着物に関する既往研究

① 「和服における着崩れについての考察」¹³⁾

和服を着た時には，当然動きに伴った変化が起き，着崩れが生じる．この着崩れの要因の一つとして，着物のサイズと体格・体型との不一致があると想定し，着装実験によって，着崩れは体格・体型といった身体に合わせたものがより少ない事を確認した．

② 「暑熱環境下における夏季和装着装時の衣服内湿温度」¹⁴⁾

着物は，多くの開口部があり構造上から見ても涼しげであるが体幹部は幾重にも覆われ，夏季には着心地を損ねていると考えられる．よって夏季和装の蒸れに関する実際の状態を把握する．夏季の和装は胸部・おおよび帯の中である上腹部において 90%を超える高い湿度が生じている．蒸れの度合は着物の素材によっても異なり，ポリエステルのものが最も高い(吸水性が低いため)．夏季の和装は，その構造上開口部は放熱の機能を果たし，特に大腿部の下降開口部にその影響が大きく見られる．

③ 「女子大学生の伝統服に関する意識と行動—日本とタイの比較—」¹⁵⁾

人びとの慣習から伝統服が遠ざかる中で最近改めて伝統服が見直されつつあるという背景のもと，日本とタイの伝統服の構造について明らかにし，更に両国の女子大学生を対象に，伝統服に対する意識や行動について，その共通点・相違点に着目しつつ，現代の若者の伝統服に対するイメージや伝統服着用とライフスタイルの関係性について明らかにしている．

着物に関する研究は，造形やデザインや縫製などその構造に関するものが主であり，その他に他国の伝統服との違いや昔との違いを考察したものがある．

1-3 ウェブログへの着目

1-3-1 ウェブログとは

ウェブログ(以下ブログ)とは，個人やグループで日記等の記録を公開するウェブサイトの総称である．公開範囲を制限することもあるが，第三者が容易に閲覧できる．インターネットの普及に伴いブログ作成の支援サイトや専用ツールが登場し，ウェブサイトの一形態として一般化した．更新・閲覧ともにパソコンでも携帯電話でも簡単に行える場合が多く，より一般的で身近なものとなっている．更に，時系列を追って調査することも容易にできる．

1-3-2 ブログ記事に焦点を当てること

日本を含め、現代の先進国においては、インターネットは手軽で便利な情報交換のツールとなっている。中でもブログは、日々の出来事を綴る日記の性格のみならず、人々の興味関心を特に限定して紹介するといった性質を持っている。ひとつの事物（例えば「着物」や「料理」）に関して、熟練した技術や経験や知識を持っている人も、初心者も、あるいはその事物に興味がない人でさえも、立場や年代を超えて情報を共有できる場となっている。何か新しいことを始めようとする際にも、他人のブログは掛替えのない情報源であり大きな影響力を持つものとも言える。

ブログ記事は、他者に読まれるという前提のもとで書かれるため、話を誇張したり、イメージが悪くなるようなことは書かないといったことがブロガー（ブログを書く人）の判断で行われる。そのため読者が記事の真偽を測ることは難しい。一方で、他者に読まれるという状態にあってもブログは自身のテリトリーであり、ブロガー自身が管理できることから自由な表記をしやすい。記事を丁寧に分析することで、日常の些細な気付きや、ブロガー自身も気付いていないような意識や行動を探ることができる考える。

またブログには、記事を遡って閲覧でき、分析をする際にも時系列に沿って記事を確認できるといった性質も備わっている。

1-3-3 ブログを対象とするにあたる留意点

ブログは、手軽に情報を発信し、また共有する場となっているが、その情報の信憑性は確保し難い。ブロガーは匿名性が高いので、ブログにおいて虚像を描くことも可能である。記事には嘘を書くことも、話を誇張することも、都合のいい話題のみを扱うこともできる。記事の内容を信じるかどうかは読者に任されることになるが、その情報から影響を受けることに変わりはない。さらに、本研究の対象はブログに自身の写真を載せたり、著者が連絡を取った際にアンケートに答えたり本名を明かすことについて協力的であったことから、ブログの信憑性もある程度確保され则认为る。

また、人によってブログに対する姿勢が異なるため、ブログにはブロガーの性質が強く影響する。本研究の対象においても、対象1の「ほぼ日刊？着物新聞」や対象2「キモノは別腹」は着物を着て外出することが記事の中心になっているし、対象3「着物で一息♪ティータイム」はコーディネートや小物の紹介から話が展開されている。対象4の「ちくちくきもの」は着物の着方や作り方を紹介することがブログの主な題材となっている。ブログ分析を進め、考察をする際には、このような違いを出来る限り考慮に入りたい。

そもそもブログを書いて公開することは「他者に読んでもらう」という前提がある。そのようなブログを書く人における独自の性質は本研究では扱わない。本研究では、着物着用者とそうでない者の比較およびブログを書く者とそうでない者の比較は行わず、ブログを書く着物着用者のブログ内容を深く追っていくものとする。

1-3-3 ブログに関する既往研究

ブログに関する既往研究には以下のようなものがある。

① 「心の状態と言語的特徴：ブログにおける商品紹介文の分析」¹⁶⁾

自然言語表現から、心的状態が言語表現に与える影響を捉えることを試みている。ブログ記事とアフィリエイト広告を対象として、広告の有無によって、言語表現に異なる特徴が現れるかを検討した。この結果、広告のある記事ほど、記事文中に書き手の受けた印象や雰囲気の記事が多くなり、さらに書き手の意見や印象を強調する表現が多く現れていた。

② 「蟻メタファーを用いたブロガーの興味推移の視覚化」¹⁷⁾

ブロガー(ブログ運営者)と蟻を対応付け、ブロガーの興味の推移を蟻が餌から餌へと移動していくというメタファーで表現し、ユーザの新たな興味発見を促すシステム「ARIBROS」について述べている。

③ 「ブログコミュニティにおける話題波及の検出の試み」¹⁸⁾

この論文では、ブログコミュニティ内で注目を集めている話題を抽出し、その波及を検出するシステムの開発を目指している。システムでは、ブログ記事をユーザごとに集計し、記事データからユーザをカテゴリに分類する。カテゴリごとに分類されたブログユーザ群をそのカテゴリのブログコミュニティとし、コミュニティ内のユーザが書いたブログ記事から、話題の盛り上がりを抽出する。次に、話題の盛り上がりが他のコミュニティに波及することを検出するという手法でシステムを構築している。

④ 「ブログ記事を用いた複数話題語間の動作関係抽出手法」¹⁹⁾

関連する二つの話題語を手掛りとして、動作主、動作対象、動作を記述する動作関係を抽出する手法を提案する。ここでいう話題語とは、最新のブログ記事中で特徴的に出現する固有名詞のことで、アルゴリズムによって自動的に抽出される。

このように、ブログ記事に関する研究にはブログ間の関係性やブログ記事内において特徴的に登場する語を扱うためのシステム作りの提案が多い。今後これらのシステムが一般化する可能性はあるが、ひとつのブログについて話題の関係性を詳しく探るものはまだ見られない。

1-4 本研究の目的・意義

本研究の目的を以下に示す。

- ① 着物着用者のブログ分析により、着物着用に基づく着用生活の性質を示す
- ② ブログ分析およびアンケート調査より得た対象者の特徴より、着物着用者の生活におけ

る意識・行動を明らかにする

- ③ 日常生活に着物を組み込む着用者の意識・行動より、衣・身体を基点とした消費生活の見直しを提案する

以上の目的を達成する事は、着物を用いた生活の魅力を再認識することにより、現代の生活を見直すきっかけとなる。

本研究の意義は、着物着用生活と消費生活の関係を導き出し、環境配慮のひとつの視点として提唱することで、着物への注目を促すことである。さらに、大量にものを消費することなく快適性や感性に富んだ生活を営むことができるということを主張する。

参考文献

- 1) 杉本弘子：衣服のリユース・着物の創造的なリユースの視点から-,日本衣服学会誌,48(1),17-22(2004)
- 2) 日本科学繊維協会：統計資料 < <http://www.jcfa.gr.jp/f7-stat/statistics.html> >,2008_11_28
- 3) 植田栄二,武本行正,小川東：環境学総論—地球・社会・思想・情報・メディア—,同文館,27-28(2001)
- 4) 高森寿：女子大生の衣生活行動と環境意識との関係,繊維機械学会誌,50(8),224-231(1997)
- 5) マイロハス：トピック < <http://www.mylohas.net/> >,2008_11_18
- 6) フェリシモ：環境への取り組み < <http://www.felissimo.co.jp/> >,2008_11_19
- 7) ユニクロ：CSR < <http://www.uniqlo.com/jp/csr/index.html> >,2008_11_19
- 8) 山中典士：一枚の布を道にして,講談社刊(1989)
- 9) 小池三枝 野口ひろみ 吉村佳子共著：概説 日本服飾史,光生館(2000)
- 10) 森荷葉：ひとりでキチッと着付け&帯結び,PHP,6-16(2005)
- 11) 浅井千穂：妖怪たちの語り場 < <http://tagasamasama.blog35.fc2.com/> >,2009_4_30
- 12) きくちいま：いまっぺーじ < <http://www.imappage.net/bbs/bbs.cgi> >,2008_12_09
- 13) 仲村洋子,羽生京子：和服における着崩れについての考察,和洋女子大学紀要,43,37-51(2003)
- 14) 数金昭見 笹本信子：暑熱環境下における夏季和装着装時の衣服内湿温度,日本衣服学会誌,49(1),39-45(2005)
- 15) 益本仁雄：女子大学生の伝統服に関する意識と行動—日本とタイの比較—,日本家政学会誌,58(12),771-780(2007)
- 16) 斉藤香里他：心の状態と言語的特徴：ブログにおける商品紹介文の分析,情報知識学会誌,19(2),144-151(2009)
- 17) 湊匡平他：蟻メタファーを用いたブロガーの興味推移の視覚化,情報処理学会研究報告.BIO,126,151-154(2008)

- 18)小阪有平他：ブログコミュニティにおける話題波及の検出の試み,情報処理学会研究報告.BIO,126,167-170(2008)
- 19)数原良彦他：ブログ記事を用いた複数話題語間の動作関係抽出手法,電子情報通信学会論文誌 D,3,619-627(2008)

第 2 章 研究の方法

第2章 研究の方法

2-1 研究の構成

本研究の構成を図 2-1 に示す。

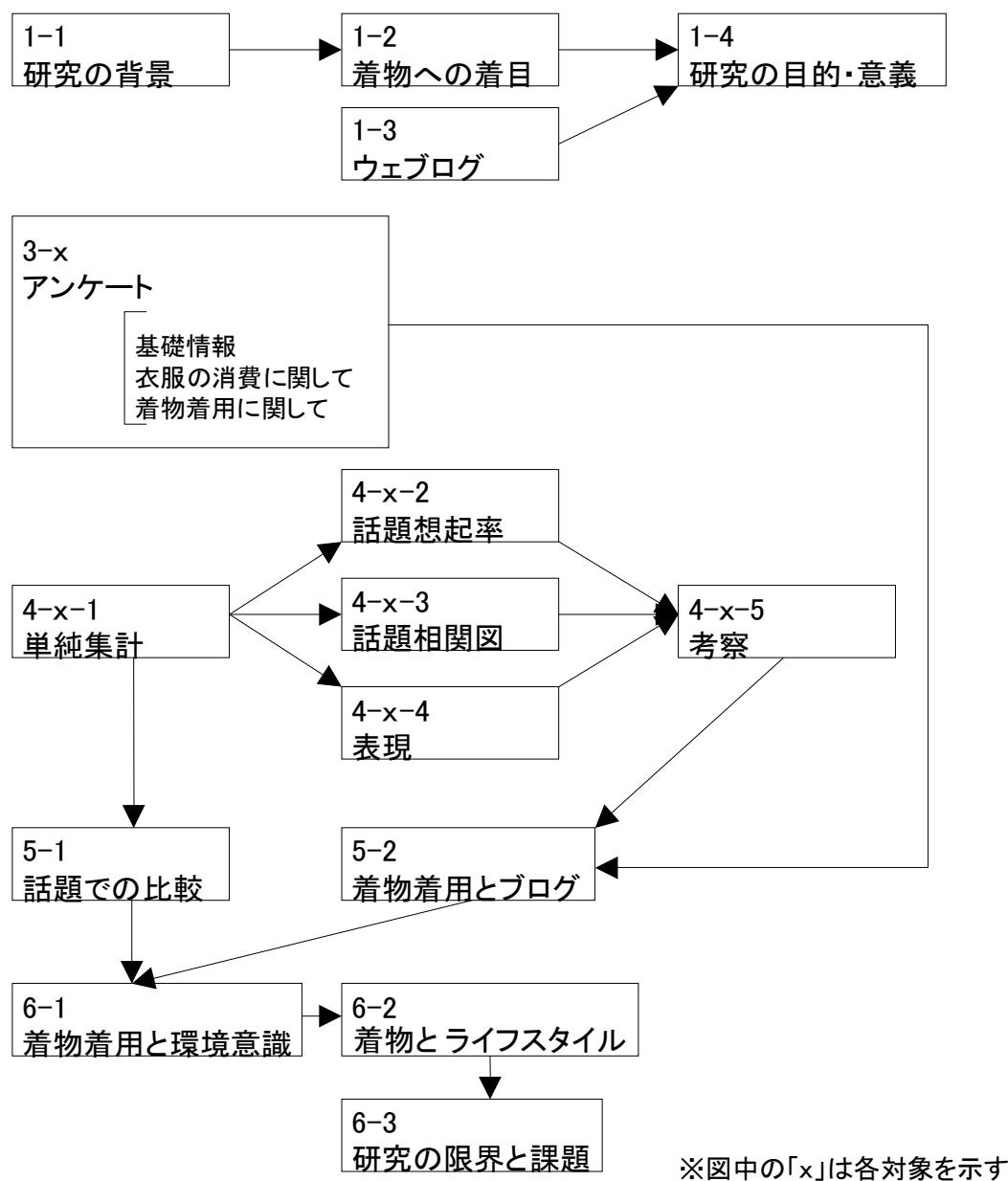


図 2-1 本研究の構成および研究のながれ

本研究では、着物着用者が普段どのような事を感じ、何に興味を持ち、他者にどのような事を伝えるのかといった日常生活の中での意識や行動を探るため、着用者が運営するブログを分析する。ブログ分析では、対象のブログを各記事で話題分類し、話題想起率および話題同士の相関関係を出す。対象の着用者の特性あるいは共通点を、話題の出現の仕方や話題同士のつながりから比較検討する。

「1-2-1 現在の着物」でも触れたとおり、着物は季節によって着る物が変わる。これは元々着物が四季がある日本の風土に合わせて進化したためである。したがって、季節によって気候が変わる以上、きまりごとに忠実な着用をするかしないかに関わらず着物着用は季節の影響を受けると考えられる。また、柄や色によって季節を表現するという着物の性質もあり、着物着用と季節感は関係性を持つ。よって、本研究のブログ分析は季節ごとに分けて行う。

また、着用者の生活や着物に対する姿勢や意見が述べられている表現を抽出していく。

アンケートでは着用者の属性や着物着用に関する質問を行い、その結果を話題出現の特性や表現に反映させて着用者のタイプを判別する。

2-2 対象の選定

分析に使用するブログは、ブログランキングから選定したものと、募集したものがある。着用者の着物着用頻度は「週1回以上一日の大半を着物で過ごすこと」とした。

前者は2009年1月の時点で「日本ブログ村¹⁾」の「呉服・着物」カテゴリで上位20位以内にあったブログの中から着用者の日常を詳しく書いてありブログ自体に仕事の宣伝等の性格が強くないものを選んだ。ランキングを使用したのは、できるだけ他者が閲覧する機会が多いことと更新頻度が高いことを期待したためである。

後者については、滋賀県内の女性を中心に出版されている「びいめ〜る²⁾」にて募集をかけた。研究の概要を説明したうえで着物を着用しブログを付けてくれる方を募った。この募集をきっかけに着物着用を開始する人を想定しての募集だったが、応募の3名は既に着物で生活してブログを付けている者であった。ブログの更新頻度や性質がランキングのブログとは異なるものもあるが、しかしこの3名は毎日着物着用をしており、かつ本研究の趣旨に興味を持ったことにより、環境への意識・意欲も高いと考えられ、着物着用と環境意識のつながりを見つけやすいことを期待した。

ブログランキングからは、募集によって決まった対象と同数の3つのブログを選んだ。

2-3 言葉の定義

「着物」：日本の歴史の中で時代や地域、階級によってその形態や性質が異なるため、現在着られている、明治時代以降の一般的なものを対象とし、その着方についても時代や個人にあった工夫を尊重する。

「着物着用者」：仕事着としてではなく自らの意思で着物を着用することを選択している人

とする。

「着物着用生活」：着物を着た状態で家事や食事をしたり，外出するといった生活行動を数時間以上するものとする。

「話題」：その単語が文章内に登場するだけでなく，それについての言及が成されていること，または文章の内容にその題材が扱われていることが読み取れることを要する。

話題分類の際に扱う項目は後述する。

2-4 ブログ分析手順

分析の対象期間は，対象の多くが研究実施時点でブログを付け始めて2年を経過していないことを考慮し，季節を網羅し，かつ研究の実施期間において最も新しいデータを得るために2008/9～2009/8の一年間とする。分析の手順は以下の通りである。

- 記事ごとに取り上げている話題进行分类する（話題項目は詳細にし，各対象者の特性を出しやすくする）
- 季節(9～11, 12～2, 3～5, 6～8月)を時系列的な区切りとして項目間でクロス集計表を出し，ソシオマトリックスを用いて話題相関図を作成する
- 季節ごとに話題想起率を算出する
- 表現の中で着物着用や生活に関して対象者の考えが表れている部分を抜粋し，考察する

2-4-1 話題分類

ブログは，対象者によって1日に何度も更新する場合もあるため，その場合それらはそれぞれ別の記事として扱う。ブログの話題を記事ごとに手作業で細かく分類した結果，各対象で45～50の話題に分類することができた。出来る限り同じ項目を用いているが，対象者によって異なる話題もあるので，使用した話題は71種類になった(表2-1)。話題の種類によってカテゴリーに分類したところ，「着物(物)」「着物(動作・意識)」「和(日本)」「自然」「食物」「生活行動」「交流・外出」「趣味・その他」の8つのカテゴリーに分けることが出来た。着物関連の話題は特に細かく分類したため種類が多いので「着物(物)」と「着物(動作・意識)」に分けた。着物以外の趣味や記事によく登場するものについては「趣味・その他」に分類した。

話題分類に使用したカテゴリーの定義を表2-2に，全話題とその定義一覧を表2-3にまとめる。

各記事ごとの分類は表のように1/0でデータの入力を行う。同じ記事において同じ話題を何度も扱っている場合も「1」とする。

表 2-1 ブログ記事話題分類例

記事 番号	年	月	日	き もの	生 地・ 素材	道 具	工 夫	防 寒・ 防暑	苦 労	姿 勢	教 室	目 標	着 物	ふ ん ど し	和 小 物	色	柄	着 物 文 化 検 定	文 化・ 習 慣	日 本 美 術	買 い 物	ネ ッ ト シ ョ ッ ピ ・ ン ク	手 作 り	再 利 用
1	2008	9	1																					
2			3												1								1	1
3			4																					
4			5																					
5			6																					
6			7	1																				
7			9												1								1	
8			10										1			1			1				1	
9			11																					
10			12												1								1	
11			12												1						1			

表 2-2 ブログ記事分類話題および定義一覧

着物（物）	きもの	物理的な着物そのものに対して文化や習慣、決まり事などきものの性質を指す
	生地・素材	着物に使われる生地や素材、またそれらの肌触りや特徴について
	道具	着付けに利用する道具 帯や紐、襦袢など
	本	着物や着付け、帯に関わる書籍
	着物	明治時代以降一般的に着られているものとその着方 浴衣やコートも含む
	ふんどし	ふんどし
	和小物	着付けに利用する小物 帯締め・帯留 風呂敷・鞆・半襟・髪飾り・足袋や下駄も含む
	色	着物や帯、和小物などの色
	柄	着物や帯、和小物などの柄
	着付け	着付けの方法
着物（動作・意識）	コーデ	コーディネート
	工夫	着付けや生地などの工夫点
	防寒・防暑	防寒・防暑のための技や物
	苦勞・悩み	着物着用の際の不便な点や困ること、悩みなど
	姿勢	体の構え
	特典	着物着用者への特典や和装品店のサービスなど
	教室	習い事の教室
	教室（教）	対象者が開いている教室
	目標	着物に関して設定された目標
	買い物	着物関連商品を買うことまたは購入を考えて 商品を探すこと
	ネットショッピング	着物関連商品のネットショッピング
	販売	対象者が作った着物関連商品の販売
	考え	きものに対しての考えや初心者へのアドバイスを記事としてまとめているもの
	手縫い	手縫い・裁縫・和裁
	仕立て	着物を新しく縫えること、仕立て直し、また仕立ての縫製や構造について
和（日本）	染色	着物や帯の染色作業
	普及	着物を広めようという意識や行動、閲覧者へのメッセージ
	和風	生活のなかに現れる、日本伝統の建物や物、暮らし方など
	文化・伝統	日本の文化や伝統、歴史などの説明や伝わっている物
	着物文化祭	「(社)全日本きもの振興会」が行う きものにまつわる歴史や文化についての知識を量る検定
	言葉	日本語 古い言葉 和歌など
	日本美術	歌舞伎や雅楽などの伝統芸能と、浮世絵などの日本画、焼物などの伝統工芸品など
	風物	ある土地や季節の特徴を表している事物
	茶道	茶道
	季節	春夏秋冬・時期・シーズン
自然	天気・気候	天気や気候
	花・植物	花や植物 柄も履む
	旬の食材	旬の食材
	料理	料理
食物	和食・和菓	和食・和菓子
	酒	酒
	食事・食べ	食事・食べ物
	ティータイム	お茶・おやつ・夜食
	鍋	鍋
	居酒屋	居酒屋
	ファーストフ	ファーストフード
	洋食	洋食
	手入れ	物を保存するため、あるいは継続して使うために手を掛けること
	手作り	物を自分で作ること
生活行動	手順	着付けや物を作る際の手順
	再利用	リユース・リサイクル
	環境配慮	いわゆる環境問題の話題や、資源を有効利用することや無駄のない生活、オーガニックなど
	活動的	着物を着て、自転車に乗ったり走ったり、長時間歩いたり活動的に動くこと
交流・外出	健康・身体	健康・体質・体型など
	ブログ	自身のブログや他者のブログ
	他の着用者	自分以外の着物着用者
	家族・友人	家族・友人
	和イベント	祭りや着物でのイベント、着物や日本美術品の展示会など
	他イベント	和イベント以外のイベント
	外出・旅行	外出・旅行・帰郷
	家事・育児	家事・育児
	寺社	寺や神社
	洋服・洋服	洋服や、西洋のしきたりや文化
趣味・その他	仕事	仕事内容や仕事の連絡事項
	宣伝	イベントや和装品店の宣伝
	時間	着付け等にかかる時間
	写真	写真
	丁髷	丁髷
	本(その他)	着物や着付け、帯に関わるもの以外の書籍
	マラソン	マラソン・ジョギング
その他	その他	その他

2-4-2 話題想起率³⁾

話題分類し、1/0 でデータ入力したものの合計が話題出現数になるが、各話題が記事全体に対しどれくらいの割合で出現するかを表したものが話題想起率である。話題想起率は次式によって求める。

$$\text{ある話題の話題想起率(\%)} = \frac{\text{期間内にその話題が出現した回数(話題出現数)}}{\text{期間内の対象の全記事数}} \times 100$$

求めた話題想起率をグラフにし、季節変化による話題の出現の変化を視覚的に見る。

2-4-3 話題相関図

話題を分類したエクセルデータをクロス集計すると、別の話題同士が同じ記事に登場した回数がわかる(表 2-3)。これではまだ話題出現数の全数の多少を考慮出来ないため、次式で求めた想起率を用いて話題同士のつながりの関係を用いる(表 2-4)。

想起率による話題(ア)(イ)のつながりの強さ(%)

$$= \frac{\text{話題(ア)と話題(イ)が同時に出現した記事数}}{\text{話題(ア)の話題出現数} + \text{話題(イ)の話題出現数}} \times 100$$

クロス集計、話題のつながりの計算、話題相関図の作成は、必要に応じて対象者ごと・全体それぞれについて季節ごとに行った。

表 2-3 クロス集計表 例

	きもの	生地・素材	道具	本	着物	和 小物	色	柄	着付け	コーデ	工夫	防寒・防 暑	苦 労・ 悩 み	得 典	教室(教)	買 い 物
きもの	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
生地・素材	0	0	1	0	2	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0
道具	0	1	0	2	1	0	0	0	4	0	2	2	0	0	1	0
本	0	0	2	0	1	0	0	0	2	0	0	0	1	0	1	0
着物	1	2	1	1	0	0	2	1	7	0	1	2	1	0	1	1
和 小物	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	1	1
色	0	0	0	0	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1
柄	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
着付け	1	1	4	2	7	2	1	1	0	0	3	3	0	0	3	0
コーデ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
工夫	0	1	2	0	1	0	0	0	3	0	0	2	0	0	1	0
防寒・防 暑	0	1	2	0	2	0	0	0	3	0	2	0	0	0	0	0
苦 労・ 悩 み	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
得 典	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
教室(教)	0	0	1	1	1	1	0	0	3	1	1	0	0	0	0	0
買 い 物	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0

表 2-4 想起率によって求めたつながり 例

	きもの	生地・素材	道具	本	着物	和物	色	柄	着付け	コーデ	工夫	防寒・防暑	苦労・悩み	得典	教室(教)	買い物
きもの	0	0	0	0	3	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0
生地・素材	0	0	7	0	6	0	0	0	4	0	11	13	0	0	0	0
道具	0	7	0	14	3	0	0	0	14	0	13	14	0	0	6	0
本	0	0	14	0	3	0	0	0	9	0	0	0	20	0	10	0
着物	3	6	3	3	0	0	7	3	15	0	3	6	3	0	3	3
和物	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	13	8	11
色	0	0	0	0	7	0	0	33	5	0	0	0	0	0	0	25
柄	0	0	0	0	3	0	33	0	5	0	0	0	0	0	0	0
着付け	4	4	14	9	15	8	5	5	0	0	13	13	0	0	12	0
コーデ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	0
工夫	0	11	13	0	3	0	0	0	13	0	0	22	0	0	9	0
防寒・防暑	0	13	14	0	6	0	0	0	13	0	22	0	0	0	0	0
苦労・悩み	0	0	0	20	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
得典	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33
教室(教)	0	0	6	10	3	8	0	0	12	13	9	0	0	0	0	0
買い物	0	0	0	0	3	11	25	0	0	0	0	0	0	33	0	0

求めた表を用いてソシオグラムで話題の相関関係を、フリーソフト「Ucinet 6 for Windows」を用いて図表化する(図 2-1)。これは、表 2-4 のような表を入力するとそれぞれの項目同士の相関を自動で作成するものである。この際、それぞれの項目(本研究においては「話題」)ごとのアイコンの大きさや色や位置、つながりを示す線の太さや色やどの程度示すかについては手動で変更する。本研究では、各話題を丸いアイコンで示し、カテゴリーによって色を、想起率によって大きさを変える。アイコンをつなぐ線は、話題のつながりを示し、つながりが強いほど線を太くしている。なお、対象ごとの相関図では、表 2-4 に示されたような話題のつながりの強さについて、14 以下のものは示さず、15～19 を緑、20～24 を赤紫、25 以上を黒で示し、全対象を併せた相関図では 9 以下のつながりは示さず、10～14 を緑、15～19 を赤紫、20 以上を黒で示した。ソシオグラムは本来人間関係あるいは集団構造を図表で表示したものであるが、本研究の話題相関図にも適用できると考えた。

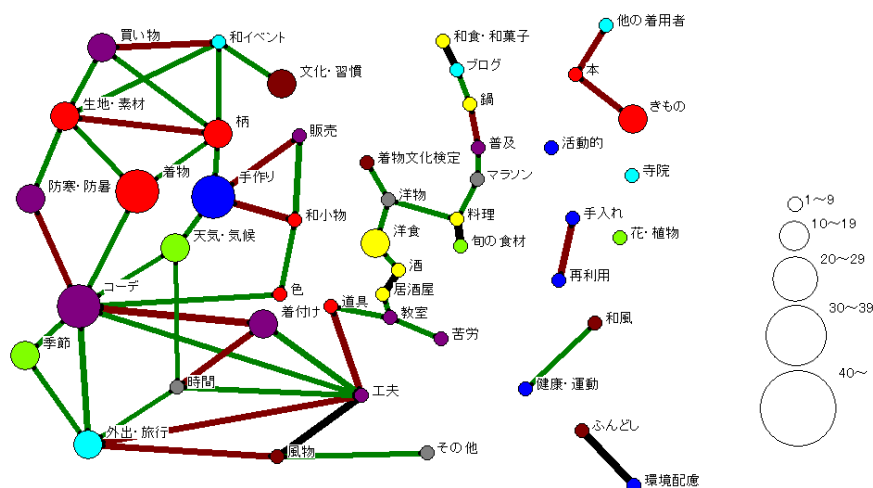


図 2-2 話題相関図 例

2-5 表現抽出

ブログ記事の表現の中で着物や生活に関して着用者の考えが表れている部分を拾い上げていく。この表現から、意識や着物着用による身体や感覚の変化など、着物着用者特有の意識を推察する。時系列的に見て変化が起こるのかどうかについても調査するが、これは着物着用歴が短い者に顕著に現れることを期待する。

2-6 アンケート

対象の着用者に対しアンケートを行った。表 2-5 はアンケート項目である。問 1～5 は着用者の基礎情報、以下は着物着用に関する問いである。

問 2, 3, 6, 7, 15, 16 の回答を元に「第 5 章 対象間比較と着用者のパターン」にて話題相関図および話題想起率の比較を行う。

問 8～14 は、着物と洋服の購入に関しての問いであり、対象者の着物着用が「布を消費する」という意味でどれほど効果的であるのかを検討する。

問 19～22 の回答は着物着用を広めるためにも、着物離れの要因を払拭するためにも役立つ参考資料になると考える。

表 2-5 アンケート項目

1	性別	(1.女 2.男)
2	年代	(1. 10～20代 2. 30代 3. 40代 4. 50代 5. 60代以上)
3	職業	(1.主婦 2.自営業 3.会社員・公務員 4.学生 5.その他)
4	出身地&居住地	(県名)
5	家族構成	
6	着物を着る頻度はどれくらいですか	(1.毎日 2.週3日以上 3.週1以上 4.月1～3回)
7	着物を着る目的は何ですか。または主に装っていく場所はどこですか	
8	普段着用の着物はシーズンごとに何着ほど着回しますか	(うちリサイクル品はどれくらいですか)
9	着物の購入(入手)は1年に何着程ですか	(うちリサイクル品はどれくらいですか)
10	着物の購入(入手)に1ヶ月にどれくらいの費用をかけますか	
11	着物の購入(入手)の割合は?	手作り:新品購入:古着購入:譲受=
12	洋服の購入(入手)は1年に何着程ですか	(うちリサイクル品はどれくらいですか)
13	洋服の購入(入手)には1ヶ月にどれくらいの費用をかけますか	
14	洋服の購入(入手)の割合は?	手作り:新品購入:古着購入:譲受=
15	着物を着るようになったきっかけは何ですか	
16	着物着用生活を始めて何年ですか	
17	どうして着物を着ようと思ったのですか(問15と重なる方は空欄で結構です)	
18	着物を着ようと思い、実際に着るまでに苦労したことや悩んだことは何ですか	
19	着物を着ることの楽しみは何ですか	
20	着物の長所・短所はどこですか	
21	洋服の長所・短所はどこですか	
22	着物を着るようになってご自身の中で変わったことはありますか	

2-7 分析・考察

分析および考察については、各対象者について行ったのち対象間で比較する。

各対象者の個別分析については話題相関図と話題想起率にどのような特徴があるかを考

察し，表現の内容やアンケートの結果と関連付けて着物着用と環境意識の関係性を検討していく．

対象間の比較については，対象のブログに共通して出てきた話題について着用者ごとの話題想起率を比較し，得られた結果および個人の分析結果とアンケートの間 2，3，6，7，15，16 の回答との関係を明らかにして着用者のパターンを探る．

参考文献

- 1) 日本ブログ村<<http://www.blogmura.com/>>,2009_5_3
- 2) 元気情報発信基地びいめ〜る web 版<<http://www.bmail.gr.jp/>>,2009_4_26
- 3) 武内 孝：居住地と環境学習充実度からみた小学校における体験型環境学習のあり方に関する研究－『湖の子』を事例として－,滋賀県立大学学士論文,15(2001)

第 3 章 对象概要

第3章 対象概要

3-1 対象1「ほぼ日刊？着物新聞」

表 3-1 対象1 概要及びアンケート結果

ブログ名	ほぼ日刊？着物新聞	
対象者	梅まり	
URL	http://plaza.rakuten.co.jp/mmarrri/	
対象選定方法	ブログランキング	
性別	女	
年代	30代	
職業	会社員	
出身地&居住地	神奈川&神奈川	
家族構成	夫・自身	
着物着用頻度	週1以上	
着物着用開始の年代	30代	
着物着用歴	2年	
着物を着る目的	ファッション	
主に装っていく場所	居酒屋, 映画, 和裁教室, 友達の家その他土日に出かける場所ほとんど.	
手持ちの普段着着物(リサイクル品)	4着 (1着)	
1年間の着物入手数(リサイクル品)	3着 (0着)	
着物入手のための年間費用	2万円	
手作り:新品購入:古着購入:譲受	5 : 5 : 0 : 0	
1年間の洋服入手数(リサイクル品)	15着 (0着)	
洋服入手のための年間費用	2, 3万円	
手作り:新品購入:古着購入:譲受	0 : 10 : 0 : 0	
着物着用のきっかけ	一人で着られるようになったから	
どうして着物を着ようと思ったか	友達が着られるようになったから. 潜在的に着物っていいなと思う気持ちがあったので, 自分もやろうと思った.	
実際に着るまでに苦労したことや悩んだこと	数知れず. 着付けに時間かかる, 絹は雨に弱い, 高い, 買いたいものが適正価格で見つけにくいなど.	
着物を着る楽しみ	ファッションとして, 組み合わせの楽しさ.	
着物の長所 短所		洋服より着るのに時間かかる. 洋服も着物も着てると金がかかる.
洋服の長所 短所	機能的.	
着物を着るようになって変わったこと	たくさん. 季節の移り変わりに敏感になったり, 日本文化に興味が出てきたり.	

[対象の特徴]

コーディネイト・料理・小物作り・外出など話題が多岐に渡り, ランキングでも常に上位である. 会社員であるため着用は週 1 日程度であるが, 着物に関する日記を書き溜めて

毎日更新している。

調査対象期間が着用開始から1年目～2年目であったため、まだ着物着用初心者であると言える。ファッションとして着物を着用しているので、主に装っていく場所は限られておらずどこにでも着用して出かける。着物と洋服では年間入手費用は同じくらいであるが入手数は着物3着、洋服1.5着と着物の方が多い。したがって、掛ける金額は洋服の方が高いと言える。

着物着用開始には、友人が着用できるようになったことが関わっており、共に着物を楽しむ友人がいることがわかる。

着物と洋服では洋服の方が機能的であると感じている。

3-2 対象2「着物は別腹」

[対象の特徴]

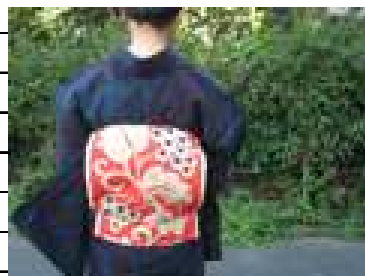
フリーのイラストレーターで、比較的着物を着やすい環境である。ブログは2名で運営しているが、本研究では「ひよさ」氏の記事のみを扱う。

外出・家族に関する記事が多く、10以上の記事に渡って同じ話題を綴ることが多い。仕事の話や着物での苦労話は意識的に避けている。

着用歴は23年と対象者の中で最も長く、自分で着物を揃えて着るようになる以前も子供の頃から着物を着せてもらったり、家族の中に着物着用者がいたり元々生活の一部に着物が存在していた。したがって装っていく場所が限られていなかったり、お下がりや古着のものへの愛着があったりと、着物による制限を感じない一方着物の性質を活かしている。週に2日程度の着用頻度なのに入手数も費用も洋服より着物のほうが多く、それだけ重要視しているとみえる。

洋服に関しては、手入れのし易さや雨に強い点で機能的であると感じているが、流行に左右されやすいという息の短さを指摘している。

表 3-2 対象 2 の概要およびアンケート結果

ブログ名	キモノは別腹	
対象者	ひよさ	
URL	http://studiokuubetsubara.blog69.fc2.com/	
対象選定方法	ブログランキング	
性別	女	
年代	40代	
職業	自営業	
出身地&居住地	広島&東京	
家族構成	自身・友人	
着物着用頻度	週2〜3回	
着物着用歴	23年くらい	
着物を着る目的	基本的には好きだからとしか言いようがない。あえて言うなら長い付き合いの出来る衣類だから。日本人の体系に良く似合う衣類だと思うし、袂や懐があって便利な衣類だとも思う。	
主に装っていく場所	行く場所は特に限られてない。着始めがお家着物だったので、日常着としても着るし、お出掛けの時にも着る。	
手持ちの普段着着物(リサイクル品)	20〜30着 (8割くらい)	
1年間の着物入手数(リサイクル品)	1〜10着 (9割くらい)	
着物入手のための年間費用	1〜4万円	
手作り:新品購入:古着購入:譲受	0.5 : 1 : 7 : 1.5	
1年間の洋服入手数(リサイクル品)	1〜3着 (3割くらい)	
洋服入手のための年間費用	〜5000円	
手作り:新品購入:古着購入:譲受	0.5 : 6 : 2.5 : 1	
着物着用のきっかけ	日常着として祖母が着ていたことが影響している。	
どうして着物を着ようと思ったか	子どもの頃から漠然と30代になったら着物で生活しようと考えていたが、10代後半の頃から古着を少しずつ集めるようになって、持ち物の数に比例して着る頻度も上がって行った。また、友人が着物に興味を持ってくれたことで、一緒に楽しむ仲間が出来たことも、着る機会が増える原因になった。	
実際に着るまでに苦労したことや悩んだこと	スタート時にはお金が少しだけ掛かること。自分の着たい状態にものを揃えるのには、それなりに時間を要した。あと、20年近く前は、簡単に手に入る情報が少なかったので、色々な点で、本当のところどうなの？他の人はどうしているの？ということが膨大にあった。	
着物を着る楽しみ	目的に合わせたコーディネートをすること。頂きものやお下がりのものについては、前の持ち主に対して思いを馳せることが出来るのも楽しみのひとつ。	
着物の長所 短所	1枚の着物で何通りにでも着られること。形が変わらないこと。何世代にも渡って長く着られること。解けば布に戻り、作り変えが効くところ。帯がコルセット代わりになって腰痛に良いこと。	洋服より手入れが難しい。激しい水仕事や運動には向かないこと。トイレには少しだけ行き難いこと。
洋服の長所 短所	手入れが簡単。雨や雪に強いこと。	流行に左右されやすいこと。
着物を着るようになって変わったこと	天気予報をよく見るようになった。	

3-3 対象3「着物で一息？ティータイム」

表 3-3 対象3 の概要およびアンケート結果

ブログ名	着物で一息 ♪ティータイム	
対象者	神田千鶴子	
URL	http://chizukokanda.blog5.fc2.com/	
対象選定方法	ブログランキング	
性別	女	
年代	40代	
職業	会社員	
出身地&居住地	東京・群馬&東京	
家族構成	本人, 父, 母, 弟	
着物着用頻度	週1以上	
着物着用歴	15年	
着物を着る目的	気分転換	
主に装っていく場所	習い事へ着ていく	
手持ちの普段着着物(リサイクル品)	16着 (1着)	
1年間の着物入手数(リサイクル品)	2着 (0着)	
着物入手のための年間費用	20000円	
手作り:新品購入:古着購入:譲受	4 : 2 : 0 : 4	
1年間の洋服入手数(リサイクル品)	5着 (0着)	
洋服入手のための年間費用	20000円	
手作り:新品購入:古着購入:譲受	0 : 10 : 0 : 0	
着物着用のきっかけ	着物の保管, 手入れの仕方を習うために着付け教室へ行ったこと	
どうして着物を着ようと思ったか	着てみたら, 思ったよりもよい気分転換になったから.	
実際に着るまでに苦労したことや悩んだこと	夏の暑さに悩みました.	
着物を着る楽しみ	絹の気持ち良さを感じる.	
着物の長所 短所	季節に敏感になること.	洗い張りや汗抜き, シミ抜きなどの費用が, 洋服よりも高額であること.
洋服の長所 短所	自分で気軽に洗えること.	皆似たような服装になってしまい, 個性に欠けること. 色や質感に鈍感になること.
着物を着るようになって変わったこと	着物に限らず洋服においても, 色, 素材, 質感に敏感になった.	

[対象の特徴]

着物コンサルタントの仕事をしており, 帯留の本を出版しているので, 話題はコーディネート・帯留が中心である. 時折, 着物着用初心者のためのアドバイスが見られる. ブログタイトルにもある通り, 飲み物や菓子の写真を載せて紹介するティータイムの話題も多い.

着用歴が長く, 気分転換として着物を生活に組み込んでいる. 着物と洋服の入手数が 2

着と5着で、着用頻度と一致している。

着物を着ることで素材の質感を感じたり季節に敏感になったりと感覚が鋭くなると考えており、洋服の欠点として個性に欠けることや感覚が鈍くなることを挙げている。

3-4 対象4「ちくちくきもの」

表 3-4 対象4の概要およびアンケート結果

ブログ名	ちくちくきもの	
対象者	湖藤	
URL	http://plaza.rakuten.co.jp/tikutikukimono/profile/	
対象選定方法	「びいめ〜る」による募集	
性別	女	
年代	20代	
職業	主婦	
出身地&居住地	京都&滋賀	
家族構成	本人・夫・子	
着物着用頻度	週3日以上	
着物着用歴	2年目	
着物を着る目的	楽しい・体調がよくなる	
主に装っていく場所	洋服でないといけなところ以外	
手持ちの普段着着物(リサイクル品)	シーズンごとに3〜5着 (0着)	
1年間の着物入手数(リサイクル品)	4〜5着 (0着)	
着物入手のための年間費用	10万(月5000〜10000)円	
手作り:新品購入:古着購入:譲受	7 : 2 : 0 : 1	
1年間の洋服入手数(リサイクル品)	3着 (0着)	
洋服入手のための年間費用	2〜3万円	
手作り:新品購入:古着購入:譲受	0 : 10 : 0 : 0	
着物着用のきっかけ	習い事をしたかった・洋服に疲れた	
どうして着物を着ようと思ったか	持っているものを着なきゃ	
実際に着るまでに苦労したことや悩んだこと	初期投資・教室選び・先入観がいつ抜けるか	
着物を着る楽しみ	洋服はテンション下がる・コンプレックスを感じなくて済む	
着物の長所	スパンが長い(←サイズ調整・流行り)・体調が良くなる・欲しいものを見つけやすい	初期投資・単価が高い
洋服の長所	安い・着やすい・選択の幅が広い	スパンが短い
着物を着るようになって変わったこと	所作(歩き方など)・肩のかたち	



[対象の特徴]

アフェリエイトの広告収入を得るために各記事の末尾に該当記事に関連する2〜3点の商品広告を載せている。それぞれの広告についてコメントも載っているが、全ての記事に等しく載っているため本研究の記事分析では商品広告の部分は扱わない。

家事や子育てをしながら着物を着ることや着物や小物の作り方，着付け等の手順を丁寧に掲載し，「他者に読んでもらうこと」を心がけている。

当該対象もブログランキングの上位に入っている。

対象1と同じく研究対象期間は着物着用開始から1～2年目であったので着物着用初心者である。着物を着る方が体調がよくなったり，洋服を着るとテンションが下がるという理由もあり着物着用の機会を意欲的に増やしている印象を受ける。

自分の体形にあった着物を，好きな布地で，洋裁と和裁を交えて手作りしており，そのこと自体が趣味になりブログ記事の中心にもなっている。

洋服のファストファッションに抵抗があることも着物着用の実施につながっているため，洋服は必要最小限しか買わない。

3-5 対象5「丁髷 髪切り職人」

表 3-5 対象5の概要およびアンケート結果

ブログ名	丁髷 髪切り職人	
対象者	髪切り職人	
URL	http://peluquero.shiga-saku.net/	
対象選定方法	「びいめ〜」による募集	
性別	男	
年代	30代	
職業	自営業	
出身地&居住地	滋賀&滋賀	
家族構成	本人・妻・母・妹	
着物着用頻度	毎日	
着物着用歴	4年	
着物を着る目的	普段着として	
主に装っていく場所	どこでも	
手持ちの普段着着物(リサイクル品)	シーズンごとに4～5着 (3～4着)	
1年間の着物入手数(リサイクル品)	5～6着 (5着)	
着物入手のための年間費用	5～6万円	
手作り:新品購入:古着購入:譲受	0 : 1 : 8 : 1	
1年間の洋服入手数(リサイクル品)	1着 (0着)	
洋服入手のための年間費用	1万円	
手作り:新品購入:古着購入:譲受	0 : 10 : 0 : 0	
着物着用のきっかけ	妻に影響されて	
どうして着物を着ようと思ったか	同上	
実際に着るまでに苦労したことや悩んだこと	帯結び・気軽に行ける着物屋さんがいない・高い	
着物を着る楽しみ	目立つ・着ることそのものが楽しい	
着物の長所	温かい・体形が気にならない・長年着られる	洗濯が少し大変
洋服の長所	なし	窮屈
着物を着るようになって変わったこと	昔のものや歴史に興味が出てきた・環境を意識するようになった	



[対象の特徴]

理容室の店主で、店の HP も兼ねているため店の話題もよく見られる。時折他者が更新することもあるがここでは扱わない。

着用頻度は毎日で、仕事をする際も着物や袴を着用している。着物だけでなく、「布団で寝ること」や「できるだけ自然由来のものを使うこと」「野菜中心の食生活を心掛けること」など日本人の元々の暮らしや化学製品に頼らない生活を営んでいる。

洋服に関してはいい所はなく着用すると窮屈であると感じているが、これは着物を着用して初めて気付いたことであつた。男性ということもあつてか着物着用ににかかる時間は 2 分程度で、洋服のボタンを留めるよりも帯を結ぶ方が早いとしており、他の対象者が着物の短所として挙げている「着用に時間がかかる」ことは感じていない様子である。

3-6 対象 6「お気楽着物暮らし」

表 3-6 お気楽着物暮らし

ブログ名	お気楽着物暮らし	
対象者	おきらくらくこ	
URL	http://plaza.rakuten.co.jp/okirakukimono/	
対象選定方法	「びいめ〜る」による募集	
性別	女	
年代	30代	
職業	主婦	
出身地&居住地	滋賀&滋賀	
家族構成	本人・夫・義母・義妹	
着物着用頻度	毎日	
着物着用歴	4年	
着物を着る目的	普段着として	
主に装っていく場所	どこでも	
手持ちの普段着着物(リサイクル品)	13着（11着）	
1年間の着物入手数(リサイクル品)	5着（4～5着）	
着物入手のための年間費用	5万円	
手作り:新品購入:古着購入:譲受	0：1：8：1	
1年間の洋服入手数(リサイクル品)	1着（0着）	
洋服入手のための年間費用	1万円	
手作り:新品購入:古着購入:譲受	0：10：0：0	
着物着用のきっかけ	好みに合う洋服が見つけにくかった・新聞で「着物には流行がなく、少々体形が変わってもずっと着られる」と読んだため	
実際に着るまでに苦労したことや悩んだこと	帯結び・初期投資	
着物を着る楽しみ	派手な色目でもあまり派手に感じない	
着物の長所	冬は暖かい・姿勢がよくなる	洋服よりは着るのに時間がかかる
洋服の長所	楽なところ	流行があって数年で着たくなる
着物を着るようになって変わったこと	洋服を着た時にお腹が冷える・冷えにくくなった	

[対象の特徴]

他の対象に比べ、更新頻度が低い。ブログ開始時期が 2009 年 2 月であるため、話題相関および話題出現率が春と夏のもののみを扱う。対象 5 の着用者とは夫婦であり、ともに元々環境意識が高いと言える。

着物着用に関して着用歴や目的などは対象 5 と同様である。手持ちの着物や入手に関してはそのほとんどが古着である。

「着物には流行が無く体形が変わってもずっと着られる」という性質に惹かれて着用を開始しており、流行があって数年で着たくなくなるという洋服の短所を指摘している。他の対象者同様、ファストファッションや大量生産、大量消費の洋服への抵抗があると感じられる。

3-7 対象ブログの比較

対象とする各ブログは、それぞれ以上のような特徴を持っている。着用歴はそれぞれ異なるが、いずれのブログも分析対象期間開始の 2008 年 9 月の時点で開設から 1 年未満である。よって経年変化を追うことはできないが、近年になってブログを始める人が急激に増えていることが確認できる。ブログランキングからの選定ではない対象 4 「ちくちくきもの」と対象 6 「お気楽着物暮らし」もブログランキングに参加している。他者に読まれているという実感を得ることでブログを書く意欲が増し、ブロガーにとって単にブログを書くだけでは感じない意義が生まれると考えられる。実際、ランキング投票バナー付近には、「励みになります」「クリックしてもらえると嬉しいです」といった言葉が見られることが多い。

表 3-7-1 各ブログの対象期間における記事数

	対象 1	対象 2	対象 3	対象 4	対象 5	対象 6	計
9～11 月	69	72	88	76	36		341
12～2 月	69	81	88	68	49		355
3～5 月	52	67	89	73	54	17	352
6～8 月	54	72	82	74	62	16	360
計	244	292	347	291	201	33	1408

ブログの更新頻度(表 3-7-1)を見てみると、対象 1～4 のブログは年間に 300 前後の記事を更新しており、週に 4～5 回程度の更新頻度である。対象 2 の季節ごとの記事数にばらつきがあるのは、別の者と交代で更新しているためであると考えられる。対象 3 はほぼ毎日の更新である。対象 5 は記事数がどんどん増加する傾向にある。

ブログ記事を話題別の分類した結果、各対象の話題は表 3-7-2 のようになった。なるべく

同じ話題を使用しているが、それぞれの特性に合わせて特に「着物(動作・意識)」カテゴリーや「趣味・その他」カテゴリーの話題は異なっている。

表 3-7-2 各対象の記事分類話題一覧

	着物新聞	キモノは別腹	ティータイム	ちくちくきもの	丁髷	お気楽着物日和
着物(物)	きもの	きもの	きもの	きもの	きもの	きもの
	生地・素材	生地・素材	生地・素材	生地・素材	生地・素材	生地・素材
	道具	道具	道具	道具	道具	道具
	本	本	本	本	本	本・記事
	着物	着物	着物	着物	着物	着物
	ふんどし				ふんどし	
	和小物	和小物	和小物	和小物	和小物	和小物
	色	色	色	色	色	色
着物(動作・意識)	柄	柄	柄	柄	柄	柄
	着付け	着付け	着付け	着付け		着付け
	コーデ	コーデ	コーデ	コーデ	コーデ	コーデ
	工夫	工夫	工夫	工夫	工夫	工夫
	防寒・防暑	防寒・防暑	防寒・防暑	防寒・防暑	防寒・防暑	防寒・防暑
	苦労	苦労・悩み		苦労・悩み	苦労	苦労
	姿勢					
				得典		
	教室	教室	教室	教室(習)		
				教室(教)		
	目標					
	買い物	買い物	買い物	買い物	買い物	買い物
	ネットショッピング			ネットショッピング		ネットショッピング
	販売		販売			
和(日本)			考え	考え		
		仕立て		手縫い		
			仕立て			
	普及	普及	普及(アドバイス)	普及	普及	
	和風	和風	和風	和風	和風	和風
	文化・習慣	文化・習慣・伝統・音	文化・伝統・歴史	文化・伝統・歴史	文化・習慣	文化・習慣
	着物文化検定					
		言葉			言葉	
	日本美術	日本美術		日本美術	日本美術	
	風物	風物	風物	風物	風物	
自然		茶道				
	季節	季節	季節	季節	季節	季節
	天気・気候	天気・気候	天気・気候	天気・気候	天気・気候	天気・気候
食物	花・植物	花・植物	花・植物	花・植物	花・植物	花・植物・自然
	旬の食材	旬の食材	旬の食材		旬の食材	旬の食材
	料理				料理	料理
	和食・和菓子	和食・和菓子	和菓子	和食・和菓子	和食・和菓子	
	酒				酒	
		食事・食べ物	食事	食事・食べ物	食べ物	食事
			ティータイム			
	鍋					
	居酒屋					
	ファーストフード					
生活行動	洋食	洋食			洋食	
	手入れ	手入れ	手入れ	手入れ	手入れ	手入れ
	手作り	手作り	手作り	手作り	手作り	手作り
				手順		
	再利用	再利用	再利用	再利用	再利用	再利用
	環境配慮		環境意識	環境配慮	環境配慮	環境配慮
	活動的	活動的	活動的	活動的	活動的	活動的
	健康・運動	健康・からだ	健康・からだ	健康・からだ	健康・運動	健康・運動
交流・外出	ブログ	ブログ	ブログ	ブログ	ブログ	ブログ
	他の着用者	他の着用者	他の着用者	他の着用者	他の着用者	他の着用者
		家族・友人	家族・友人	家族・友人		
	和イベント	和イベント	和イベント	和イベント	和イベント	和イベント
	他イベント	他イベント	他イベント	他イベント	他イベント	
	外出・旅行	外出・旅行	外出・旅行	外出・旅行	外出・旅行	外出・旅行
				家事・育児		
趣味・その他	神社	神社	神社	神社	神社	神社
	洋物	洋物	洋服	洋服	洋物	洋物
		仕事			仕事連絡	
		宣伝	宣伝	宣伝		
	時間			時間		
						写真
					丁髷	
					本(その他)	
その他	マラソン					
	その他	その他	その他	その他	その他	その他

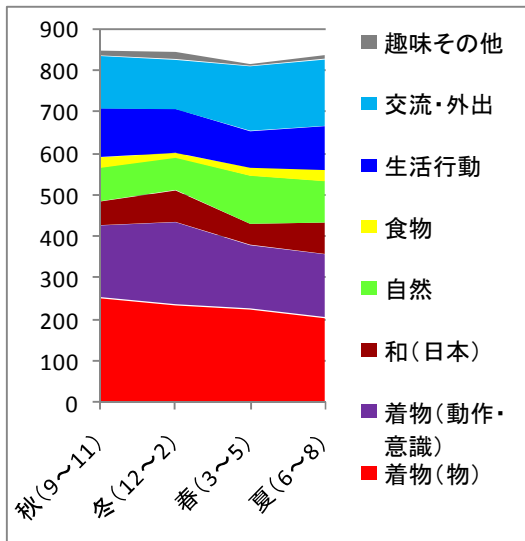


図 3-1 全対象カテゴリー別話題出現数

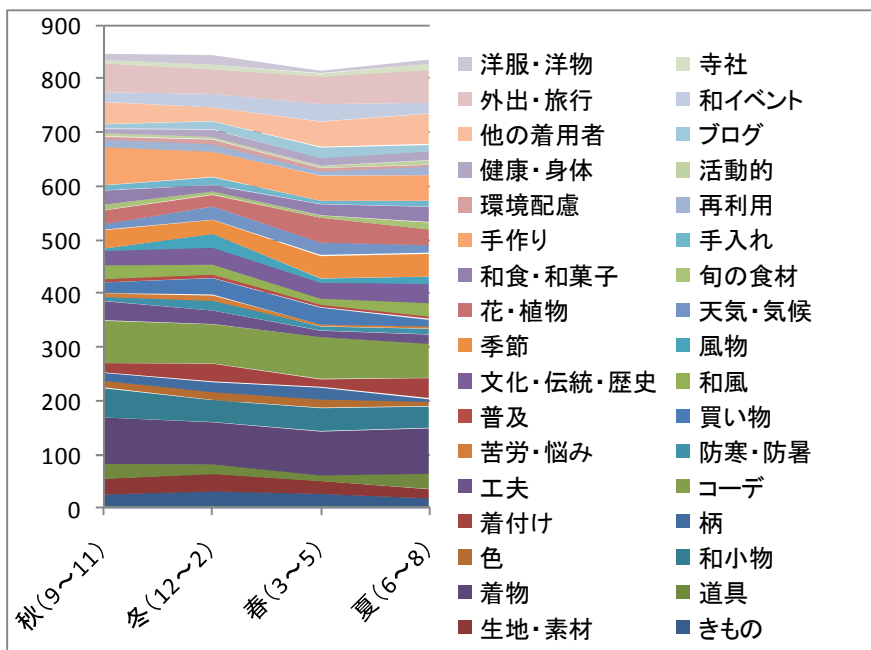


図 3-2 全対象話題別話題出現数

全対象の話題出現数を合わせたものを図 3-1, 3-2 に示す. なお, この話題は全対象に共通して現れた話題のみを示している. カテゴリー別には「着物(物)」「着物(動作・意識)」が多く, 次いで「自然」「生活行動」「交流・外出」が多くなっている. 「食物」や「和(日本)」の話題は少ない. 話題別には「着物」「コーデ」「手作り」「外出・旅行」が多い.

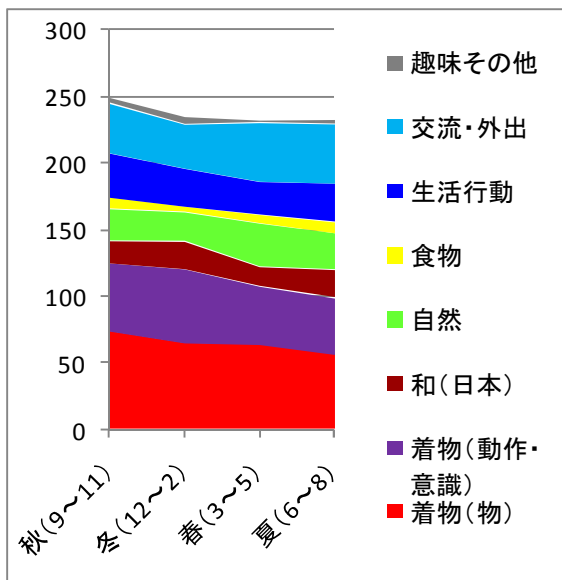


図 3-3 全対象カテゴリー別話題想起率

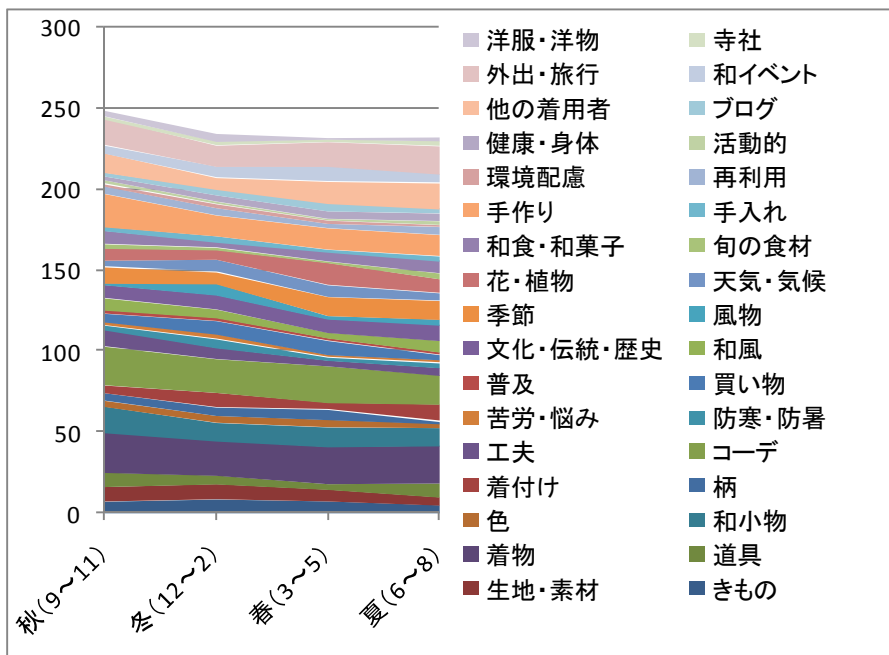


図 3-4 全対象話題別話題想起率

全対象の話題想起率を合わせたものを図 3-3, 3-4 に示す。なお、この話題は全対象に共通して現れた話題のみを示している。カテゴリー別も話題別も話題出現数と同様の図になっている。話題想起率のグラフのほうが右肩下がりになっているのは、記事数が若干増えているのに対し話題出現数が変化していないためであると考えられる。

第4章 対象別ログ分析

第4章 対象別ブログ分析

4-1 対象1「ほぼ日刊?着物新聞」

表 4-1-1 「ほぼ日刊?着物新聞」話題出現数

季節	秋(9～11)	冬(12～2)	春(3～5)	夏(6～8)
記事数	69	69	52	54
きもの	5	7	5	4
生地・素材	3	12	5	4
道具	1	3	2	8
本	0	3	1	4
着物	20	19	11	16
ふんどし	5	3	1	1
和小物	22	12	11	8
色	2	6	4	2
柄	3	7	3	1
着付け	0	10	5	6
コーデ	16	19	14	8
工夫	12	6	1	3
防寒・防暑	1	11	4	3
苦勞	2	3	2	3
姿勢	1	0	0	0
教室	3	3	6	2
目標	3	0	1	0
買い物	7	10	7	3
ネットショッピング	5	0	1	0
販売	3	4	4	1
普及	0	1	1	0
和風	1	3	7	10
文化・習慣	5	7	5	10
着物文化検定	6	1	0	1
日本美術	4	0	1	3
風物	4	6	1	3
季節	10	11	8	7
天気・気候	4	8	7	4
花・植物	6	4	8	8
旬の食材	5	5	4	8
料理	9	6	3	6
和食・和菓子	6	2	4	6
酒	2	5	3	5
鍋	3	4	0	0
居酒屋	2	3	0	3
ファーストフード	1	0	0	1
洋食	3	7	5	3
手入れ	0	3	1	3
手作り	19	15	8	10
再利用	5	6	1	0
環境配慮	0	1	0	3
活動的	1	3	1	3
健康・運動	1	3	1	1
ブログ	3	2	4	0
他の着用者	3	2	9	9
和イベント	5	5	6	3
他イベント	2	0	1	3
外出・旅行	2	8	6	16
寺院	1	1	1	4
洋物	5	5	1	2
時間	0	5	2	0
マラソン	7	5	1	0
その他	3	5	2	4

表 4-1-2 「ほぼ日刊?着物新聞」話題想起率

季節	秋(9～11)	冬(12～2)	春(3～5)	夏(6～8)
きもの	7	10	10	7
生地・素材	4	17	10	7
道具	1	4	4	15
本	0	4	2	7
着物	29	28	21	29
ふんどし	7	4	2	2
和小物	32	17	21	15
色	3	9	8	4
柄	4	10	6	2
着付け	0	14	10	11
コーデ	23	28	27	15
工夫	17	9	2	5
防寒・防暑	1	16	8	5
苦勞	3	4	4	5
姿勢	1	0	0	0
教室	4	4	12	4
目標	4	0	2	0
買い物	10	14	13	5
ネットショッピング	7	0	2	0
販売	4	6	8	2
普及	0	1	2	0
和風	1	4	13	18
文化・習慣	7	10	10	18
着物文化検定	9	1	0	2
日本美術	6	0	2	5
風物	6	9	2	5
季節	14	16	15	13
天気・気候	6	12	13	7
花・植物	9	6	15	15
旬の食材	7	7	8	15
料理	13	9	6	11
和食・和菓子	9	3	8	11
酒	3	7	6	9
鍋	4	6	0	0
居酒屋	3	4	0	5
ファーストフード	1	0	0	2
洋食	4	10	10	5
手入れ	0	4	2	5
手作り	28	22	15	18
再利用	7	9	2	0
環境配慮	0	1	0	5
活動的	1	4	2	5
健康・運動	1	4	2	2
ブログ	4	3	8	0
他の着用者	4	3	17	16
和イベント	7	7	12	5
他イベント	3	0	2	5
外出・旅行	3	12	12	29
寺院	1	1	2	7
洋物	7	7	2	4
時間	0	7	4	0
マラソン	10	7	2	0
その他	4	7	4	7

対象1「ほぼ日刊？着物新聞」の話題一覧と各季節の記事数、話題出現数は表4-1-1の通りである。他の対象に比べ、「食物」カテゴリーの話題の種類が多く、趣味のマラソンの話題がある。

4-1-1 単純集計

全体の記事数は春・夏に少し減っているが、話題については図4-1-1の着物に関する話題(赤・紫)が減り「和(日本)」「茶」や「交流・外出」カテゴリー(水色)が増えている。また、黄色の「食物」カテゴリーの話題が多くなっている。

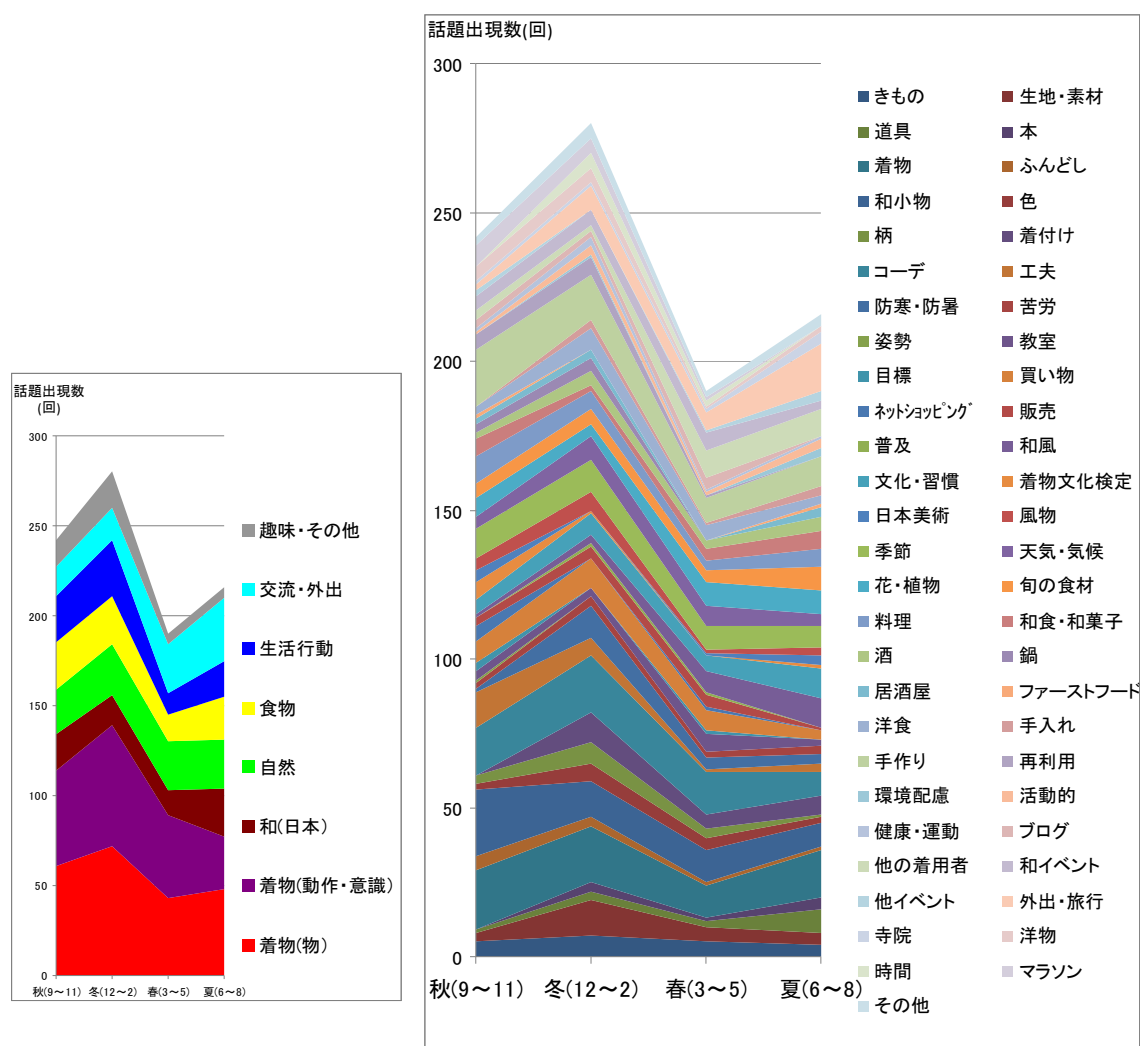


図4-1-1「ほぼ日刊？着物新聞」カテゴリー別話題出現数(左)

図4-1-2「ほぼ日刊？着物新聞」話題別話題出現数(右)

4-1-2 話題想起率

先の記事数と話題出現数を元に話題の話題想起率を算出した(表4-1-2).

図 4-1-4 の各話題の想起率を見ると、全体的に大きな偏りが無く、多岐に渡った話題にバランスよく触れているのがこの対象の特徴である。その中で他の話題より比較的多く登場するのは「着物」「和小物」「手作り」である。

季節によって変化したと考えられる話題は「生地・素材」「色」「柄」「防寒・防暑」である。「花・植物」や「旬の食材」といった自然に関する話題は季節が関わっているかどうかは定かではないが徐々に増加する傾向にある。

時間が進むにつれ増加傾向にあるのは「和風」や「文化・習慣」「他の着用者」「外出・旅行」で、着用開始から 1 年以上経ち慣れてきたところで、着物に限らず日本のことに意識が向いていることや、着用やブログを通して他の着用者との交流が増えたことが示唆される。反対に「手作り」「再利用」の二つの話題は若干減少傾向にあるが、変化の仕方が似ていることから関係があることが窺える。生活の中の変化(教室に通い始めた、手作りの小物を販売し始めた)に伴い関連する話題(「着付け」「教室」「販売」)が急激に増え、次第に落ち着いていくという動きがある。

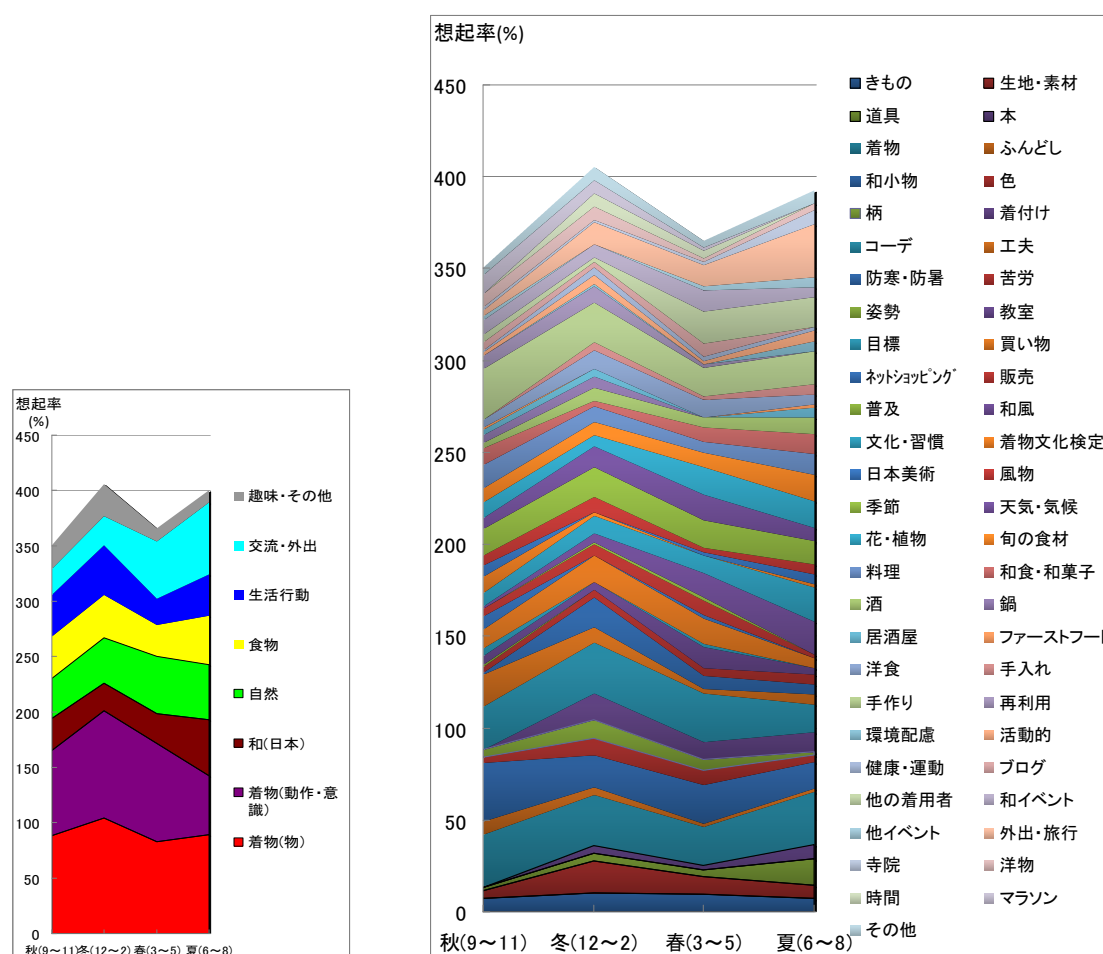


図 4-1-3 「ほぼ日刊？着物新聞」 カテゴリー別話題想起率(左)

図 4-1-4 「ほぼ日刊？着物新聞」 話題別話題想起率(右)

4-1-3 話題相関図

話題相関図の特徴

- 話題が豊富なので繋がりもたくさん見られる
- 冬と夏で特に複雑な形になっている
- 茶色の「和(日本)」カテゴリーの話題が秋にはほとんど見られないが次第に増える
- 赤と紫の着物に関する話題は次第に減る
- 「和小物」「販売」「手作り」が多くなるが夏には収まる
- 「他の着用者」が増える
- 話題数はほとんど変わらないが想起率が高い話題が増える(図の大きい円が増える)

梅まり氏は着用初心者であるため話題が豊富で、対象期間中の変化も顕著に表れている。大きくは、「着物(物)」や「着物(動作・意識)」カテゴリーの着物関連の話題の割合が減り、「和(日本)」と「交流・外出」カテゴリーの話題が増える。つながりも、5つ以上の他の話題とつながる話題が次第に増え、ひとつの記事に様々な話題を書いていることがわかる。

図 4-1-5 の秋は、着物関連の話題同士や「自然」カテゴリーの話題同士のつながりが多い。この時は「和(日本)」の話題は想起率が低く強いつながりも少ない。

図 4-1-6 の冬は対象者が自分で作った和装小物の販売を開始したので「販売」の話題が登場し、「和小物」「手作り」と繋がる。「コーデ」と「工夫」の話題がたくさんの話題とつながり、「着付け」や「外出・旅行」「季節」というつながりの相手から、冬は着物着用を多様に工夫したりコーディネート幅が広がるということを裏付けている。

図 4-1-7 の春には「販売」「和小物」「手作り」のつながりが強くなる。同時に、「他の着用者」の想起率が高くなり「和小物」「販売」とつながっているが、これは小物の販売によって他の着用者との交流が多くなっていることを示している。

図 4-1-8 の夏はそれまでと異なり「生地・素材」と「道具」がたくさんの話題とつながり、中でも「食物」カテゴリーの話題とのつながりが強い。

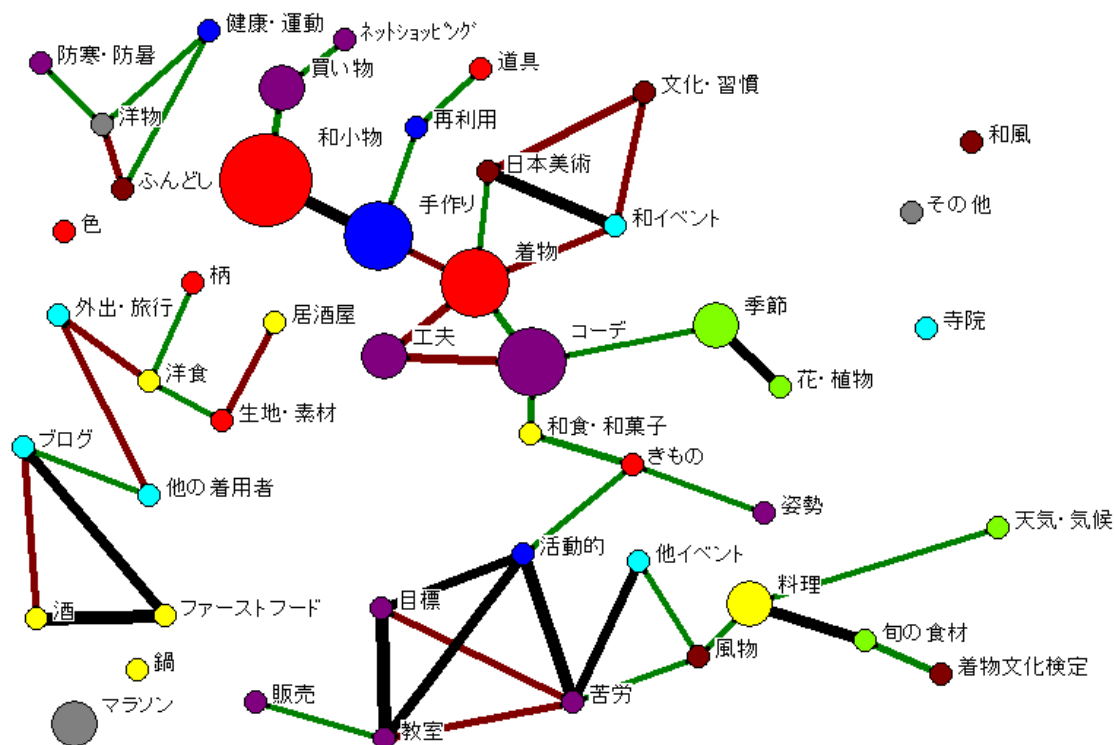


図 4-1-5 「ほぼ日刊？着物新聞」話題相関図 秋

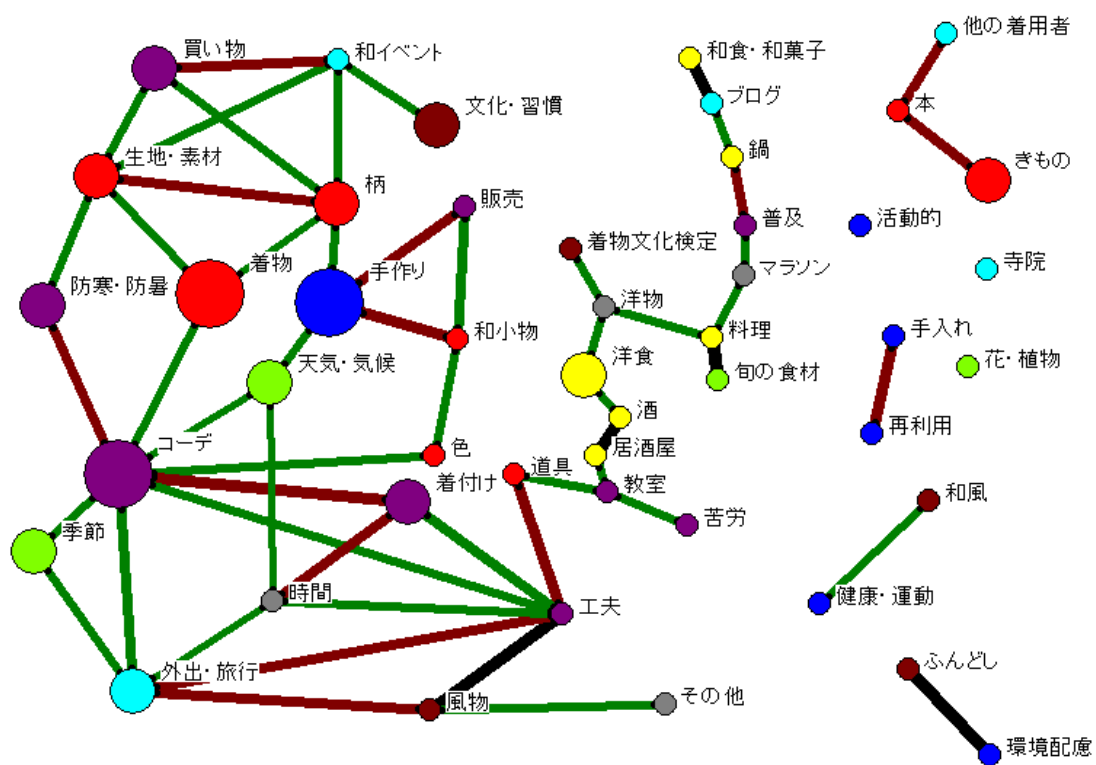


図 4-1-6 「ほぼ日刊？着物新聞」話題相関図 冬

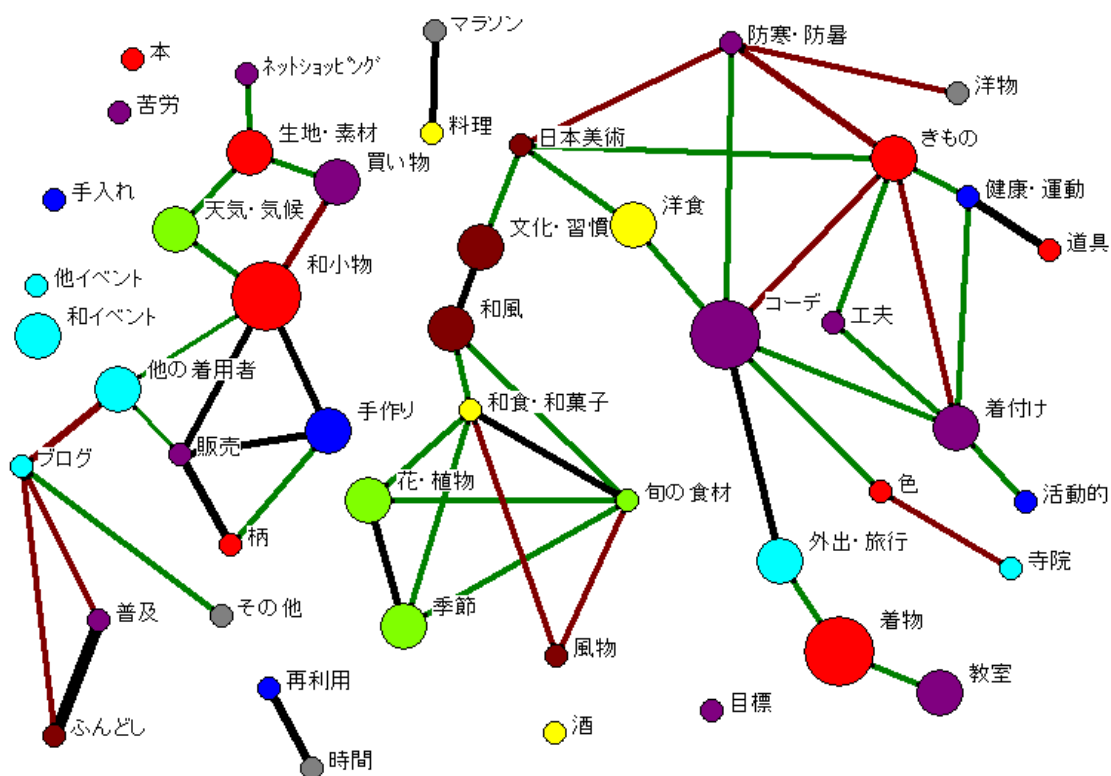


図 4-1-7 「ほぼ日刊? 着物新聞」話題相関図 春

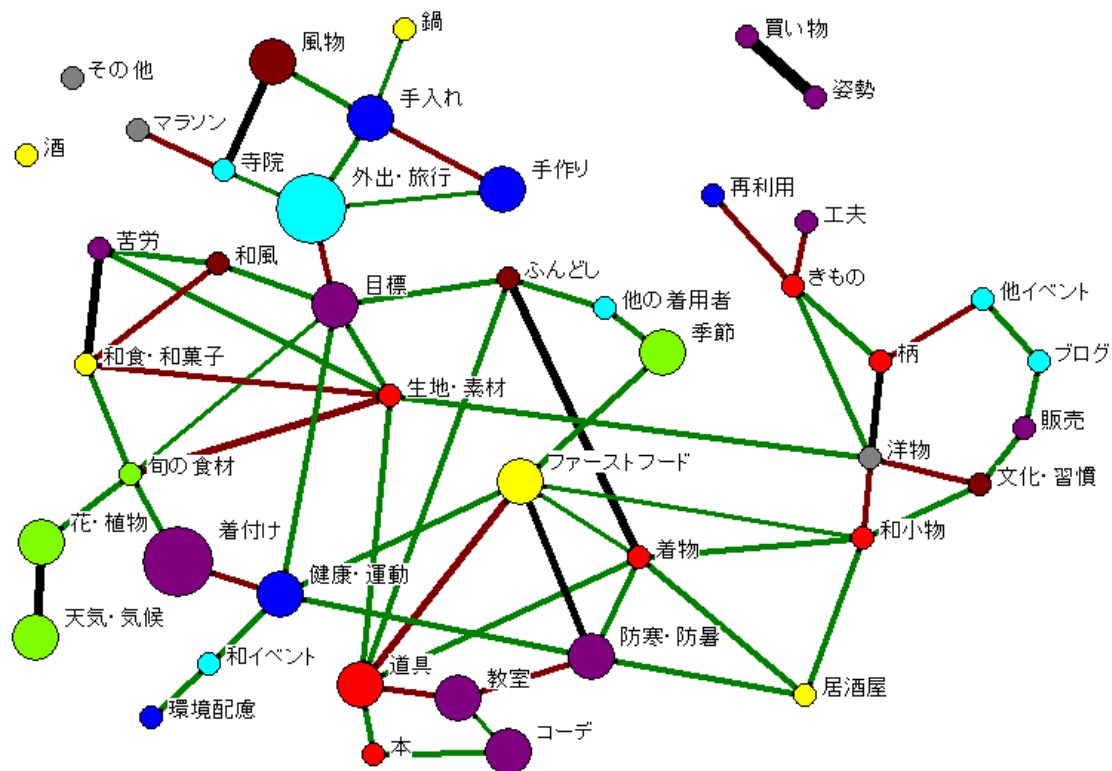


図 4-1-8 「ほぼ日刊? 着物新聞」話題相関図 夏

4-1-4 抽出した表現

話題と同様、その表現の内容も多岐に渡り、紹介すべきものがたくさん見られた(表 4-1-3)。

表 4-1-3 「ほぼ日刊？着物新聞」表現

月	日	表現	内容
9	5	少しずつ秋の支度をしていくことに喜びを感じるようになったのも着物を着ようになってから	季節を感じる
	7	着物が日常着として着られていたらいろんな進化があったんじゃないか？	着物
	10	襷色目…日本人が昔からこだわってきた色彩感覚	色・伝統
	14	完璧な着付けしかゆるさないと風潮では、ますます着物離れを起こす	着付け
	21	着物って高いと思ってたけどそうでもないのもあるんだ！と思ってもらいたい	着物(普及)
	23	着物を着ようになるまで、花なんて見たことがなかったの、発見が多くて楽しい	自然への意識
10	3	着物着ようになったら、花や食べ物も、季節感、旬のものに目がいくように	季節・自然
	5	完璧キレイな着付けじゃないといけないと思ってた…着物の人を注目してみると、そんなんでもいんだって安心した	着付け
	16	袖はピンヒールのようなもの？あまり役に立たないけれど、奇麗。	着物
11	2	四季の移り変わりを楽しむ日本の感性	季節・自然
	4	伝統の技と新しい感性が合わさった着物関連商品には、ぐっと心掴まれてしまう	着物・古と新
	21	服の形に体を合わせる洋服文化と違い、体の形に布を添わせる和服文化が、いかに体にやさしいか	着物・身体
12	5	ブログを更新し、多くの人に読んでもらいたいと思っているのは、着物の敷居を下げたい、裾野を広げたいと思っているから	普及
	9	キレイだけど「つまらない着付け」って言われるより、汚いけど「その着付け面白いね～」とか言われる方が褒め言葉なんじゃないか	着付け
	23	生活に根ざしてきたものですから、いろんな決まり事で縛り付けるより、ゆるやかにおおらかに形を変えていくというのが自然な姿	着物
1	10	体を動かした後に食べるご飯は、舌だけではなく全身で味わっている気がします！	感覚
	13	音がカラコロン言うのも風情があっていい	音
	14	「洋」は着物を気軽に着るのに必要な要素	洋との調和
	19	着ている自分が心地よくいたい。そーいやあの着物だった？くらい馴染みたい	まわりの反応
2	2	生地優しく糸を解いて作り直すのに便利	きもの
		たんすの肥しになるような着物にお金使う人は減るだろうけど、着る物として見るとこんなに経済的なものはない。	経済的
	5	好きな着物姿や、なりたいイメージの着地点によって、着付けなんて色々でいい…細かいことから自由になりたい。	着付け
	9	「着たい！」と思うものを縫いたい	着物
		着物に限らず、全国で廃れつつある日本の職人技が、こうして現代のセンスと融合して、素敵なのが生まれたり嬉しい	伝統
	10	褒めるのが下手と言われる日本人男性も、自然に褒めてくれる	まわりの反応
	21	「和」がつくものには季節感がたっぷり表現されていて、特に春を感じる時はうきうきする	季節・和
	26	着物や帯に描かれている花の開花時期や名前を知りたくなったり、そこから派生し咲いている花に目を留めるようになった	花
3	1	着物始めて1年ちょつとで、普段着着物ならできないことはほとんどないと分かった	着物
	16	古い物は手をかけるとほかにない個性を現すのが魅力	古いもの
	22	「和」に関する常識は江戸時代あたりまで遡らないと信用できないとすら思う	文化
4	1	着物の色合わせて不思議だな～と思いました。1+1=2じゃないのね。	色
	8	花や食も、旬や四季がある日本ってスバラシイ	季節
5	15	日本の繊細な感性や技術が詰った伝統工芸ってすごい！この技術は無くならないでほしいし、自分がそれを買ったり身につけることで貢献したい。	伝統
	18	着物着れば行動も変わる	着物
6	12	今まで「正解」とされていなかった着物で多くの方の賛同を得て惹き付ける、若い方の感性の良さは重要	着物・若者
	12	私がいろんな料理を食べるのも、和食を美味しく食べるためなのかもしれない	味覚
	22	着物に興味があるからなのか？私は「伝統産業」「手作業」ってキーワードで魅力3割増に見える	伝統
	30	和裁にしても、ベランダ菜園にしても、料理にしても、手間はかかるが「作る」って楽しい！やっぱり消費だけじゃ生活って充実しないだろうね。	消費生活
7	26	カラコロンと鳴らして歩くのは風情があって好きですが、タイルみたいな床じゃきーきーいったり、滑りやすくて歩きにくい	不調和
8	18	人間を作るのは食べ物、それを作るのは山と川、大切にしなければいけないと改めて思った。	自然

先にも述べたように、色や味覚といった感覚に関することや日本の伝統や文化に意識が向かっていく。四季があり、それを大切にしてきた日本人の感性や文化を「和がつくものには季節感がたっぷり表現されていて」(「ほぼ日刊?着物新聞」2009/2/21)「いろんな料理を食べるのも、和食を美味しく食べるためかもしれない」(「ほぼ日刊?着物新聞」2009/6/12)「『伝統産業』『手作業』ってキーワードで魅力3割増」(「ほぼ日刊?着物新聞」2009/6/22)といった表現で触れている。

そういった感覚に至ったのも「着物着るようになったら、花や食べ物も、季節感、旬のものに目がいくように」(「ほぼ日刊?着物新聞」2008/10/3)「着物の色合わせって不思議だな〜と思いました。1+1=2 じゃないのね」(「ほぼ日刊?着物新聞」2009/4/1)という具合に着物の影響を受けていると考えられる。

また着物着用に関しては「完璧な着付けしかゆるさないという風潮では、ますます着物離れを起こす」(「ほぼ日刊?着物新聞」2008/9/14)「着物始めて1年ちょっとで、普段着着物ならできないことはほとんどないと分かった」(「ほぼ日刊?着物新聞」2009/3/1)「生活に根ざしてきたものですから、いろんな決まり事で縛り付けるより、ゆるやかにおおらかに形を変えていくというのが自然な姿」(「ほぼ日刊?着物新聞」2008/12/23)という風に、着物を難しく考える必要は無く普段着として自由に着られるとした上で「ブログを更新し、多くの人に読んでもらいたいと思っているのは、着物の敷居を下げたい、裾野を広げたいと思っているから」(「ほぼ日刊?着物新聞」2008/12/5)と、考えを世間に広め、着物着用を推奨する行動に出ていることがわかる。また「今まで『正解』とされていなかった着物で多くの方の賛同を得て惹き付ける、若い方の感性の良さは重要」(「ほぼ日刊?着物新聞」2009/6/12)と今後の着物着用に対して若者へ期待を寄せている。そのことにも関係しているのか、「伝統の技と新しい感性が合わさった着物関連商品には、ぐっと心掴まれてしまう」(「ほぼ日刊?着物新聞」2008/11/4)「着物に限らず、全国で廃れつつある日本の職人技が、こうして現代のセンスと融合して、素敵なのが生まれたら嬉しい」(「ほぼ日刊?着物新聞」2009/2/9)といった古いものをそのまま大事にするだけでなく新しいセンス、現代に合ったスタイルを重要視している。

更に「和裁にしても、ベランダ菜園にしても、料理にしても、手間はかかるが『作る』って楽しい!やっぱり消費だけじゃ生活って充実しないんだろうね」(「ほぼ日刊?着物新聞」2009/6/30)と、生活の在り方についても消費社会を一蹴するような表現も見られる。

4-1-5 考察

冬に手作りの小物をネットで販売し始め「和小物」「販売」「手作り」の話題が急激に増えるが、夏にはそれらの想起率は元に戻る。またそのことがきっかけとなっているのか、あるいはブログランキングの上位に入ったためか、「他の着用者」との交流がさかんになっていく。インターネットを通したそうした対象者の生活の変化を話題相関図でも見ることが出来る。

着物着用生活 2 年目ということで、着用に伴う変化が表れやすいと考えられる。着物を着ようと思ったのには「潜在的に着物っていいなと思う気持ちがあった」という理由を挙げているが、潜在意識の中には着物だけでなく日本の文化や「日本らしさ」への興味が含まれていたと推察され、出現する話題が着物関連から和(日本)へ移行していることや表現にも季節感や伝統への興味が見られることから着物着用をきっかけにそのような意識が引き出されたと考えられる。

着物着用を「からだにやさしい」「着物でできないことはない」「着付けは自由でいい」と言っているが、これは着物の堅苦しいイメージや着付けの苦しいイメージとは真逆であり、着物が日本人の体形や生活、気候に合っているという本来の性質を対象者が活かしているためである。着物に限らず伝統の物に「新しい感性」を吹き込むことが重要で、生活スタイルが変化しているから着物も変化して当然であるということを感じていることが読み取れる。

4-2 対象2「キモノは別腹」

表 4-2-1 「キモノは別腹」話題出現数

季節	秋(9～11)	冬(12～2)	春(3～5)	夏(6～8)
記事数	72	81	67	72
きもの	3	8	1	3
生地・素材	9	7	1	2
道具	5	5	1	4
本	1	0	0	0
着物	19	10	13	19
和小物	4	6	2	5
色	2	1	1	0
柄	3	1	3	2
着付け	2	9	3	6
コーデ	20	14	19	13
工夫	3	6	2	5
防寒・防暑	2	6	2	0
苦労・悩み	3	7	0	0
教室	3	8	0	6
買い物	4	8	6	2
仕立て	1	1	0	0
普及	2	0	2	1
宣伝	0	1	0	0
和風	6	4	0	2
文化・習慣・伝統・昔	11	9	6	6
言葉	1	1	2	1
日本美術	0	3	6	1
風物	0	7	4	3
茶道	6	10	3	7
季節	4	5	1	4
天気・気候	3	5	4	3
花・植物	1	0	3	2
旬の食材	1	1	0	2
和食・和菓子	10	1	1	3
食事・食べ物	5	10	5	6
洋食	1	0	0	0
手入れ	4	6	1	1
手作り	9	3	2	5
再利用	6	5	2	6
活動的	0	0	1	1
健康・からだ	0	0	0	1
ブログ	1	3	0	1
他の着用者	26	10	8	5
家族・友人	0	10	15	16
和イベント	6	14	5	3
他イベント	0	0	0	3
外出・旅行	32	22	21	15
寺社	2	3	0	0
洋物	0	1	0	0
仕事	0	0	1	0
その他	1	2	4	3

表 4-2-2 「キモノは別腹」話題想起率

季節	秋(9～11)	冬(12～2)	春(3～5)	夏(6～8)
きもの	4	10	1	4
生地・素材	13	9	1	3
道具	7	6	1	6
本	1	0	0	0
着物	26	12	19	26
和小物	6	7	3	7
色	3	1	1	0
柄	4	1	4	3
着付け	3	11	4	8
コーデ	28	17	28	18
工夫	4	7	3	7
防寒・防暑	3	7	3	0
苦労・悩み	4	9	0	0
教室	4	10	0	8
買い物	6	10	9	3
仕立て	1	1	0	0
普及	3	0	3	1
宣伝	0	1	0	0
和風	8	5	0	3
文化・習慣・伝統・昔	15	11	9	8
言葉	1	1	3	1
日本美術	0	4	9	1
風物	0	9	6	4
茶道	8	12	4	10
季節	6	6	1	6
天気・気候	4	6	6	4
花・植物	1	0	4	3
旬の食材	1	1	0	3
和食・和菓子	14	1	1	4
食事・食べ物	7	12	7	8
洋食	1	0	0	0
手入れ	6	7	1	1
手作り	13	4	3	7
再利用	8	6	3	8
活動的	0	0	1	1
健康・からだ	0	0	0	1
ブログ	1	4	0	1
他の着用者	36	12	12	7
家族・友人	0	12	22	22
和イベント	8	17	7	4
他イベント	0	0	0	4
外出・旅行	44	27	31	21
寺社	3	4	0	0
洋物	0	1	0	0
仕事	0	0	1	0
その他	1	2	6	4

「キモノは別腹」の話題一覧と各季節の記事数、話題出現数は表 4-2-1 の通りである。「外出・旅行」「他の着用者」「家族・友人」カテゴリーの話題が多い。対象者で唯一「環境配慮」の話題が見られなかった。

4-2-1 単純集計

記事数は年間を通して変化がないのに、図 4-2-1、4-2-2 のグラフを見ると話題出現数が減っていることが分かる。これは、ひとつの記事で扱う話題の数が減ったことと着物関連の話題と「交流・外出」カテゴリーの話題が減ったことによる。

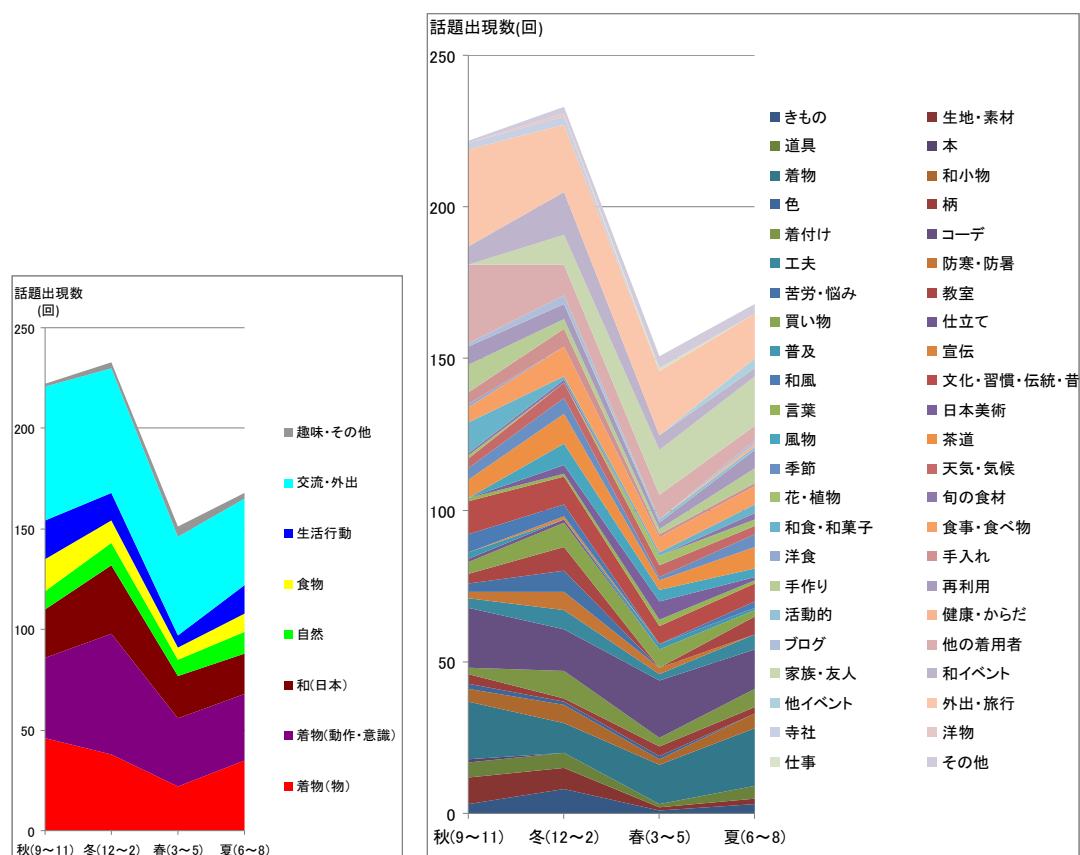


図 4-2-1 「キモノは別腹」 カテゴリー別話題出現数(左)

図 4-2-2 「キモノは別腹」 話題別話題出現数(右)

4-2-2 話題想起率

話題出現の仕方は1年間を通してあまり変化は見られないが、秋・冬には「生地・素材」「道具」と「着物」が同じように出現しているのが春・夏になると「生地・素材」「道具」は減り「着物」がその分の割合を占める。冬には「工夫」「防寒・防暑」と共に「苦労・悩み」が増加し、春には「他の着用者」「家族・友人」「外出・旅行」が増えるのと同時に「コーデ」も増える。また対象1の「ほぼ日刊？着物新聞」と同様に冬・春に「買い物」の話題が多くなる。

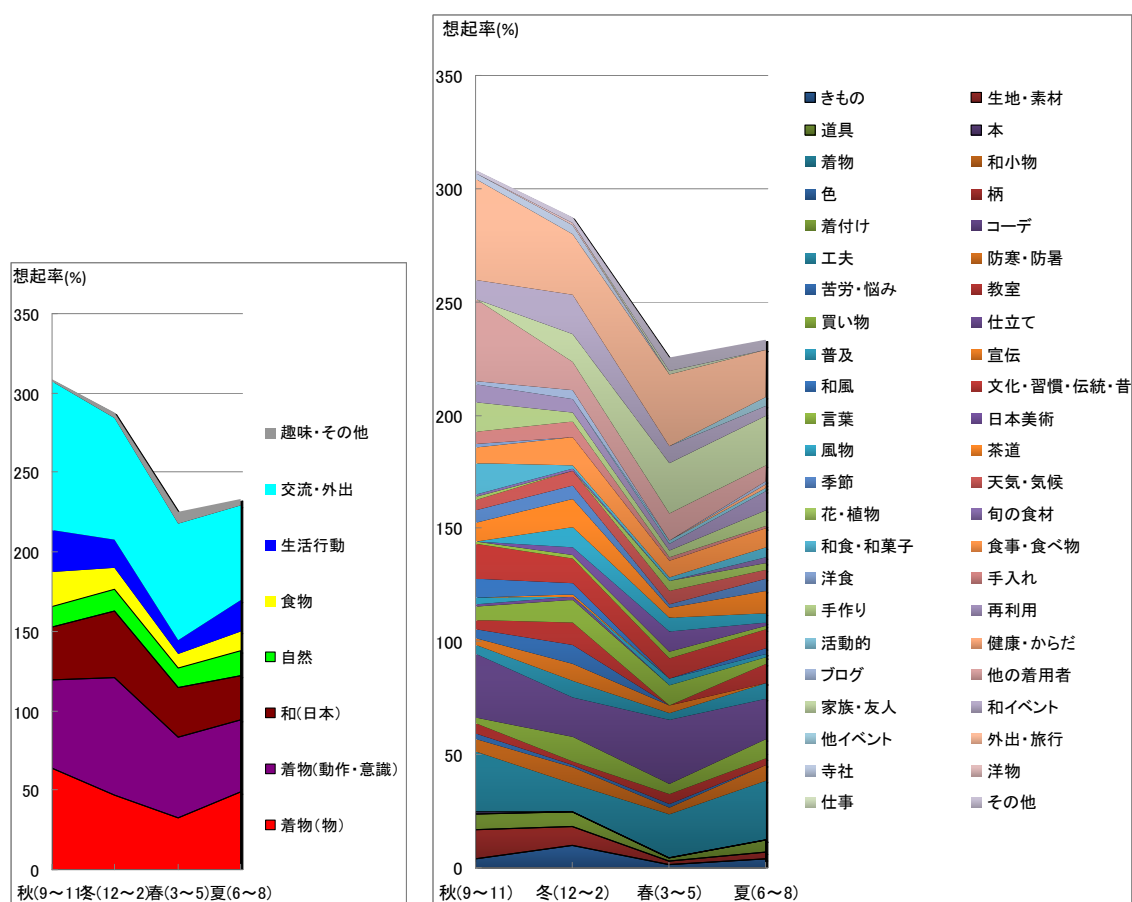


図 4-2-3 「キモノは別腹」 カテゴリー別話題想起率(左)

図 4-2-4 「キモノは別腹」 話題別話題想起率(右)

4-2-3 話題相関図

話題相関図の特徴

- 水色の「交流・外出」カテゴリーの話題に大きな丸(想起率が高い話題)が目立つ
- 話題の数は各カテゴリーでバランス良く出現している
- 秋に話題の繋がりが多くなっており、時を追うごとに話題が持つ繋がりの数は減っていく。
- 時を追うごとに大きな丸(想起率が高い話題)も減っていく

「キモノは別腹」では、10 以上の記事にひとつの話を分けて紹介することが度々あり、対象時期の後半ほどそれがよく見られる。そのような時には限られた話題が数日続くことになるため、話題出現数が減ったり相関図の形がシンプルになっていくのだと考えられる。

図 4-2-5 の秋の相関図は最もつながりが多い。特に「工夫」は多くの話題とつながっている。「工夫」の話題は想起率が低い、「再利用」や「仕立て」との強い関係性が窺える。「他の着用者」や「外出・旅行」の話題は想起率が高い割につながりが強い話題は少ない。

図 4-2-6 の冬は「着物（意識・行動）」カテゴリーの想起率が高くなるが強いつながりは少ない。「着付け」が「家族・友人」や「他の着用者」の他者の話題とつながり、着付けを通じた他者との交流がさかんに行われたことがわかる。

図 4-2-7 の春は黒い線でのつながりが多い。すなわち、想起率を用いて求めたつながりの強さが 25 以上のものが多い。内容を見てみると、「工夫」や「柄」などの想起率の低い話題ほど多くの話題とつながり、相手の話題も想起率が低いものが多い。このことにより、「外出・旅行」などのよく登場する話題ではない話題を扱う際に、より多くの話題について記事を書いているといえる。

図 4-2-8 の夏は相関図が最もシンプルであり、ブログ記事が「茶道」や「教室」など相関図の右の部分の集団と「家族・友人」や「着物」などの真ん中の集団、「天気・気候」や「買い物」の左の集団に別れて紹介されていることがわかる。このことは、先のも述べたように限られた話題についてブログ記事を展開していく対象 2 の特徴が表れている。

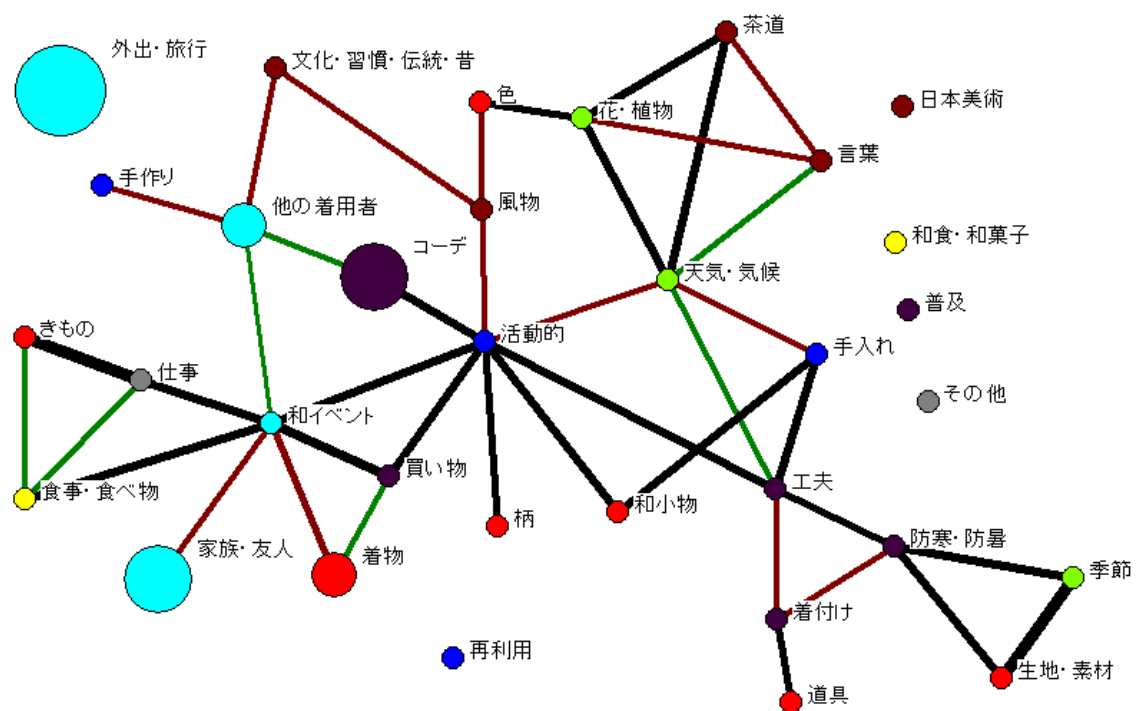


図 4-2-7 「キモノは別腹」話題相関図 春

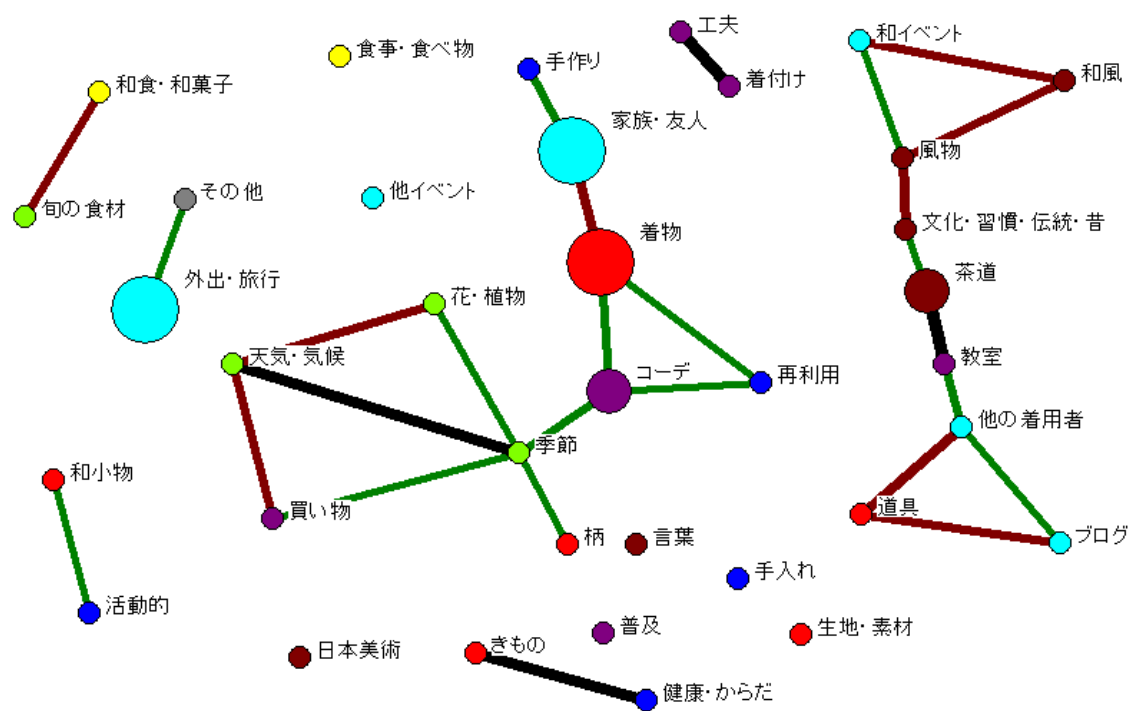


図 4-2-8 「キモノは別腹」話題相関図 夏

4-2-4 抽出した表現

表 4-2-3 「キモノは別腹」表現

月	日	表現	内容
9	2	椅子が苦手	洋
11	2	新しいものを開封する時よりも古いものを使い切ったときにより大きな喜びを感じる	物を長く使う
12	3	修理・修復・再生・復活・・・考えるだけでも楽しい	物を長く使う
1	29	傷みやくすみに随分打たれ強くなった	物を長く使う
2	20	この20年の間に、多くの木綿の機屋さんが潰れてしまい、それによってたくさんの地方独自の木綿が消えてなくなってしまった	伝統
5	3	キモノのおかげで、縁の遠かった大叔母とも親しくなれそうな予感	人とのつながり
	4	日々カメラを持って「見つけた花を撮っては調べる・・・お茶を始めたことで得られた事柄のひとつ	自然への意識
6	1	キモノで劇場はテンションが10倍くらいあがります	着物
7	24	祖母は日常キモノの人であったためかNOルールというか自由であった	着物・着付け
	25	汚れが目立つ白襟は、日常着としては不向き	着物・着付け

ブログ自体が「日記」や「報告」といった性格が強いので考えや意識を抽出できる表現は少ない。しかしその内容は「古いものを使いきったときにより大きな喜びを感じる」(「キモノは別腹」2008/11/2), 「修理・修復・再生・復活・・・考えるだけで楽しい」(「キモノは別腹」2008/12/3)という具合に物を長く大切に使うことに魅力を感じていることが見て取れる。着物が好きであるということも、伝統ある着物産業の衰退を嘆いていることも日記の内容に反映されている。また、着用に関しては幼いころから身近に見てきた祖母が「日常キモノの人であったためかNOルールというか自由であった」(「キモノは別腹」2009/7/24)ということで難なく着物を受け入れられたようだ。

4-2-5 考察

ブログを読んだり話題想起率のグラフを見る限り気付きにくいですが、話題相関で見ると話題想起率が高いものが減っていることや話題同士の繋がりが減っていることが分かった。原因としてひとつの記事にたくさんの情報を載せすぎないこと、話題の幅が広いこと、または限られた話題について何日にも及び記事が展開されていることが考えられる。

話題には大きな変化がなく、表現も多くはないが、それは着用歴が23年と長いからだと考えられる。着物着用による変化は判断し難いが、前述の通りひよさ氏は古いものや伝統のものに魅力を感じている。物を再生させたり人から譲り受けて長く使用することを徹底しておりアンケートでは「前の持ち主に対して思いを馳せることが出来るのも楽しみのひとつ」としている。また着物を「長い付き合いのできる衣類」「日本人の体形によく似合う衣類」「便利な衣類」と考え、「環境配慮」の話題は無くても「再利用」という着物の環境配慮の性質の話題はあり、着物に内在する性質を十分に活かしていることがわかる。

着物を着ることを子どもの頃から考えていたことやネット等の情報を共有する場が少なかった時代に着物着用を实践したことからも彼女にとっては着物を着用することやその生活が特別のことではなくなっている可能性が考えられる。

4-3 対象3「着物で一息♪ティータイム」

表 4-3-1 「着物で一息♪ティータイム」 話題出現数(左)

表 4-3-2 「着物で一息♪ティータイム」 話題想起率(右)

季節	秋(9～11)	冬(12～2)	春(3～5)	夏(6～8)
記事数	88	88	89	82
きもの	6	4	4	3
生地・素材	8	0	3	2
道具	8	1	2	1
本	9	1	1	0
着物	13	9	8	5
和小物	15	16	19	19
色	6	6	1	2
柄	8	7	8	1
着付け	2	0	0	5
コーデ	35	32	35	38
工夫	7	2	3	1
防寒・防暑	2	0	0	1
教室	6	1	3	2
買い物	0	0	2	1
販売	2	0	0	0
考え	3	0	0	0
染色	3	1	3	0
普及(アドバイス)	2	1	0	2
和風	12	3	1	6
文化・伝統・歴史	6	7	4	12
風物	0	7	2	0
茶道	3	1	3	2
季節	13	6	13	9
天気・気候	1	6	3	6
花・植物	19	16	20	15
旬の食材	4	0	0	2
和菓子	6	9	13	10
ティータイム	5	10	7	1
食事	0	0	0	3
手入れ	4	0	1	1
手作り	7	5	4	11
再利用	2	0	2	9
環境意識	1	0	1	1
活動的	1	0	0	2
健康・からだ	5	3	5	1
ブログ	0	2	0	1
他の着用者	7	8	14	25
家族・友人	1	1	0	0
和イベント	1	4	6	0
他イベント	1	0	0	0
外出・旅行	2	1	9	17
寺社	1	2	2	1
洋物	2	5	0	0
宣伝	4	1	2	0
その他	3	6	4	15

	秋(9～11)	冬(12～2)	春(3～5)	夏(6～8)
きもの	7	5	4	4
生地・素材	9	0	3	2
道具	9	1	2	1
本	10	1	1	0
着物	15	10	9	6
和小物	17	18	21	23
色	7	7	1	2
柄	9	8	9	1
着付け	2	0	0	6
コーデ	40	36	39	46
工夫	8	2	3	1
防寒・防暑	2	0	0	1
教室	7	1	3	2
買い物	0	0	2	1
販売	2	0	0	0
考え	3	0	0	0
染色	3	1	3	0
普及(アドバイス)	2	1	0	2
和風	14	3	1	7
文化・伝統・歴史	7	8	4	15
風物	0	8	2	0
茶道	3	1	3	2
季節	15	7	15	11
天気・気候	1	7	3	7
花・植物	22	18	22	18
旬の食材	5	0	0	2
和菓子	7	10	15	12
ティータイム	6	11	8	1
食事	0	0	0	4
手入れ	5	0	1	1
手作り	8	6	4	13
再利用	2	0	2	11
環境意識	1	0	1	1
活動的	1	0	0	2
健康・からだ	6	3	6	1
ブログ	0	2	0	1
他の着用者	8	9	16	30
家族・友人	1	1	0	0
和イベント	1	5	7	0
他イベント	1	0	0	0
外出・旅行	2	1	10	21
寺社	1	2	2	1
洋物	2	6	0	0
宣伝	5	1	2	0
その他	3	7	4	18

「着物で一息♪ティータイム」の話題一覧と各季節の記事数、話題出現数は表 4-3-1 の通りである。ブログタイトルの通り「ティータイム」の話題が登場する。

4-3-1 単純集計

着物コンサルタントという職業柄や帯留めの本を出版していることもブログ記事に関わっており、図 4-3-1 のカテゴリでは「着物(物)」「着物(動作・意識)」「自然」が、図 4-3-2 の話題別では「和・小物」「コーデ」「花・植物」が多くなっている。

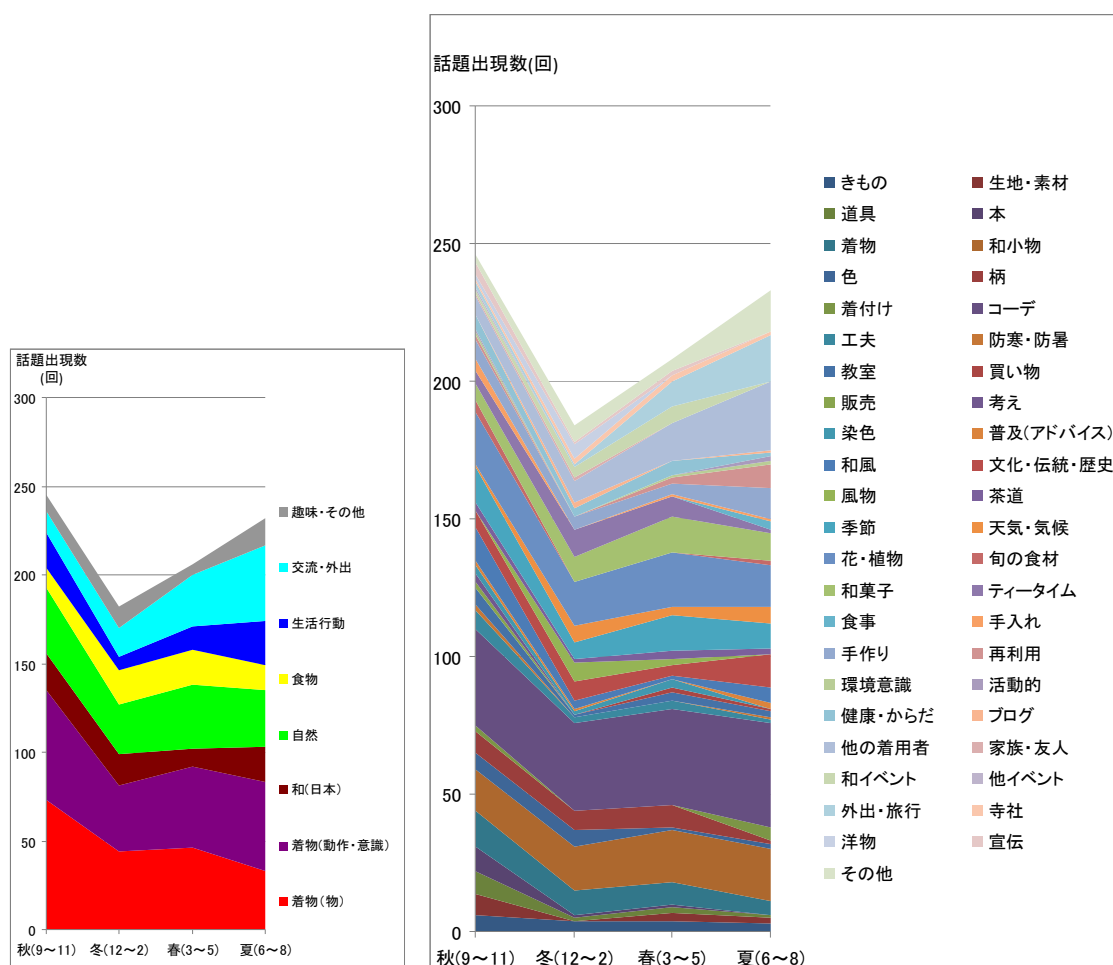


図 4-3-1 「着物で一息♪ティータイム」 カテゴリ別話題出現数(左)

図 4-3-2 「着物で一息♪ティータイム」 話題別話題出現数(右)

4-3-2 話題想起率

季節による変化はあまりみられないが、着物着用のルールを比較的忠実に守る着用者なので「手入れ」が衣替えの時期にのみ現れる。本の出版にともない秋に「本」の話題が増加し、夏には10日以上に渡る旅行記によって「外出・旅行」が増加している。その他、帯留を手作りするという話題はずっと登場するが、春頃から再利用の材料を使った「エコ帯留め」として紹介するので「手作り」「再利用」が増える。

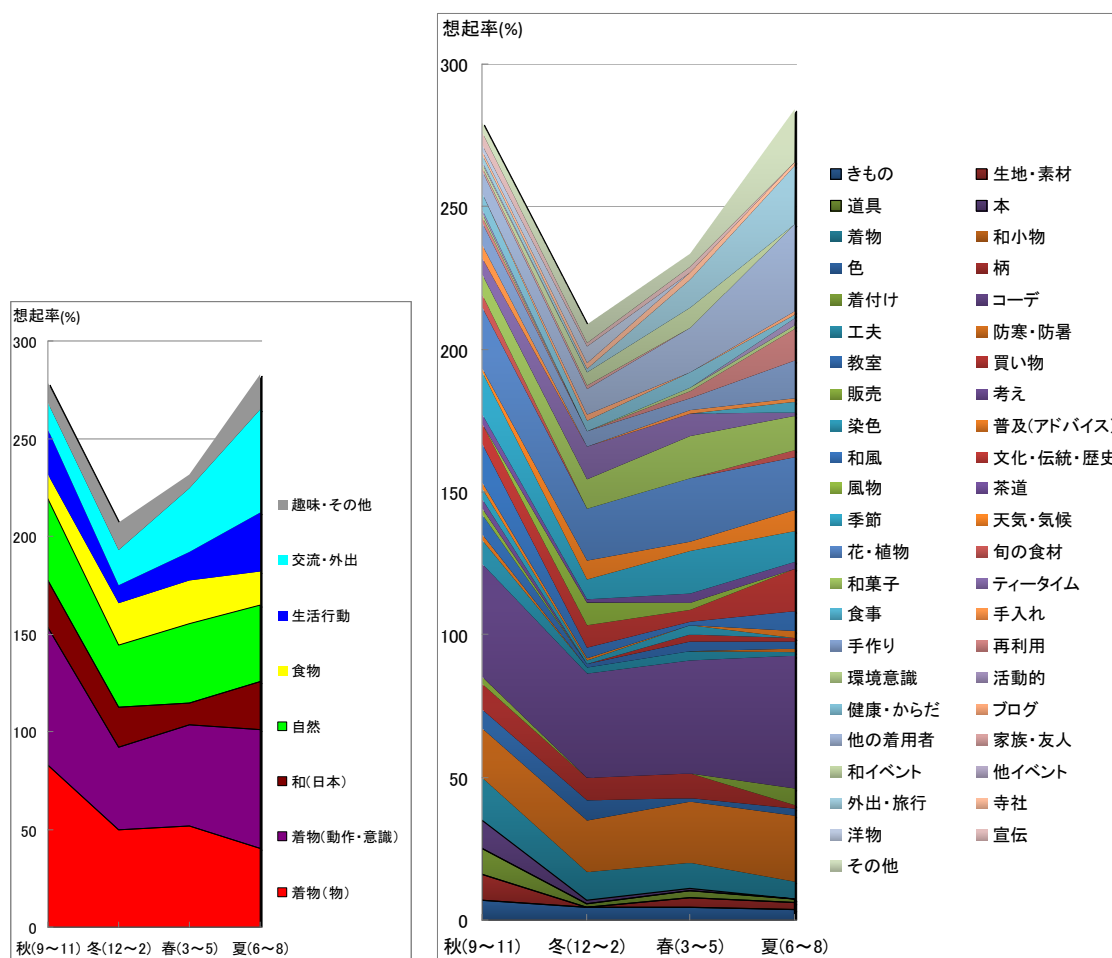


図 4-3-3 「着物で一息♪ティータイム」 カテゴリー別話想起率(左)

図 4-3-4 「着物で一息♪ティータイム」 話題別話想起率(右)

4-3-3 話題相関図

話題相関図の特徴

- 想起率の高さで「コーディネート」が目立っている
- 「きもの」は着物着用に関する話題とは繋がっていない
- 全体的にシンプルで、話題がいくつかのグループに分かれている
- 「他の着用者」はいつも「コーデ」と強く繋がっている

このブログでは、ほとんどの記事でまずコーディネートあるいは和小物の紹介をし、話展開される。よって、2つの話題想起率は高く、つながりは季節によって異なる。

図4-3-5の秋は自身が出版する「帯留めBOOK」の紹介やその準備の話題が多いので「本」「宣伝」「販売」が互いにつながっている。また、「着ているだけで身体が温まる生地」の話題も度々紹介されることで「防寒」「健康・身体」「生地・素材」も互いにつながっている。「自然」「食物」カテゴリーの話題はつながりがほとんどない。

図4-3-6の冬は、記事数は他の季節と変わらないのに話題出現数が極端に少なく、話題同士の間隔も少なくなっている。登場する話題数も冬と春は少なくなっており、同じ話題を繰り返すこともひとつの記事で様々な話題を扱うことも少ないといえる。

図4-3-7の春も冬と同様に話題出現数はやや少なく話題の間隔も少ない。物を再利用して小物を作ることが増え、「再利用」「手作り」「環境配慮」「和小物」が強くつながっている。

図4-3-8の夏になると廃材などでの帯留め作りを友人と一緒にやったことが記事に多く取り上げられて、「和小物」を中心とした「コーデ」「手作り」「再利用」「他の着用者」の四角形を形成する。他の季節と異なり、「天気・気候」と「着物」や、「花・植物」と「文化・伝統・歴史」のように「自然」カテゴリーの話題が他の話題とつながるようになる。

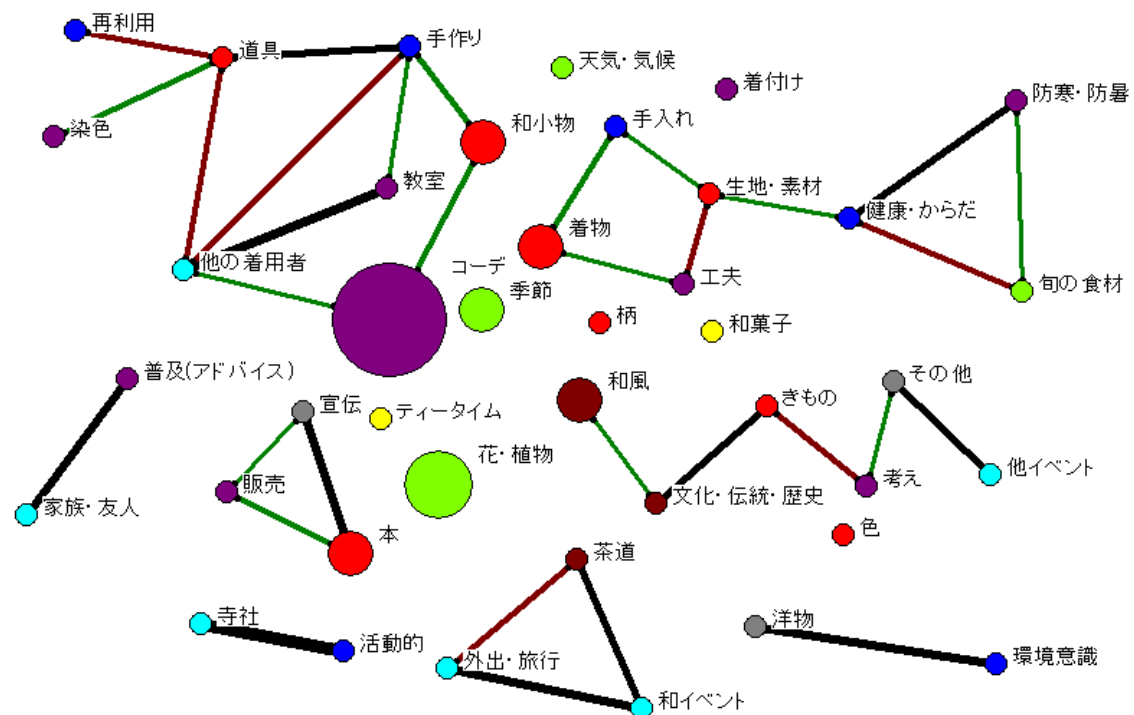


図 4-3-5 「着物で一息♪ティータイム」話題相関図 秋

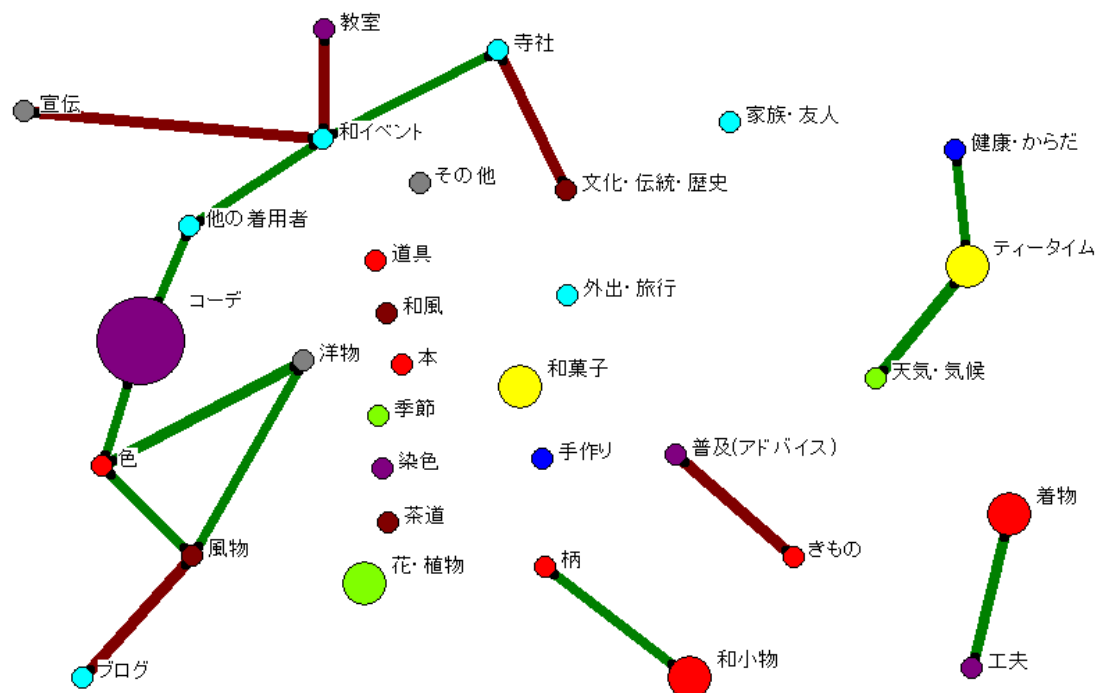


図 4-3-6 「着物で一息♪ティータイム」話題相関図 冬

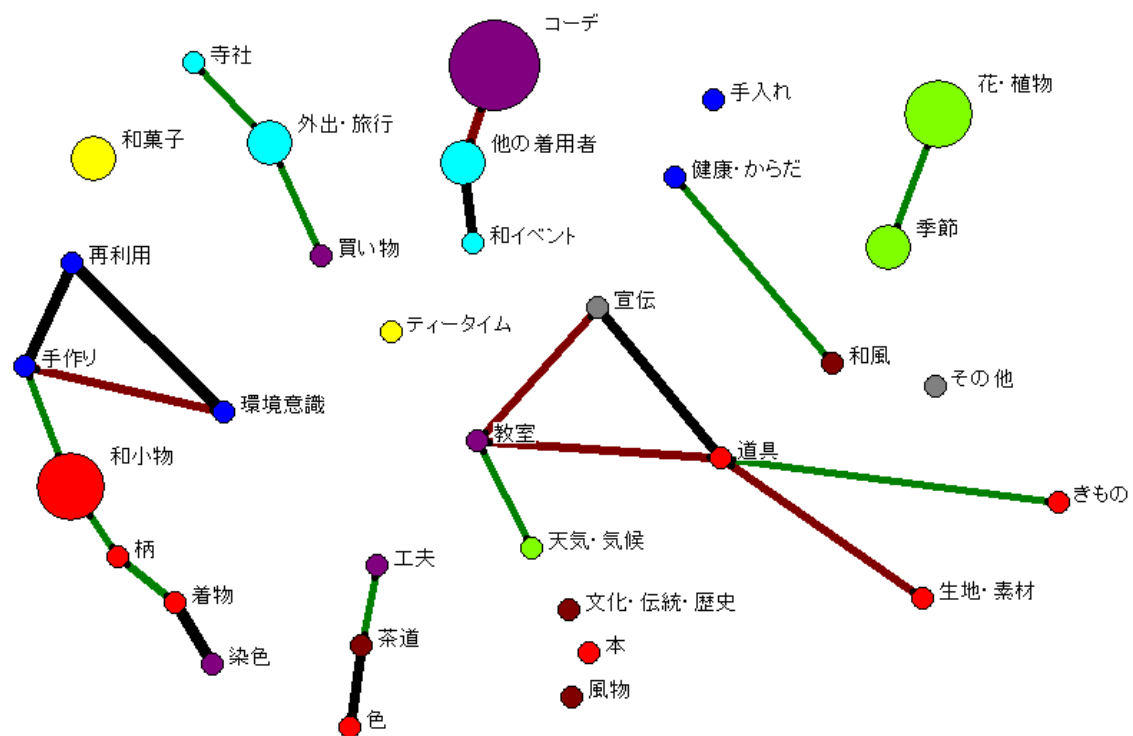


図 4-3-7 「着物で一息♪ティータイム」話題相関図 春

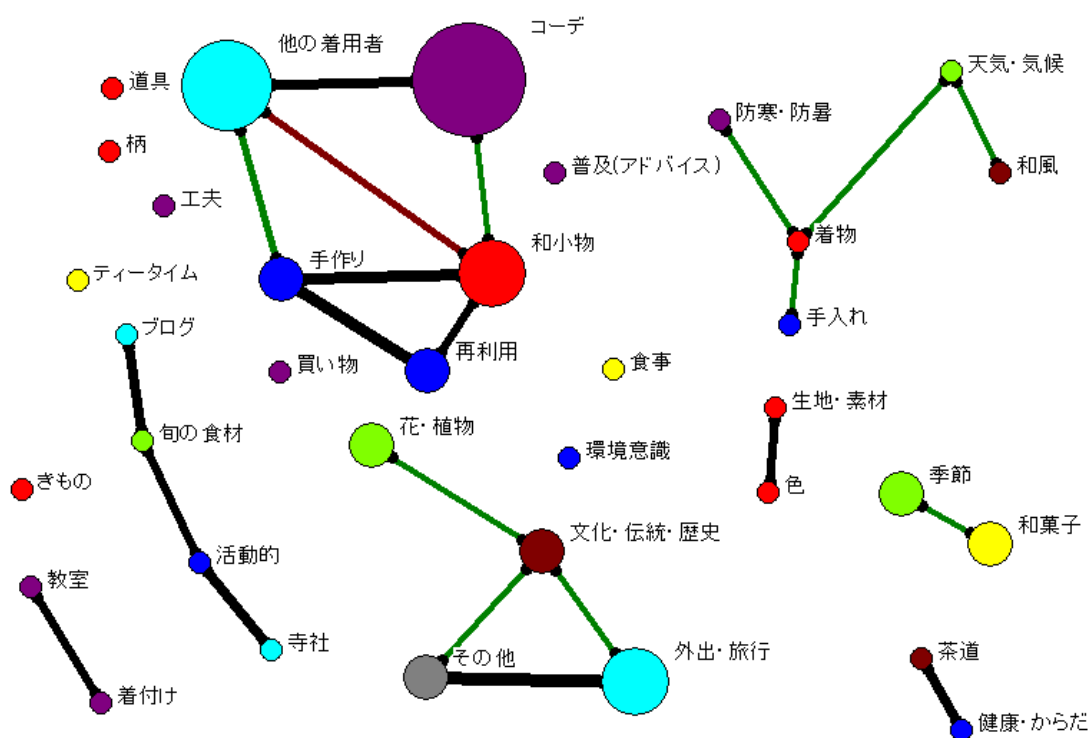


図 4-3-8 「着物で一息♪ティータイム」話題相関図 夏

4-3-4 抽出した表現

表 4-3-3 「着物で一息♪ティータイム」表現

月	日	表現	内容
9	2	着物が似合う風景を、日本の繊細で美しい自然を残してゆくにはどうしたら良いのでしょうか？	着物・自然
	30	洋服よりも着物の方が、着る人の責任が大きい	きもの
10	2	普段から研究してこそ、晴れ場で真価を発揮できる。何気ない普段の遊びこそ大事	きもの
	8	店先に並べられた花よりも、人の手を借りずにたくましく咲いている自然の花に心惹かれる	自然への意識
	10	日本は美しい物で溢れている。着物を着ると、普段見逃してしまっている美に気付く。	視点
	15	着付けは自分でできるようにならないと意味がない。	着物・着付け
	17	美しい物は、放っておいても世界中にひろがってゆく	着物
	20	キンモクセイは大気汚染のパロメーター	環境
	23	30年以上も前の着物が、袖を通せば今も生き生きと蘇る	きもの・長く使う
11	6	「歳をとったら着物を着るわ」というのは無理。思い立ったが吉日です。	着物
	17	冬場は着物を着て温かくして、みかんや柿でビタミンCを摂取するのが私の風邪予防	着物・からだ
	19	人の寿命よりも長く生き続けてきたものには力があるように感じる	古いもの
12	30	人真似ではなく自然を真似たい。	自然への意識
1	21	まずは目と脳でじっくり味わうことが大事なこと	感覚
2	5	1000年以上も昔の日本人も、この香を楽しみ愛でていたのだと思うと安堵感を覚える	古いもの
	10	16年前に譲り受けた着物と、帯は14年前に購入したもの	長く使う
3	28	着物において、伝統柄とされる花や文様には大変面白い歴がある	着物・伝統
4	17	人それぞれ、出身地によって纏う空気や似合う着物が違ってくる	着物
	23	触れて気持ちのよい、体が喜ぶ自然素材は、間違いなく人と相性がよい	素材・からだ
	29	着物生活は元気でなければできません！	着物・からだ
5	22	自然の貝と不要となった他の物を組み合わせて作り替え再利用する「エコ帯留め」	再利用
	28	衣替えの時期はあくまで目安、今何を着たら気持ちよく、美しく映えるかが一番大事	きもの
6	2	不要になった物を作り替えたり自然素材で作った帯留め、エコを楽しんでいます。	再利用
	21	作る楽しみ、使う楽しみ、着物好きの友人たちと共有し合う楽しみ	着物・人とのつながり
8	26	本来、ファッションに決まり事などない。基準が若い人によって変化をしていく運命にあるとしても、年配者の言うことにも耳を傾けて、どのように基準ができたのかと思いを巡らすことはプラスになる	着物・変化

着用歴は15年だが、「16年前に譲り受けた着物と、帯は14年前に購入したもの」(「着物で一息♪ティータイム」2009/2/10)という表現にあるように着用開始当時のものを今も着用しており、それを違和感なくこなすことは洋服にはできないことである。

「普段から研究してこそ、晴れ場で真価を発揮できる。何気ない普段の遊びこそ大事」(「着物で一息♪ティータイム」2008/10/2)、「着付けは自分でできるようにならないと意味がない」(「着物で一息♪ティータイム」2008/10/15)という表現に見られるように、着用は週に1回だが着物着用において普段着として着ることの重要性を示唆している。

したがって着用することで「日本は美しい物で溢れている。着物を着ると、普段見逃してしまっている美に気付く」(「着物で一息♪ティータイム」2008/10/10)という変化を感じられる。着物を着て感覚が洗練され「まずは目と脳でじっくり味わうことが大事なこと」(「着物で一息♪ティータイム」2009/1/21)、「触れて気持ちのよい、体が喜ぶ自然素材は、間違いなく人と相性がよい」(「着物で一息♪ティータイム」2009/4/23)といった発見もある。

着用は着物のルールにほぼ忠実であるが、以下のような表記もある。「本来、ファッションに決まり事などない。基準が若い人によって変化をしていく運命にあるとしても、年配

者の言うことにも耳を傾けて、どのように基準ができたのかと思いを巡らすことはプラスになる」(「着物で一息♪ティータイム」2009/8/26)着付けが生活に合わせて、あるいは若い世代の感覚によって変化することも認めるが、変化の幅が着物の真価を抜け出してしまわぬよう伝統・文化を理解した上での自由な着用を勧めている。

4-3-5 考察

記事では多くの話題に触れず、「防寒」「健康・身体」「生地・素材」や、「再利用」「手作り」「環境配慮」「和小物」のように一緒に登場する話題が固定されているため、話題のグループ構成がはっきりと相関図に現れている。

仕事でも着物に携わっているので、着物の格式・真価には敏感である。アンケートで洋服の短所を「皆似たような服装になってしまい、個性に欠けること。色や質感に鈍感になること」としている。すなわち着物ではそれぞれが個性を出すことができ、色や質感に敏感になるということを経験から感じているのだと考えられる。

着物の堅苦しいイメージを抜け出した自由な着用は肯定しつつ、その堅苦しいルールは何故できたのかを考える必要性を主張している。ルールは意味無くできたものではなく、それこそ季節感や色・柄といった日本人の感性が生み出したものなので、無視してしまうてはもはや着物ではなくなる。対象者が着物文化を大切に感じていることがわかる。

4-4 対象4「ちくちくきもの」

表 4-4-1 「ちくちくきもの」話題出現数

季節	秋(9～11)	冬(12～2)	春(3～5)	夏(6～8)
記事数	76	68	73	74
きもの	10	7	14	5
生地・素材	6	12	13	4
道具	15	9	6	10
本	2	1	4	4
着物	31	32	36	28
和小物	14	6	4	7
色	1	1	3	2
柄	0	2	2	1
着付け	12	13	6	19
コーデ	8	7	6	2
工夫	12	8	3	5
防寒・防暑	5	3	0	4
苦労・悩み	1	0	2	1
得典	1	1	0	1
教室(習)	0	1	0	0
教室(教)	0	0	1	6
買い物	6	6	5	2
ネットショッピング	2	3	1	2
考え	2	1	13	6
手縫い	0	3	18	6
仕立て	1	6	0	0
普及	3	4	2	1
和風	4	1	3	0
文化・伝統・歴史	4	5	8	1
日本美術	1	1	0	1
風物	1	3	0	2
季節	4	1	6	8
天気・気候	3	3	1	1
花・植物	0	0	4	1
和食・和菓子	2	0	0	4
食事・食べ物	2	1	1	0
手入れ	0	3	1	6
手作り	35	23	32	17
環境配慮	0	3	1	0
再利用	3	4	3	2
手順	22	15	28	10
活動的	4	0	0	2
健康・からだ	0	6	3	7
ブログ	4	5	9	7
他の着用者	4	4	12	10
家族・友人	11	10	10	9
和イベント	5	1	6	4
外出・旅行	16	10	12	9
家事・育児	2	4	1	7
寺社	1	1	1	1
洋服	4	3	1	4
宣伝	2	1	5	5
時間	2	1	1	0
その他	0	5	2	10

表 4-4-2 「ちくちくきもの」話題想起率

	秋(9～11)	冬(12～2)	春(3～5)	夏(6～8)
きもの	13	10	19	7
生地・素材	8	18	18	5
道具	20	13	8	14
本	3	1	5	5
着物	41	47	49	38
和小物	18	9	5	9
色	1	1	4	3
柄	0	3	3	1
着付け	16	19	8	26
コーデ	11	10	8	3
工夫	16	12	4	7
防寒・防暑	7	4	0	5
苦労・悩み	1	0	3	1
得典	1	1	0	1
教室(習)	0	1	0	0
教室(教)	0	0	1	8
買い物	8	9	7	3
ネットショッピング	3	4	1	3
考え	3	1	18	8
手縫い	0	4	25	8
仕立て	1	9	0	0
普及	4	6	3	1
和風	5	1	4	0
文化・伝統・歴史	5	7	11	1
日本美術	1	1	0	1
風物	1	4	0	3
季節	5	1	8	11
天気・気候	4	4	1	1
花・植物	0	0	5	1
和食・和菓子	3	0	0	5
食事・食べ物	3	1	1	0
手入れ	0	4	1	8
手作り	46	34	44	23
環境配慮	0	4	1	0
再利用	4	6	4	3
手順	29	22	38	14
活動的	5	0	0	3
健康・からだ	0	9	4	9
ブログ	5	7	12	9
他の着用者	5	6	16	14
家族・友人	14	15	14	12
和イベント	7	1	8	5
外出・旅行	21	15	16	12
家事・育児	3	6	1	9
寺社	1	1	1	1
洋服	5	4	1	5
宣伝	3	1	7	7
時間	3	1	1	0
その他	0	7	3	14

「ちくちくきもの」の話題一覧と各季節の記事数、話題出現数は表 4-4-1、4-4-2 の通りである。ブログタイトルにもあるが、着物を手作りする作業が細かく紹介されている記事が多い。「教室(教)」「手縫い」「考え」の話題が特徴的である。

4-4-1 単純集計

手作りの中には子供の服の話題もあり、「家事・育児」に分類している。家事や子育てをしながらの着物着用等の「手順」も頻繁に紹介されている。図 4-4-1 のカテゴリーでは「着物(物)」が圧倒的に多く、「自然」や「食物」は少ない。図 4-4-2 の話題別では「着物」「着付け」「手作り」「手順」が多い。

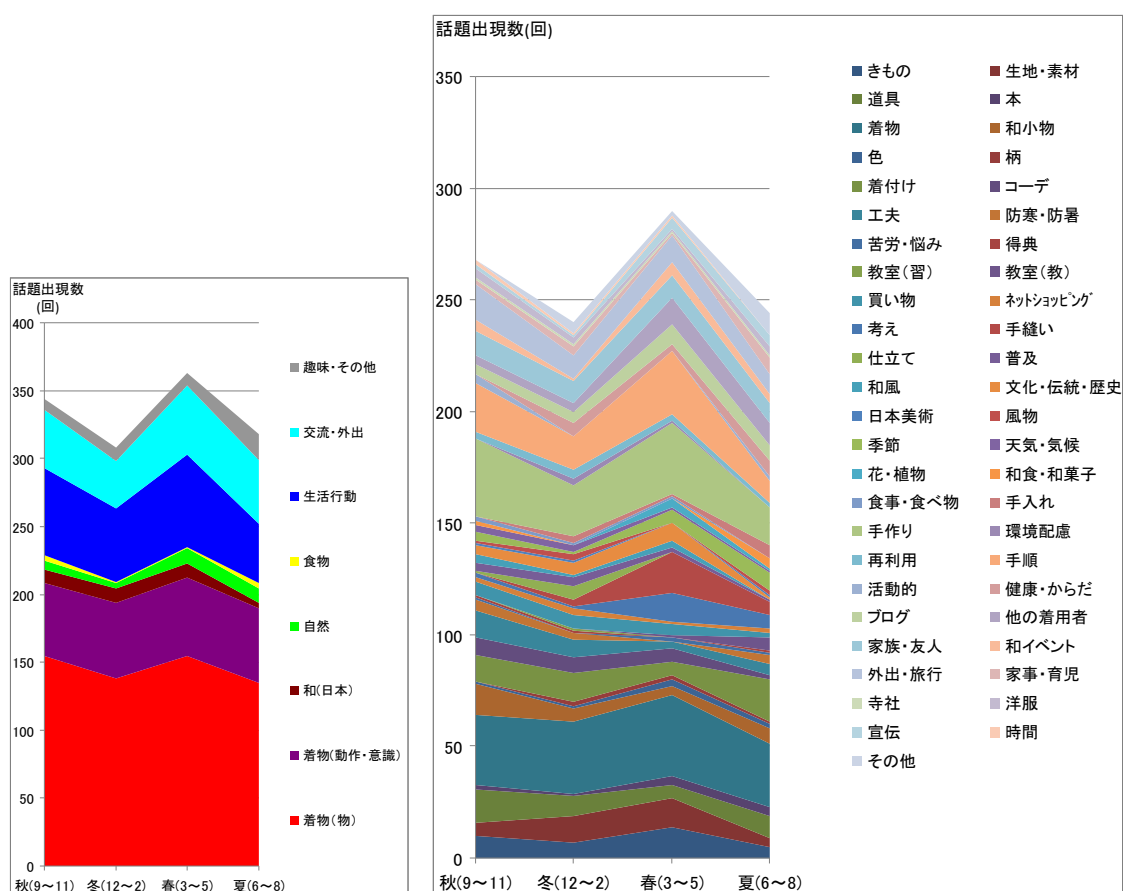


図 4-4-1 「ちくちくきもの」 カテゴリー別話題出現数(左)

図 4-4-2 「ちくちくきもの」 話題別話題出現数(右)

4-4-2 話題想起率

「着物」「着付け」「手縫い」「手作り」「手順」の話題が目立つ。着物に関する様々な「手順」を紹介しているが、時によって扱う事柄が異なるので春と夏で「着付け」と「手縫い」の比率が逆転している。着物着用開始から1年が経ち、春・夏には「考え」「健康・からだ」「ブログ」「他の着用者」の話題が次第に増加する。

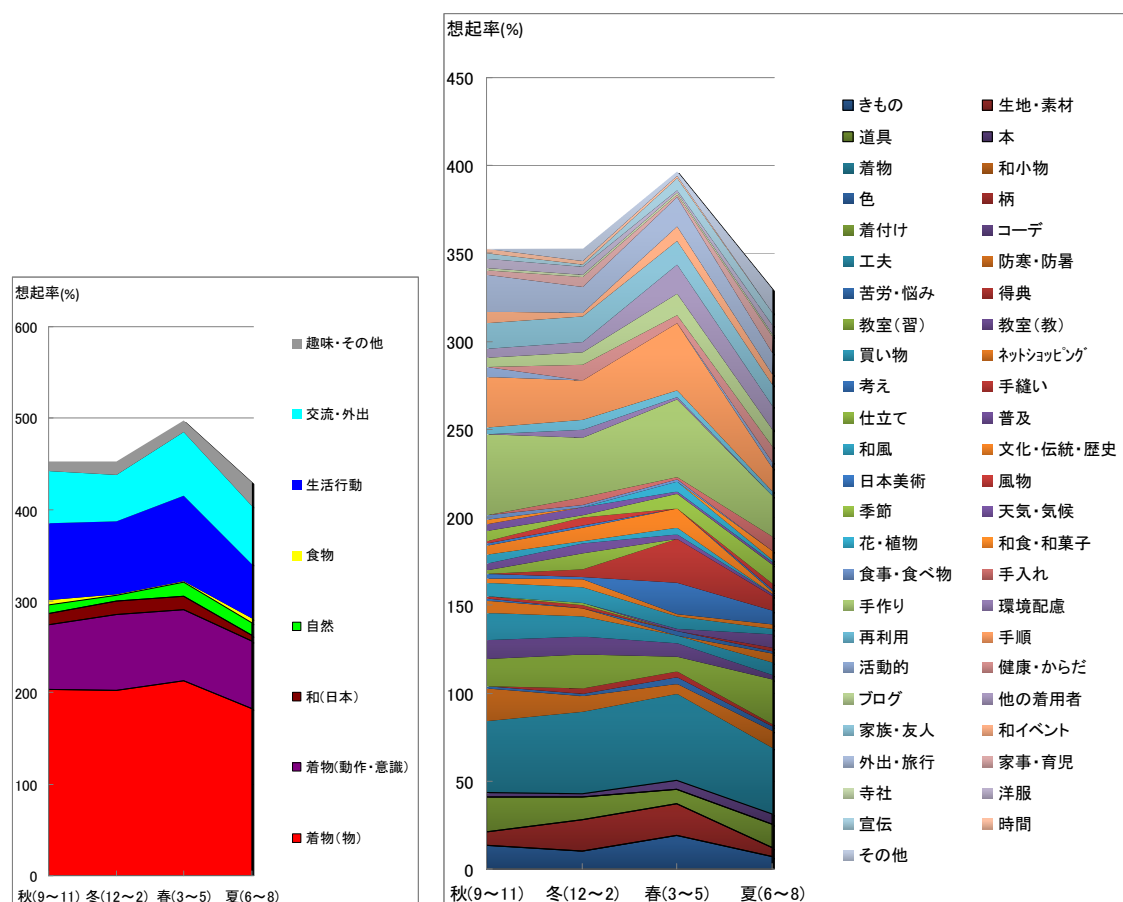


図 4-4-3 「ちくちくきもの」 カテゴリー別話題想起率(左)

図 4-4-4 「ちくちくきもの」 話題別話題想起率(右)

4-4-3 話題相関図

話題相関図の特徴

- 茶色の「和(日本)」と緑の「自然」のカテゴリーが少なく青の「生活行動」が多い
- 秋と夏の「季節」の話題は想起率は低いのに「着物」と強く繋がっている
- この対象では、「色」「柄」は他の話題とは繋がりにくい
- 「着物」「手順」「手作り」の3つの話題が特徴的

湖藤氏は、着物初心者なので対象 1 の梅まり氏と同様にひとつの記事でいろいろな話題を扱うので相関図のつながりが多い。一方で着物の着付けや作り方の手順を多くの記事で紹介していることも話題想起率に影響している。

図 4-4-5 の秋はまだ着物着用開始から 1 年弱であったが着物についての考えを主に着物初心者や着用者ではない人に向けて書いており、「普及」と「考え」、「ブログ」と「他の着用者」がそれぞれつながっている。

図 4-4-6 の冬は「考え」は「食事・食べ物」と「環境配慮」とつながる。幼児を育てながらの変化や発見が多い私生活が着物着用や生活全体に影響していると考えられ、「家事・育児」と「工夫」が強くつながっていることだけでなく着物着用に関する考えや食事などにも関わっていると考えられる。

図 4-4-7 の春は和裁を始めることで「着物」「手順」「手作り」のつながりに「手縫い」が加わる。「ブログ」を通して「他の着用者」との交流が増えていることもわかる。「健康・からだ」の話題の想起率が少し高くなり、着物着用を通して感じた身体の変化や洋服との違いなどについてもふれていることで「着付け」「工夫」「洋服」などにつながっている。

図 4-4-8 の夏には「手作り」の話題は主に「道具」と共に、「手縫い」の話題は主に「着物」と共にあらわれる。記事において対象者が洋服を着ていることについては書かれていないが、「洋服」の話題が多くの話題とつながっている。

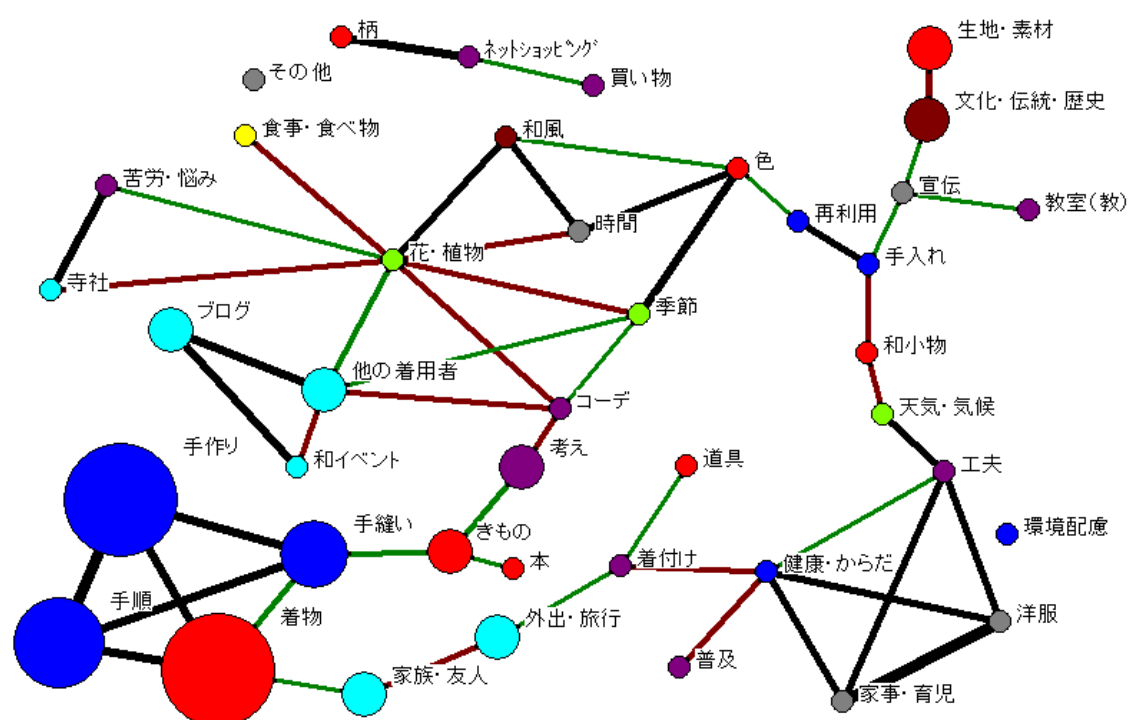


図 4-4-7 「ちくちくきもの」話題相関図 春

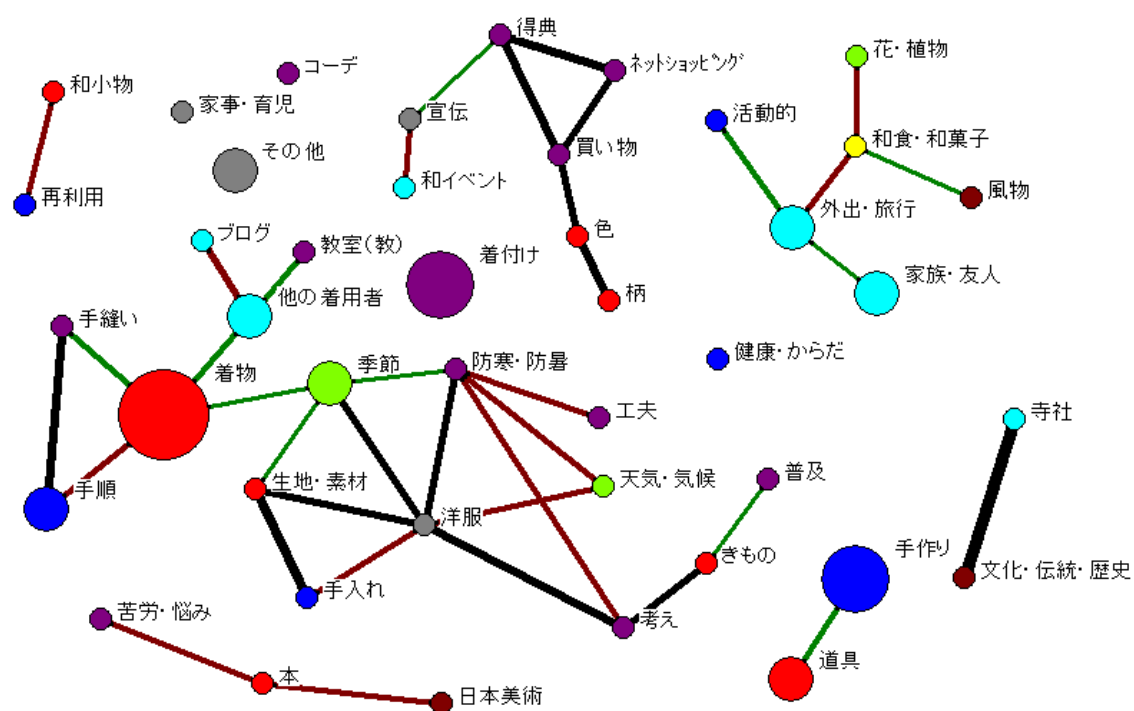


図 4-4-8 「ちくちくきもの」話題相関図 夏

4-5-2 話題想起率

他の対象が「着物(物)」「着物(動作・意識)」のカテゴリーの話題が平均 50%程度の記事に出現するのに対し、ここでは 30%しか見られない。季節による偏りは「買い物」が冬・春に集中しており、「ブログ」「他の着用者」「和イベント」が揃って春・夏に増えている。また、「健康・運動」「環境配慮」はずっと見られる。

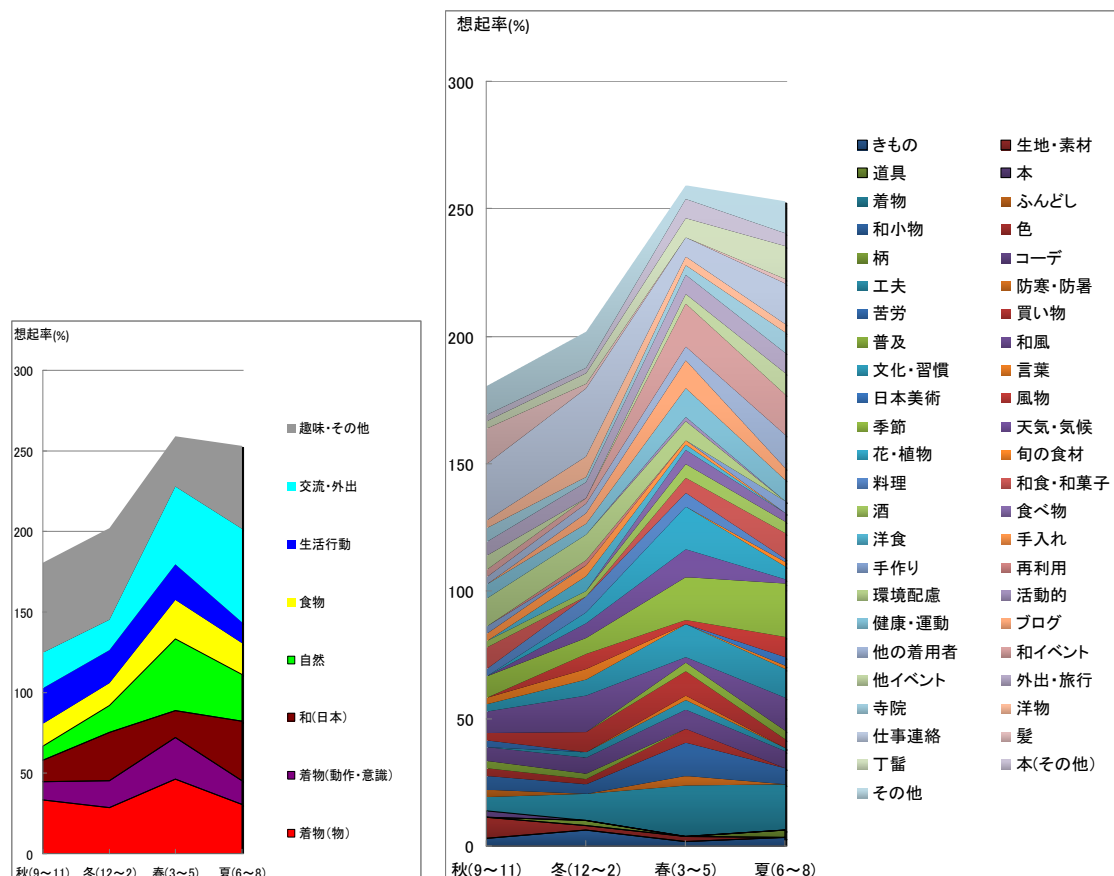


図 4-5-3 「丁髷 髪切り職人」 カテゴリー別話題想起率(左)

図 4-5-4 「丁髷 髪切り職人」 話題別話題想起率(右)

4-4-4 抽出した表現

表 4-4-3 「ちくちくきもの」表現

月	日	表現	内容
9	1	自分の手元に来た布たちは、なるべく余すところ無く使ってやらねば	無駄のない消費
	26	布を見たら、帯と思え	物を長く使う
	27	特に合いを入れることなく、和服も洋服と同じ感じで選択できるようになるのが理想	着物・普及
10	4	がつがつ普段着物として着ることである意味着なれてきたというか着込んできた	着物・着付け
	11	着崩れ・コワイなどと立ちすくんでいては着物なんて着られやしない	着物・着付け
	11	研究じゃ！と思うことで着崩れも楽しくなる	着物・着付け
	15	洋服を着るとお腹と腰の辺りがすーすーする	着物と洋服
	23	着物だって洋服並みに着られないと意味が無い	着物と洋服
	25	古いもの、がらくたちづな物、現地っぽいおりのするものが好き	古いもの
	28	着物が着たい！って思ったのに雨で諦めるなんて残念	着物・着付け
11	9	今の着物って、「着物＝正絹フォーマル」っていうイメージだけど、ゆるっとした着方もNGじゃないし、コーデババだって自由	着物・着付け
	17	着物を特別な技術と特別な意識が無いと着られない服、みたいな別世界に持っていくのが一番いけない	着物・着付け
12	2	今着たい着物、でも10年経ってもやっぱり着たい色柄、をテーマに選ぶ	物を長く使う
	7	気軽に縫う、で気軽に着る！ってことで着物の人が増えたらいいな	着物・普及
	17	手作り着物のデータベースにしたいなーと思っているブログ	着物・普及・ネット
	25	連日着物で腹回りを暖めていたら、代謝でもあがったのかそんなに寒くない	着物・からだ
	27	着物の入り口が色んなところに増えて、着物の人が増えるといいな	着物・普及
1	5	ジーンズのように、着物を選んでいだけ	着物と洋服
	13	着物って、誰に聞いても正解がわからない未知の衣服になろうとしているように思う	着物
	14	寒いから洋服着る気にならない	着物と洋服
	28	着物を着続けてたら身体全体が変わってきたような気がする	着物・からだ
	28	身体が着物に馴染むようになった	着物・からだ
	30	洋服って無駄が多い	着物と洋服
2	5	こんなサステナブルな衣服が環境っていう観点から見直されてないのが勿体ない	着物と環境
	5	着物業界の問題と環境問題とちよつと似てる・・・最大の悪化原因は無関心	着物と環境
	27	ネットで調べる→知る→繋がるの流れで、着物の楽しみ方ってどんどん変わっていく	着物・普及・ネット
	28	仕立てる→着る→洗う→また仕立てるのサイクルをセルフでやれるようにになりたい。これぞ普段着物の真骨頂！着物をライフスタイルとして楽しみたい！	物を長く使う
4	11	必ずしも着物＝キレイに着るものではない	着物・着付け
	27	雨だからって洋服を着る理由にもならない	着物・着付け
	27	「きぬものの常識」が「きもの常識」になっちゃってるって残念なことだ	着物・着付け
5	25	「フェアトレード」って言葉、今の着物にも当てはまる気がする	着物と環境
	27	毎日着てるようなヘビーユーザーほど、着物は自由でいいのよ！って柔軟な考えを持っているような気がする	着物・着付け
	28	ネットは、素人から問題に詳しい着物先輩や実際現場に居られる方まで一緒に話せる場所	着物・普及・ネット
	31	本来着物は着るもの、ただの服。いつだって着ていいもの	着物・着付け
6	18	布を見たら帯と思え！端切れを見たら半襟と思え！	物を長く使う
7	1	いい技を皆で教えあって育ちあう教室	着物・普及
8	2	本来の浴衣は～とかうんたら言うより、気軽な浴衣を手にとってもらえたことを喜びたい	着物・普及
	16	今の自分の豊かな生活が、誰かの貧しさを踏み台にしているのか、よくよく考えながら暮さないとな	消費生活
	17	着物で暮らすことに、特別テクも知識も必要ない	着物・着付け
	22	HPやmxiで着物を始めるための環境は結構整ってきているのでは？あとは品物だけなのか！？	着物・普及・ネット

着用に関して「研究じゃ！と思うことで着崩れも楽しくなる」(「ちくちくきもの」2008/10/11),「着物だって洋服並みに着られないと意味が無い」(「ちくちくきもの」2008/10/23),「着物を特別な技術と特別な意識が無いと着られない服、みたいな別世界に持っていくのが一番いけない」(「ちくちくきもの」2008/11/17),「毎日着てるようなヘビーユ

一ザーほど、着物は自由でいいのよ！って柔軟な考えを持っているような気がする」(「ちくちくきもの」2009/5/27)と、向上心があり、自由な着用を訴えており、現在の着物のイメージを変えたいという意識が頻繁に現れている。

一方で着物を誂る際には「今着たい着物、でも10年経ってもやっぱり着たい色柄、をテーマに選ぶ」(「ちくちくきもの」2008/12/2)このように長く着ることを前提に選択しており、着物の「長く着られる」という性質を無視していない。

洋服対しては『洋服離れ』とも取れる「寒いから洋服着る気にならない」(「ちくちくきもの」2009/1/14)、「洋服って無駄が多い」(「ちくちくきもの」2009/1/30)のような表現がみられる。

対象者は食べ物でもフェアトレードに心がけ、環境への関心も高いが「こんなサステナブルな衣服が環境っていう観点から見直されてないってのが勿体ない」(「ちくちくきもの」2009/2/5)、「着物業界の問題と環境問題とちょっと似てる・・・最大の悪化原因は無関心」(「ちくちくきもの」2009/2/5)このように既に環境の視点から着物を見ており、それぞれの問題解決に貢献すべく行動を取っている。

「手作り着物のデータベースにしたいな」と思っているブログ」(「ちくちくきもの」2008/12/17)、「HPやmixiで着物を始めるための環境は結構整ってきているのでは？あとは品物だけなのか!？」(「ちくちくきもの」2009/8/22)このように、ブログを通して着物の間口を広げ、ネットの繋がりを利用して着物着用を促す活動を行っている。

「仕立てる→着る→洗う→また仕立てるのサイクルをセルフでやれるようになりたい。これぞ普段着物の真骨頂！着物をライフスタイルとして楽しみたい！」(「ちくちくきもの」2009/2/28)現在ここまで徹底して昔の着物の在り方を実現させている人はいないといってもいい。そんな中、昔の着物の在り方に近づこうとする向上心・探究心がここにも窺える。

4-4-5 考察

湖藤氏は対象者の中で最も若く、着用歴も短い。着用開始からわずか1年半ほどではあるが、初心者だからこその他の初心者に着物の着方・作り方を紹介し、「こんなに簡単にできる」のだということを多くの人に広めようとしている。今年、対象者が発案し「5月29日ゴフクの日にも用もないのに着物を着る」というただ着物を着ることを目的としたイベントが行われたが、ブログでの呼びかけを元にネット上で反響を呼び、多くの着物着用者が着物を手に取るようになった。本研究の他の複数の対象ブログにも呼びかけの広告は波及しており、ネットの強みを垣間見るようになった。

着物着用とブログに慣れていく中で、話題相関に見たように「着物」「手作り」「手順」の話題を中心として様々な話題が繋がり合うという形が徐々に形成された。記事の内容では淡々と手順の紹介をしているがその中でも変化は起きている。手作り着物に関しては初めは洋裁ばかりだが、だんだんと和裁へと移行している。洋裁は短時間で簡単にできる一方で、和裁は端切れが出ずに無駄が無いことや生地を傷めない縫い方で糸を抜いて何度で

も仕立て直せるというそれぞれの長所を備えている。現状では両者を上手く組み合わせて作っているが今後「早く簡単に」「仕立て直しのできる」着物作りを研究していくと考えられる。

直接話を伺った際に、「洋服のファストファッションに疲れた」という言葉があった。流行が次々と変わり、どの店も同じようなものを売り、数年で着られなくなる使い捨ての洋服に疑問を持ったそう。そのような感じている若者も実はたくさんいて、そんな人間の一部が着物に来るという話であった。彼女の言葉通りならばそのうちに使い捨てのファッション業界に動きがあるというが、その動きが無ければ環境の視点から「衣」を見ることは難しいと言える。

4-5 対象5「丁髷 髪切り職人」

表 4-5-1 「丁髷 髪切り職人」 話題出現数

季節	秋(9～11)	冬(12～2)	春(3～5)	夏(6～8)
記事数	36	49	54	62
きもの	1	3	1	2
生地・素材	3	1	1	0
道具	0	1	0	2
本	1	0	0	0
着物	2	5	11	11
ふんどし	1	0	2	0
和小物	2	2	7	4
色	1	1	3	0
柄	1	1	0	0
コーデ	2	3	4	4
工夫	0	1	2	1
防寒・防暑	0	0	1	0
苦労	1	0	0	0
買い物	1	4	5	2
普及	0	0	2	2
和風	3	7	1	8
文化・習慣	1	3	7	7
言葉	1	2	0	1
日本美術	0	0	0	2
風物	0	3	1	5
季節	3	3	9	13
天気・気候	0	3	6	1
花・植物	0	2	9	3
旬の食材	0	0	0	1
料理	1	3	3	1
和食・和菓子	3	0	3	6
酒	1	1	3	3
食べ物	0	0	3	2
洋食	0	3	1	0
手入れ	1	2	1	0
手作り	1	0	0	3
再利用	0	1	0	0
環境配慮	4	5	4	0
活動的	0	0	1	0
健康・運動	2	2	6	5
ブログ	0	2	6	3
他の着用者	1	2	3	8
和イベント	1	1	9	10
他イベント	2	0	2	5
外出・旅行	2	3	4	5
寺院	2	1	2	5
洋物	1	4	2	2
仕事連絡	8	13	4	10
髪	5	1	0	1
丁髷	1	2	4	8
本(その他)	1	1	4	3
その他	4	7	3	8

表 4-5-2 「丁髷 髪切り職人」 話題想起率

	秋(9～11)	冬(12～2)	春(3～5)	夏(6～8)
きもの	3	6	2	3
生地・素材	8	2	2	0
道具	0	2	0	3
本	3	0	0	0
着物	6	10	20	18
ふんどし	3	0	4	0
和小物	6	4	13	6
色	3	2	6	0
柄	3	2	0	0
コーデ	6	6	7	6
工夫	0	2	4	2
防寒・防暑	0	0	2	0
苦労	3	0	0	0
買い物	3	8	9	3
普及	0	0	4	3
和風	8	14	2	13
文化・習慣	3	6	13	11
言葉	3	4	0	2
日本美術	0	0	0	3
風物	0	6	2	8
季節	8	6	17	21
天気・気候	0	6	11	2
花・植物	0	4	17	5
旬の食材	0	0	0	2
料理	3	6	6	2
和食・和菓子	8	0	6	10
酒	3	2	6	5
食べ物	0	0	6	3
洋食	0	6	2	0
手入れ	3	4	2	0
手作り	3	0	0	5
再利用	0	2	0	0
環境配慮	11	10	7	0
活動的	0	0	2	0
健康・運動	6	4	11	8
ブログ	0	4	11	5
他の着用者	3	4	6	13
和イベント	3	2	17	16
他イベント	6	0	4	8
外出・旅行	6	6	7	8
寺院	6	2	4	8
洋物	3	8	4	3
仕事連絡	22	27	7	16
髪	14	2	0	2
丁髷	3	4	7	13
本(その他)	3	2	7	5
その他	11	14	6	13

「丁髷 髪切り職人」の話題一覧と各季節の記事数、話題出現数は表 4-5-1、4-5-2 の通りである。唯一の男性対象者である。記事数に若干偏りが見られ、徐々に増えている。また、話題出現数もどんどん増えている。「丁髷」や「ふんどし」といった着物以外の話題も見られる。自営業で職場(美容院)のブログも兼ねているため「仕事連絡」や「髪」の話題もある。

4-5-1 単純集計

図 4-5-3 のカテゴリーでは「外出・交流」が特に増えているが、その他は一様に増えている。図 4-5-2 のように、話題では特に「着物」「季節」「他の着用者」「和イベント」が顕著に増えている。

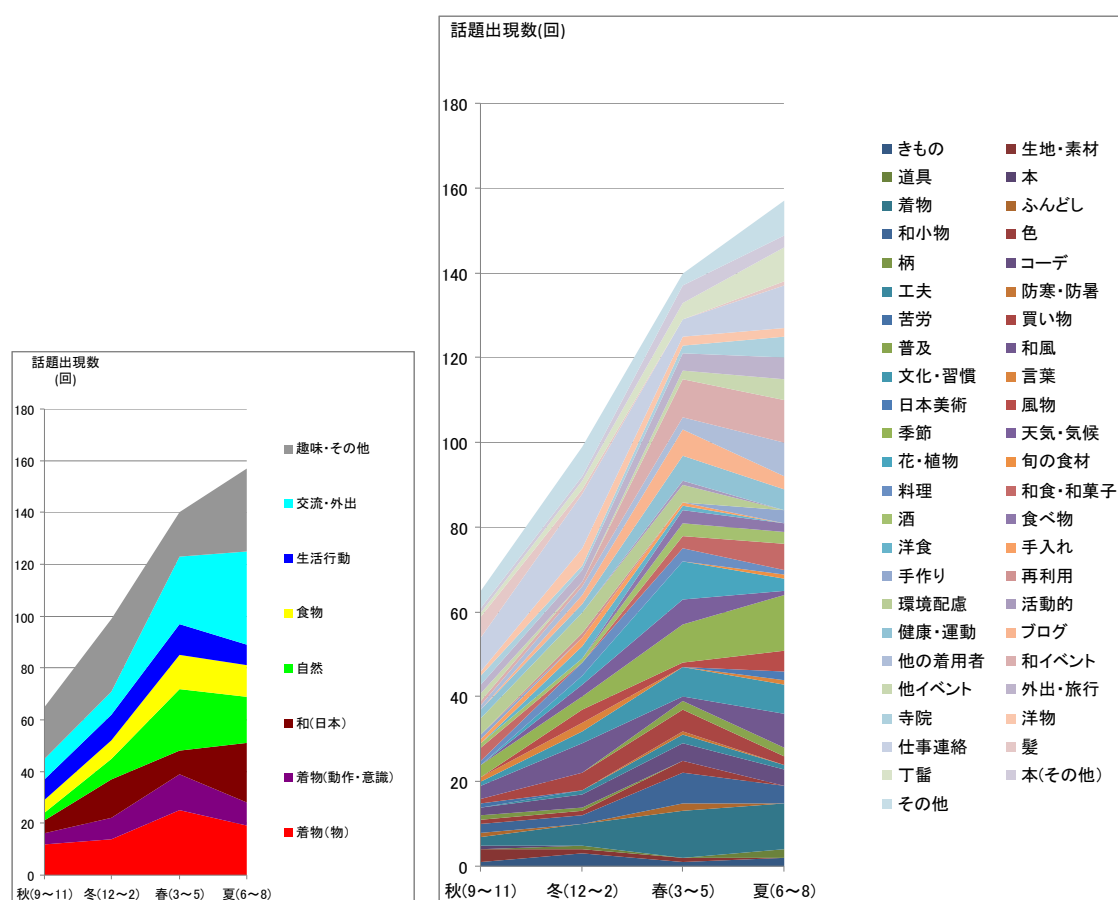


図 4-5-1 「丁髷 髪切り職人」 カテゴリー別話題出現数(左)

図 4-5-2 「丁髷 髪切り職人」 話題別話題出現数(右)

4-5-3 話題相関図

話題相関図の特徴

- 「仕事連絡」の話題が多いが、「和風」「着物」「他の着用者」など着物着用に関する話題との繋がりがある
- 「着物」以外の赤色の「着物(物)」カテゴリーや紫の「着物(動作・意識)」カテゴリーの話題が他の対象者に比べて少ない
- 青の「生活行動」や水色の「交流・外出」カテゴリーの話題が多く、着物着用やブログを通じて知り合った人との交流が記事に紹介されている
- 「環境配慮」と「天気・気候」が繋がっているのは自宅で太陽光発電を行っているため

対象の中で唯一の男性であるため「コーデ」や「着付け」の話題は少ない。多くの話題とつながっている話題はたくさんあるのに、相関図は複雑にはなっていない。

図 4-5-5 の秋は、ほとんどの話題出現数が少ないため、強いつながりはあるものの同時に記事に登場するのは2回程度である。

図 4-5-6 の冬は「環境配慮」と「天気・気候」がつながっているが、これは太陽光発電を家で行っているためである。「和イベント」や飲み会(「酒」)で「他の着用者」との交流をしていることもわかる。

図 4-5-7 の春は「自然」カテゴリーの話題と「着物」「和小物」の話題が増えるがあまり強いつながりはない。「きもの」「風物」「普及」が互いにつながっている。

図 4-5-8 の夏は「文化・習慣」や「和イベント」「和風」「寺院」など着物とは別の日本らしいものの話題が目立ち、他の話題ともつながっている。

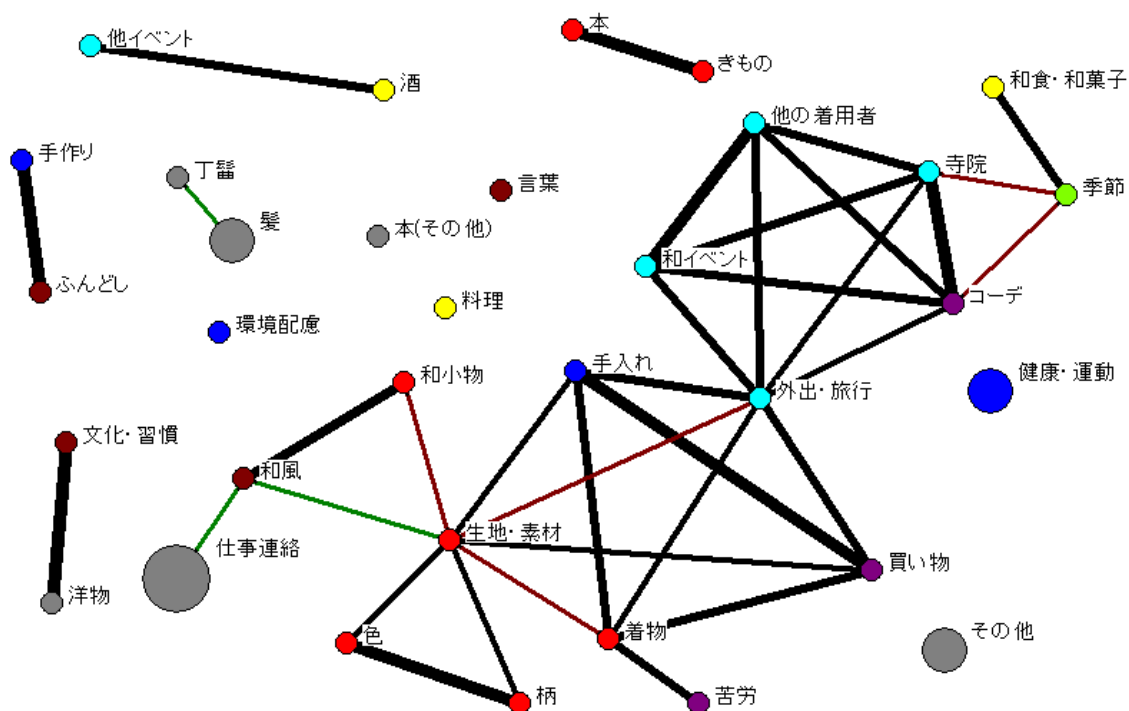


図 4-5-5 「丁髷 髪切り職人」話題相関図 秋

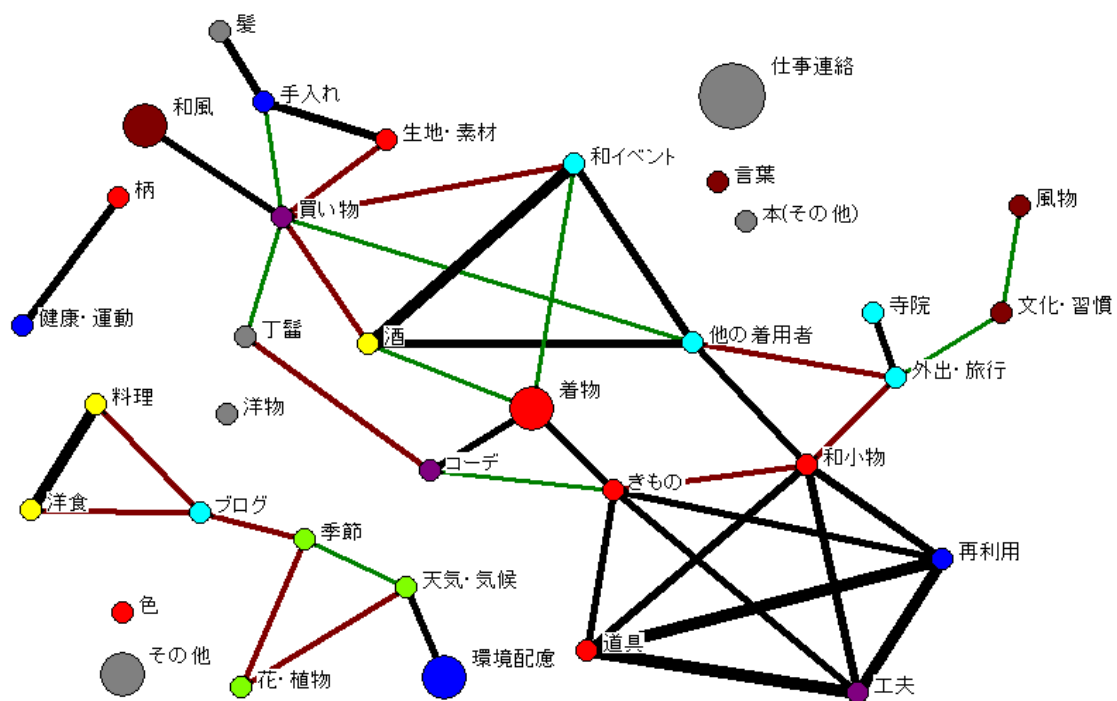


図 4-5-6 「丁髷 髪切り職人」話題相関図 冬

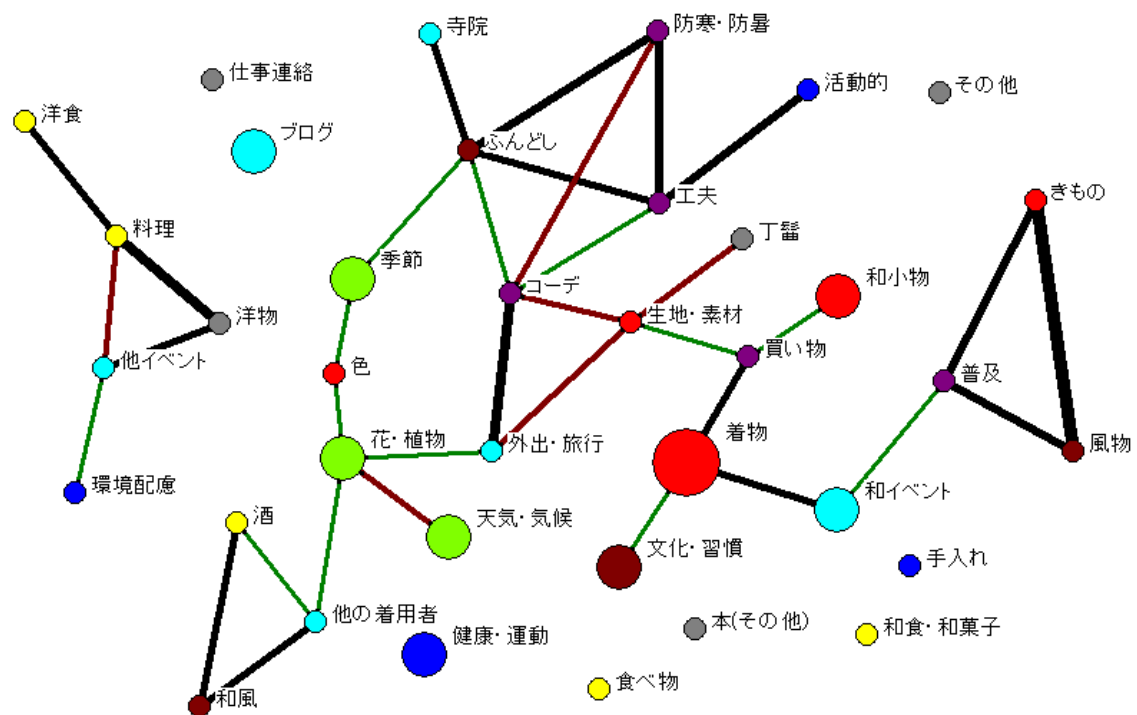


図 4-5-7 「丁髷 髪切り職人」話題相関図 春

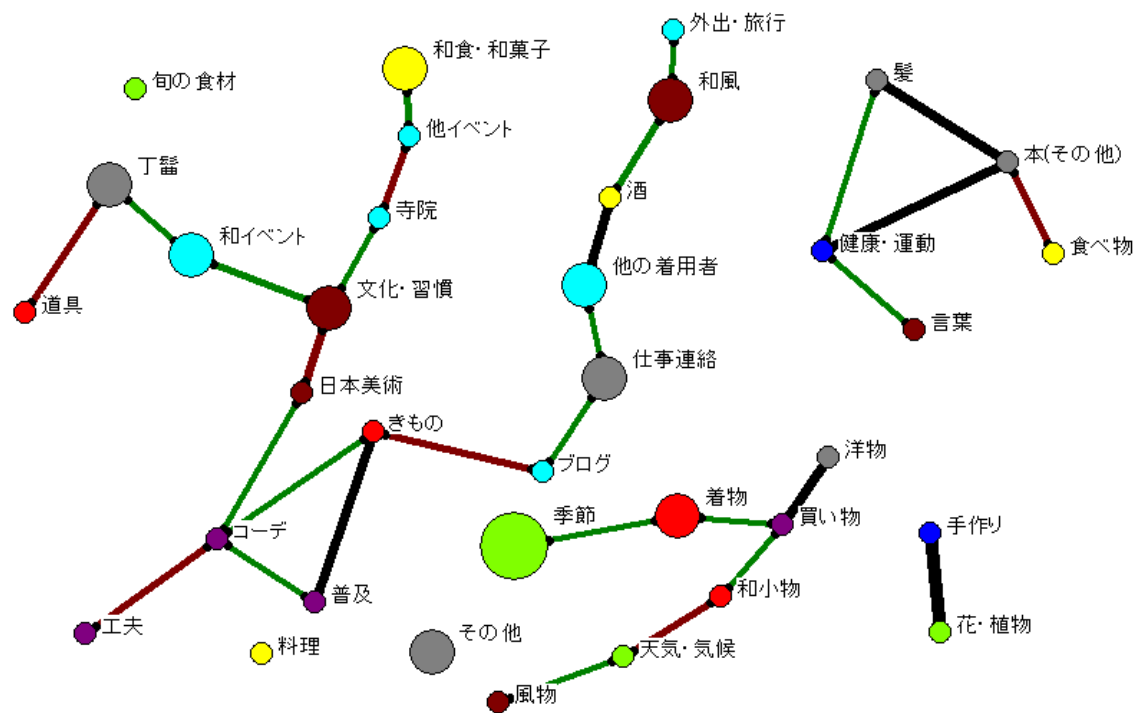


図 4-5-8 「丁髷 髪切り職人」話題相関図 夏

4-5-4 抽出した表現

表 4-5-3 「丁髷 髪切り職人」表現

月	日	表現	内容
12	10	どんなものでも磨いてあげれば必ずキレイになる。これは自分の身なりでも同じ	
	23	楽しいと笑顔になる！笑顔の人を見てると楽しくなる！するとみんなが笑顔になる！	
1	16	今では着物を着ない日がないくらいで着物を着ている方が楽。特に冬は帯でお腹が冷えにくい	着物・からだ
2	7	昔、着物には男女の区別がなかった	着物
	19	久しぶりにズボンを履いたらおなかが冷えて・・・。	洋服
	19	着物は習うより慣れろ	着物・着付け
3	5	古臭いだのなんだのと言ってないがしろにしてきた日本人・・・日本独自のいいものはたくさんあるはずなのに。	文化・日本
4	9	着物を着たい人さあ集まれとスーツを着た人が宣伝してもあまり説得力がない	着物・洋服
5	23	自分とは自然から分けてもらうから自分なんだ	自然
6	11	何かを創るって楽しい	
	12	自然に近いものを使うのが一番	自然
	16	着たいという気持ちが嬉しいのでお代なんていただきません	着物・普及
	25	どうせやるならとことんやらねば・・・浴衣を着て寝てみました	着物
8	1	人間も植物もあまり甘やかしてはいけない	生活
	25	西洋のものもいいでしょうけど日本の物ももっとじゃんじゃん使いましょう	日本

「着物は習うより慣れろ」(「丁髷 髪切り職人」2009/2/19)ここでもとにかく着物を着ようという意見が見られる。実際毎日着物で生活している人にとっては「久しぶりにズボンを履いたらおなかが冷えて」(「丁髷 髪切り職人」2009/2/19)という風に洋服よりも着物の方がからだに合うようになるようだ。

伝統や文化に関して「古臭いだのなんだのと言ってないがしろにしてきた日本人・・・日本独自のいいものはたくさんあるはずなのに」(「丁髷 髪切り職人」2009/3/5)との表現にもあるが対象者は着物を着ようになって日本のもの全般に興味が出たという。

どの着用者にも共通するが「何かを創るって楽しい」(「丁髷 髪切り職人」2009/6/11)この表現のように物を作ることに魅力を感じている。

「自然に近いものを使うのが一番」(「丁髷 髪切り職人」2009/6/12)肌に直接つけるものは着るものでも食べるものでも化粧品でも天然素材が一番いいということを日ごろから心がけているような表現が何度か見られた。

対象 4 の湖藤氏は着付け教室をほぼ無料で行っているが「着たいという気持ちが嬉しいのでお代なんていただきません」(「丁髷 髪切り職人」2009/6/16)と、長田氏も男性の浴衣の着付けを無料で行う告知があった。

4-5-5 考察

男性なので着付けが容易で使う道具も女性よりはるかに少ないので、苦勞するところはさほど無いという。元々環境に興味があり、着物には流行が無いことや長く着られることに惹かれて着用を開始したので生活に定着しやすかったと考えられる。

話題では「和風」カテゴリーの話題や「交流・外出」カテゴリーの特に「寺院」や「和

イベント」などの日本らしいことの話が増え、総監図でもそれらの話題が次第に他の話題とのつながりを増やしている。

着用するようになって「洋服にはいいところがない」「どうしてもっと着物を着なかったのか」と感じるそうで、現代人は洋服に慣れすぎてその欠点が見えていないことも考えられる。

4-6 対象6「お気楽着物暮らし」

表 4-6-1 「お気楽着物暮らし」 話題出現数

季節	春(3～5)	夏(6～8)
記事数	17	16
きもの	1	1
生地・素材	1	5
道具	1	5
本・記事	6	2
着物	1	4
和小物	6	2
色	1	0
柄	3	0
着付け	0	1
コーデ	2	1
工夫	1	2
防寒・防暑	0	2
苦労	0	1
買い物	6	2
ネットショッピング	2	2
和風	1	1
季節	4	1
天気・気候	3	0
花・植物・自然	3	1
料理	0	1
食事	2	1
手入れ	1	0
手作り	0	1
再利用	1	0
環境配慮	1	0
健康・運動	1	2
他の着用者	1	0
和イベント	1	0
洋物	0	1
写真	1	0
その他	0	2

表 4-6-2 「お気楽着物暮らし」 話題想起率

	春(3～5)	夏(6～8)
きもの	6	6
生地・素材	6	31
道具	6	31
本・記事	35	13
着物	6	25
和小物	35	13
色	6	0
柄	18	0
着付け	0	6
コーデ	12	6
工夫	6	13
防寒・防暑	0	13
苦労	0	6
買い物	35	13
ネットショッピング	12	13
和風	6	6
季節	24	6
天気・気候	18	0
花・植物・自然	18	6
料理	0	6
食事	12	6
手入れ	6	0
手作り	0	6
再利用	6	0
環境配慮	6	0
健康・運動	6	13
他の着用者	6	0
和イベント	6	0
洋物	0	6
写真	6	0
その他	0	13

「お気楽着物暮らし」の話題一覧と各季節の記事数、話題出現数は表 4-6-1, 4-6-2 の通りである。分析に使えた期間が短く記事数も少ないが参考に用いる。必然的に話題も他の対象より少なく、中でも「和(日本)」の категорияが少ない。

4-6-1 単純集計

図 4-6-1 のカテゴリーでは「自然」と「交流・外出」が減っているが、図 4-6-2 の話題で見ると減っているのは「天気・気候」「季節」「柄」「和(日本)」の категорияで、「生地・素材」「道具」「着物」は増えている。

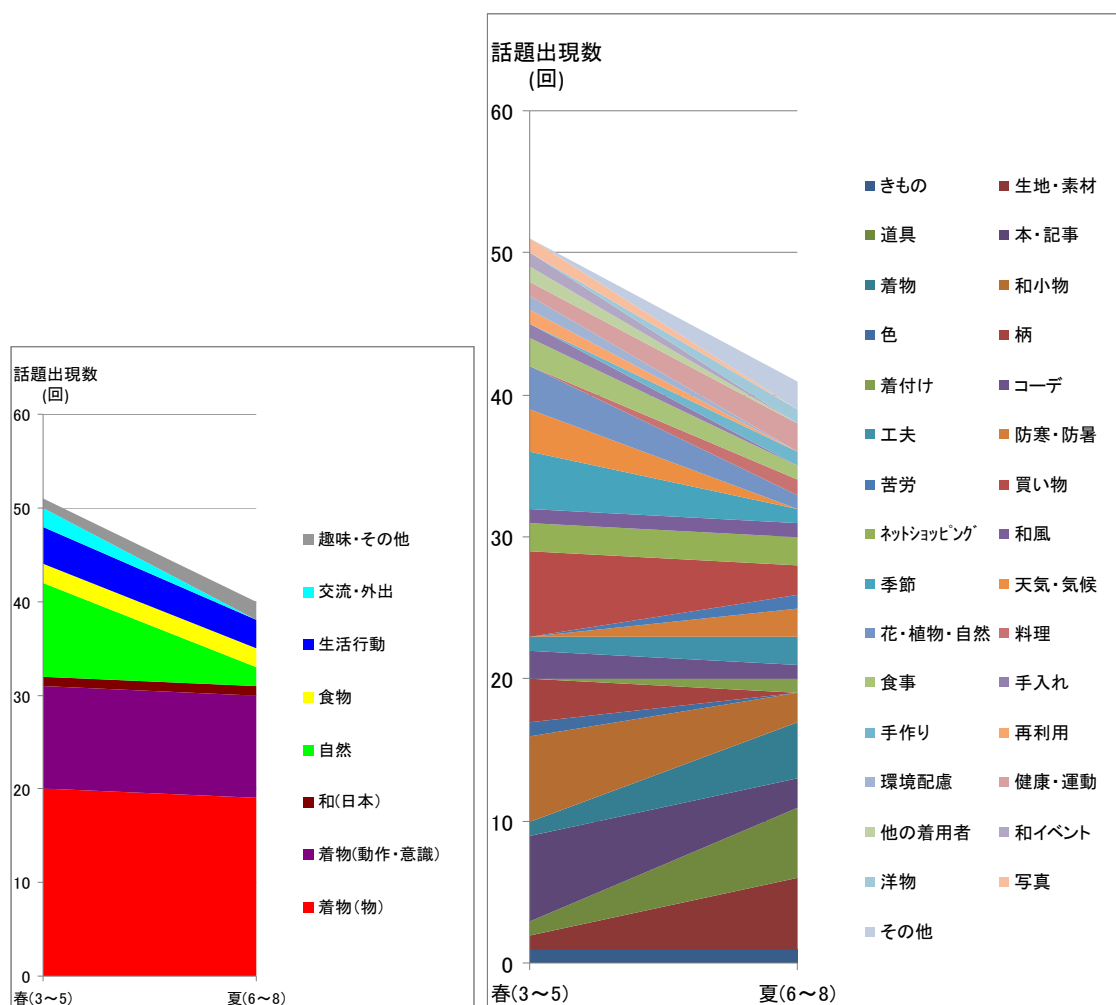


図 4-6-1 「お気楽着物暮らし」 カテゴリー別話題出現数(左)

図 4-6-2 「お気楽着物暮らし」 話題別話題出現数(右)

4-6-2 話題想起率

季節変化かどうかは判別し難いが，春から夏に急激に減っているものには「色」「柄」と「季節」「天気・気候」「花・植物・自然」といった自然の話題があり，増えたものには「生地・素材」「道具」「着物」「防寒・防暑」がある．

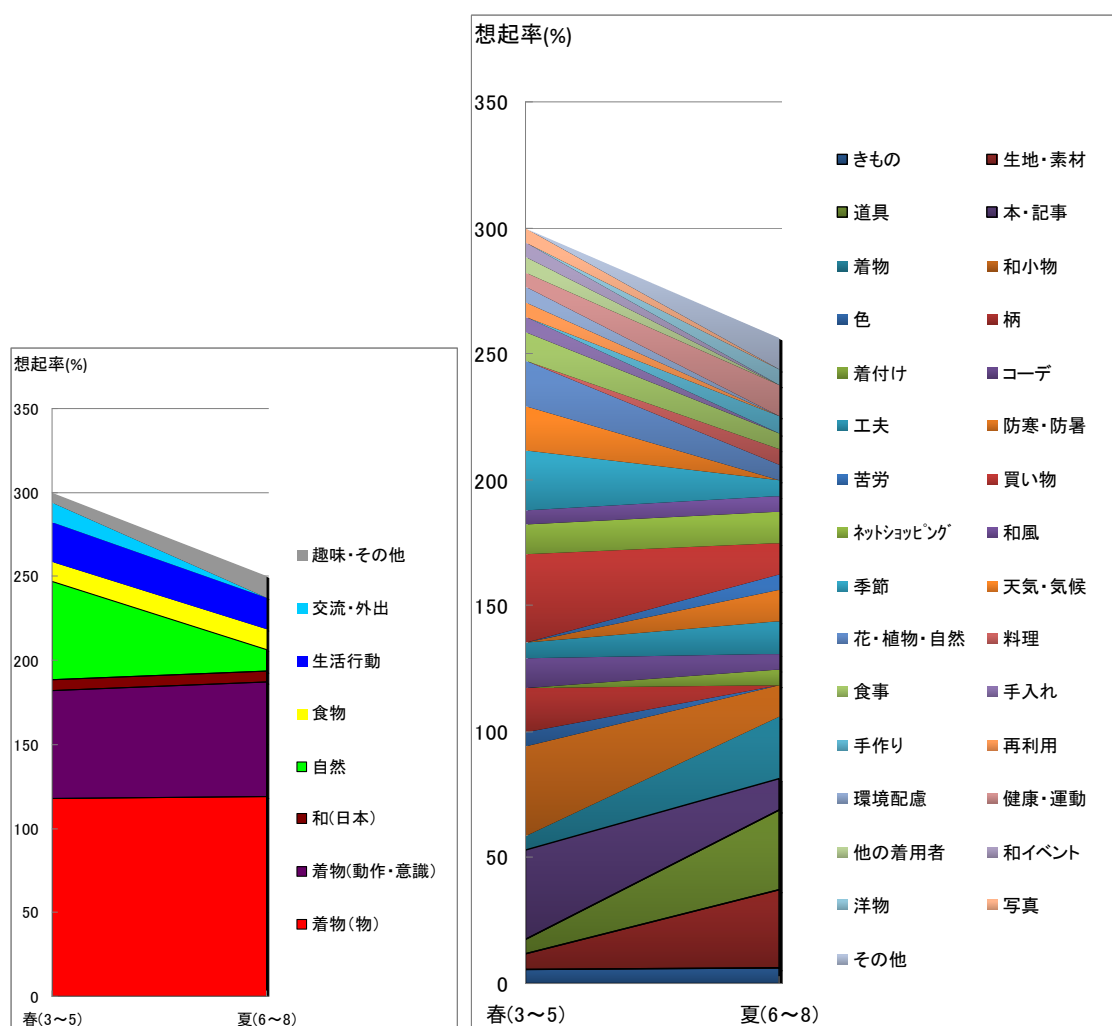


図 4-6-3 「お気楽着物暮らし」 カテゴリー別話題想起率(左)

図 4-6-4 「お気楽着物暮らし」 話題別話題想起率(右)

4-6-3 話題相関図

話題相関図の特徴

- 赤色の「着物(物)」, 緑の「自然」カテゴリーの話題が春に目立って出現している
- 多くの話題が互いにつながり, 多角形を形成している

図 4-6-5 の春は「和小物」と「柄」を中心として「本・記事」や「買い物」の話題がつながっている集団と「天気・気候」を中心として「着物」や「工夫」などがつながっているグループとに分かれている。

図 4-6-6 の夏には「自然」カテゴリーの話題は減り, 「防寒・防暑」が多くなり「生地・素材」や「着物」と繋がっている。「道具」は想起率が高いが他の話題との繋がりはほとんど見られない。

春に多くの話題とつながっている「和小物」と「柄」は想起率もつながりも減り, 代わりに「生地・素材」や「防寒・防暑」が出てきたという印象を受ける。

4-6-4 抽出した表現

表 4-6-3 「お気楽着物暮らし」表現

月	日	表現	内容
2	14	ここは、こうとか堅苦しいのは無し！気楽に楽しく着物を着ましょ	きもの
	15	変わった感じが好きでヒトと同じがキライ。着物には流行がない	きもの
	25	着物だけでなく日本の様々な古いものに関心を持つようになった	古いもの
3	22	物を専門のお店で買うのっていい	伝統・文化
4	22	雨の日も着物を着ようではないか	天気・着物
6	18	ほぼ毎日着物を着て生活してるのだから寝る時も和でいい	着物
	18	お寝間着の場合は寝冷えしない	着物
7	15	マクロビオティックを少しずつ取り入れている	食事・健康
9	10	暑いのに「きまりだから」と気候に合っていないものを着なくてもよいと思う	きもの・季節

着物で生活している人には「ここは、こうとか堅苦しいのは無し！気楽に楽しく着物を着ましょ」(「お気楽着物暮らし」2009/2/14)このように縛られない着用が必要である。

「変わった感じが好きでヒトと同じがキライ。着物には流行がない」(「お気楽着物暮らし」2009/2/15)対象者の嗜好に着物がちょうど当てはまり、着用につながった。

「着物だけでなく日本の様々な古いものに関心を持つようになった」(「お気楽着物暮らし」2009/2/25)のように着用を続けるうちに日本のことに興味が出てきたという表現もある。

「マクロビオティックを少しずつ取り入れている」(「お気楽着物暮らし」2009/7/15)元々健康や環境に気を配る方だったというこの対象者は、マクロビオティックを取り入れて体質に変化があった。

4-6-5 考察

相関図は二つしかないが、春には「自然」カテゴリーの話題が多く着物関連の話題と強くつながっていることや、夏に「生地・素材」や「防寒・防暑」の話題が多くなり同様につながりが多くなることは、他の対象者にも見られることで、春には季節感を感じたり自然に目が向くようになったり、夏の暑い季節には着物の素材や防暑について考えることが多いことがわかる。

おそらくくろこ氏に話を伺ったところ、自宅は太陽光発電で、食べ物は野菜中心でマクロビオティックを取り入れ、寝るときはベッドでなく敢えて布団を使用し、できれば古民家に住みたいということであった。対象者のライフスタイルに着物着用が必然的に組み込まれたとも考えられる。こちらも着物着用開始後は洋服を着たくなかったということだったので、生活に着物が合わせやすい人ほど洋服離れが起こればと考えられる。

第5章 対象間比較と着用者のパターン

第5章 対象間比較と着用者のパターン

第4章では各対象のブログの特徴を見てきたが、ここからは話題想起率や話題相関図を対象間で比較し、また、アンケート等で得られた対象の属性や着物着用に関する性質ごとにブログ分析の結果を比較し、対象同士の共通点やパターンを考察する。

5-1 項目ごとの比較

ブログ記事の話題分類に使用した話題は6対象で71種類であった。このうち、全ての対象において同様に登場した31種類の話題について、各対象での想起率を比較した。比較の結果、得られた話題出現の傾向を以下に紹介する。

なお、対象ごとに使用した話題一覧を表5-1に示す。このうち、31種類の話題については同表の右欄で赤字にて示したものである。

表 5-1 ブログ記事分類話題一覧

	着物新聞	キモノは別腹	ティータイム	ちくちくきもの	丁髷	お気楽着物日和	
着物(物)	きもの	きもの	きもの	きもの	きもの	きもの	きもの
	生地・素材	生地・素材	生地・素材	生地・素材	生地・素材	生地・素材	生地・素材
	道具	道具	道具	道具	道具	道具	道具
	本	本	本	本	本	本・記事	本
	着物	着物	着物	着物	着物	着物	着物
	ふんどし				ふんどし		ふんどし
	和小物	和小物	和小物	和小物	和小物	和小物	和小物
	色	色	色	色	色	色	色
着物(動作・意識)	柄	柄	柄	柄	柄	柄	柄
	着付け	着付け	着付け	着付け		着付け	着付け
	コーデ	コーデ	コーデ	コーデ	コーデ	コーデ	コーデ
	工夫	工夫	工夫	工夫	工夫	工夫	工夫
	防寒・防暑	防寒・防暑	防寒・防暑	防寒・防暑	防寒・防暑	防寒・防暑	防寒・防暑
	苦労	苦労・悩み		苦労・悩み	苦労	苦労	苦労・悩み
	姿勢						姿勢
				得典			特典
	教室	教室	教室	教室(習)			教室
				教室(教)			教室(教)
	目標						目標
	買い物	買い物	買い物	買い物	買い物	買い物	買い物
	ネットショッピング			ネットショッピング		ネットショッピング	ネットショッピング
	販売		販売				販売
			考え	考え			考え
				手縫い			手縫い
和(日本)		仕立て		仕立て			仕立て
			染色				染色
	普及	普及	普及(アドバイス)	普及	普及		普及
	和風	和風	和風	和風	和風	和風	和風
	文化・習慣	文化・習慣・伝統・昔	文化・伝統・歴史	文化・伝統・歴史	文化・習慣	文化・習慣	文化・伝統・歴史
	着物文化検定						着物文化検定
自然		言葉			言葉		言葉
	日本美術	日本美術		日本美術	日本美術		日本美術
	風物	風物	風物	風物	風物		風物
		茶道	茶道				茶道
食物	季節	季節	季節	季節	季節	季節	季節
	天気・気候	天気・気候	天気・気候	天気・気候	天気・気候	天気・気候	天気・気候
	花・植物	花・植物	花・植物	花・植物	花・植物	花・植物・自然	花・植物
	旬の食材	旬の食材	旬の食材		旬の食材	旬の食材	旬の食材
	料理				料理	料理	料理
	和食・和菓子	和食・和菓子	和菓子	和食・和菓子	和食・和菓子		和食・和菓子
生活行動	酒				酒		酒
		食事・食べ物	食事	食事・食べ物	食べ物	食事	食事・食べ物
			ティータイム				ティータイム
	鍋						鍋
	居酒屋						居酒屋
	ファーストフード						ファーストフード
交流・外出	洋食	洋食			洋食		洋食
	手入れ	手入れ	手入れ	手入れ	手入れ	手入れ	手入れ
	手作り	手作り	手作り	手作り	手作り	手作り	手作り
				手順			手順
	再利用	再利用	再利用	再利用	再利用	再利用	再利用
	環境配慮		環境意識	環境配慮	環境配慮	環境配慮	環境配慮
趣味・その他	活動的	活動的	活動的	活動的	活動的	活動的	活動的
	健康・運動	健康・からだ	健康・からだ	健康・からだ	健康・運動	健康・運動	健康・身体
	ブログ	ブログ	ブログ	ブログ	ブログ	ブログ	ブログ
	他の着用者	他の着用者	他の着用者	他の着用者	他の着用者	他の着用者	他の着用者
		家族・友人	家族・友人	家族・友人			家族・友人
	和イベント	和イベント	和イベント	和イベント	和イベント	和イベント	和イベント
趣味・その他	他イベント	他イベント	他イベント	他イベント	他イベント	他イベント	他イベント
	外出・旅行	外出・旅行	外出・旅行	外出・旅行	外出・旅行	外出・旅行	外出・旅行
				家事・育児			家事・育児
	寺社	寺社	寺社	寺社	寺社	寺社	寺社
	洋物	洋物	洋服	洋服	洋服	洋服	洋服・洋物
		仕事		仕事連絡			仕事
		宣伝	宣伝	宣伝			宣伝
	時間			時間			時間
					写真	写真	写真
				丁髷			丁髷
趣味・その他				本(その他)			本(その他)
	マラソン						マラソン
	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他

① 「きもの」「生地・素材」「道具」「着物」「着付け」「工夫」のグラフは似通っている

これらの話題は、いずれの対象者も想起率が年間を通して高く、着物着用者が運営するブログの中心的な話題になっていると考えられる。季節による特徴は無いが着用者に共通点があると言え、対象1の「ほぼ日刊？着物新聞」と、対象4も「ちくちくきもの」の着物着用初心者では特に想起率が高くなっている(着用歴については「5-3-2 属性と着用者のパターン (2)年代および着用歴」にて後述)。

その他、対象者に共通して多く見られる話題には「和小物」「コーデ」「外出・旅行」がある。

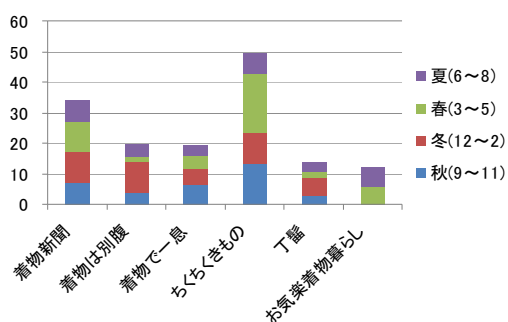


図 5-1-1 想起率比較「きもの」

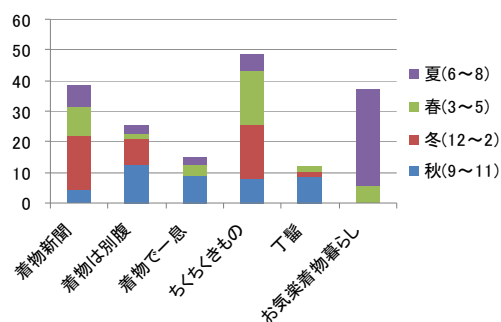


図 5-1-2 想起率比較「生地・素材」

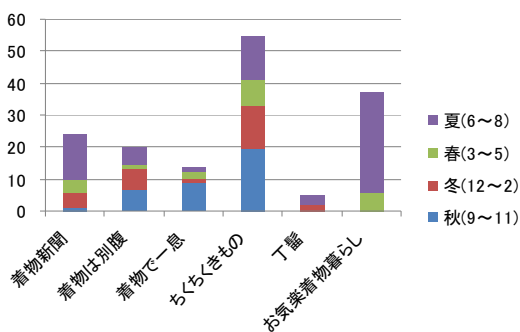


図 5-1-3 想起率比較「道具」

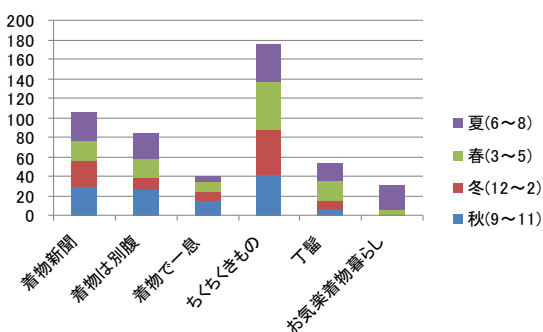


図 5-1-4 想起率比較「着物」

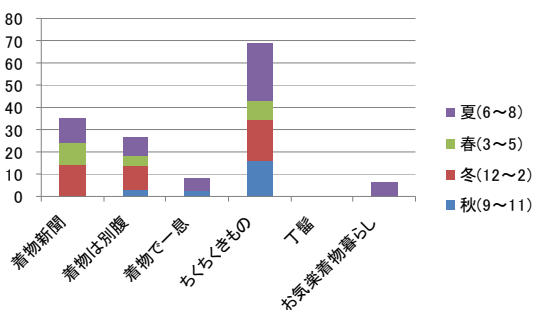


図 5-1-5 想起率比較「着付け」

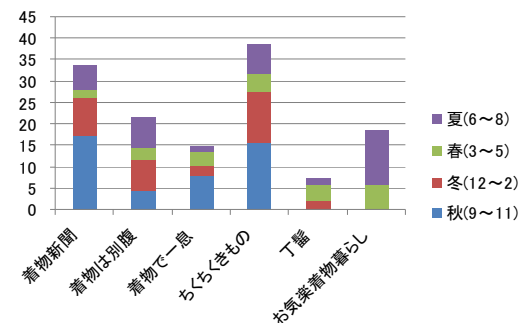


図 5-1-6 想起率比較「工夫」

② 日本らしいものの話題をよく扱う

アンケートや表現で「日本のことに興味がわくようになった」としていた着用者を中心に、どの着用者も「和風」や「文化・伝統・歴史」「和イベント」などの話題を多く取り上げており、日本のことに興味があることがわかる。特に着用歴が短い中で「日本の繊細な感性や技術が詰った伝統工芸ってすごい！この技術は無くならないでほしいし、自分がそれを買ったり身につけることで貢献したい(2009/5/15,「ほぼ日刊？着物新聞」)」のような表現もよく見られる対象1では時系列に沿ってその増加傾向が顕著に表れている。

一方、洋服や洋風のものについての話題は想起率が低い。その中でも対象1「ほぼ日刊？着物新聞」,4「ちくちくきもの」,5「丁髷 髪切り職人」は想起率がやや高くなっており、着用歴が浅い者の方がより「洋物」の話題を扱うと推察される。

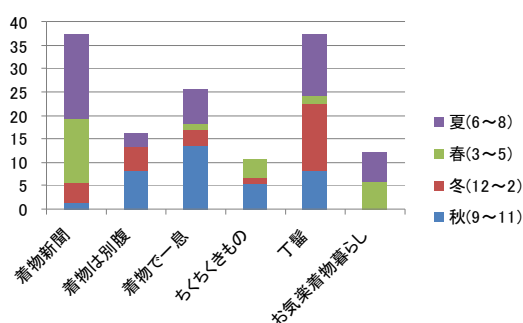


図 5-1-7 想起率比較「和風」

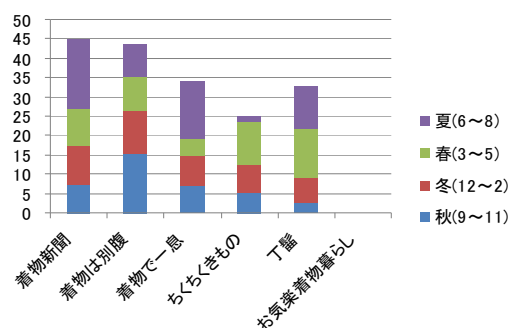


図 5-1-8 想起率比較「文化・伝統・歴史」

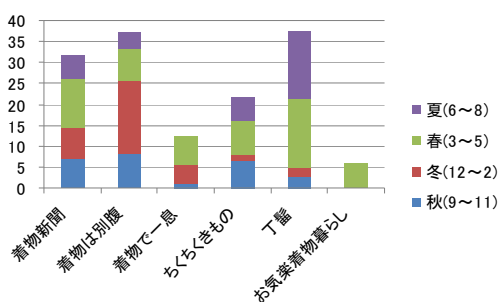


図 5-1-9 想起率比較「和イベント」

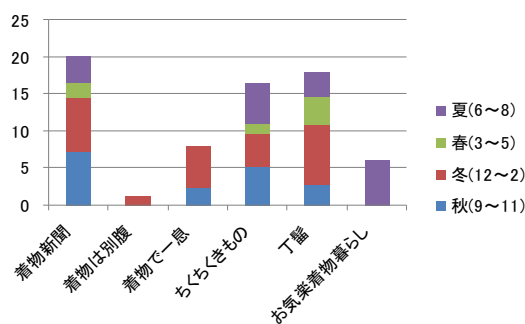


図 5-1-10 想起率比較「洋服・洋物」

③ 「苦労・悩み」の話題はほとんど扱われない

対象2のひよさ氏から「この話題については意識的に避けている」という意見を頂いたが、どの着用者も想起率は低い。「苦労・悩み」の話題が出現する記事には、悪天候の際の対処の話題などがあるが、着付けに関する悩みや和装の際の苦労などは話題としてあまり登場しない。対象者は長年の和装経験がある者や日常的に着物を着ている者なので、「普段着着物ならできないことはほとんどない(2009/3/1,「ほぼ日刊？着物新聞」)」という表現にもあるように、「着物だから」といえるような苦労はあまり感じていないと考えられる。

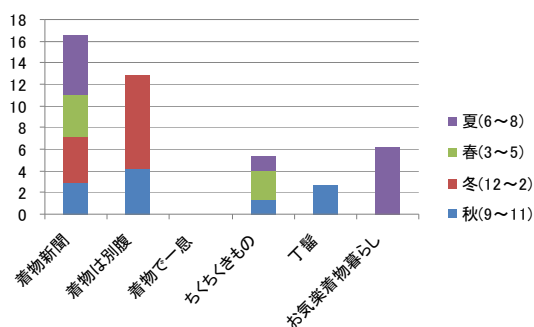


図 5-1-11 想起率比較「苦労・悩み」

④ 「手作り」「再利用」へのこだわり

対象者は「物を作ること」にも「手作りの物」にも興味関があり，着物に限らず「再利用」をしたり物を大切に長く使う行動が共通して見られる．着物着用者は小物や着物などの和装品を手作りすることが多いほか，「和裁にしても，ベランダ菜園にしても，料理にしても，手間はかかるが『作る』って楽しい！やっぱり消費だけじゃ生活って充実しないんだろうね．」（「ほぼ日刊？着物新聞」2009/6/30），「修理・修復・再生・復活・・・考えるだけでも楽しい」（「キモノは別腹」2008/12/3）などの表現にもある通りものを作ることが好きな着用者が多い．また「不要になった物を作り替えたり自然素材で作った帯留め，エコを楽しんでいます．」（「着物で一息♪ティータイム」2009/5/22）のように，不要になった物や使えなくなった者を作り替えるという行動は複数の着用者で頻繁に見られる．「ちくちくきもの」ではそもそも「作ること」がブログのテーマとなっている．

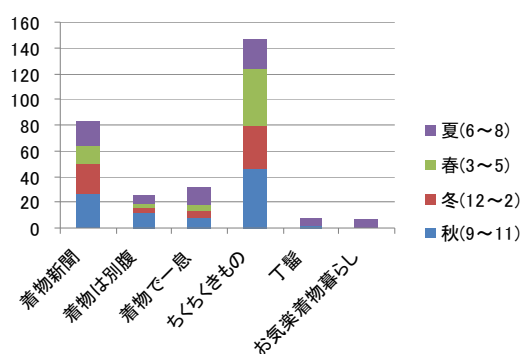


図 5-1-12 想起率比較「手作り」

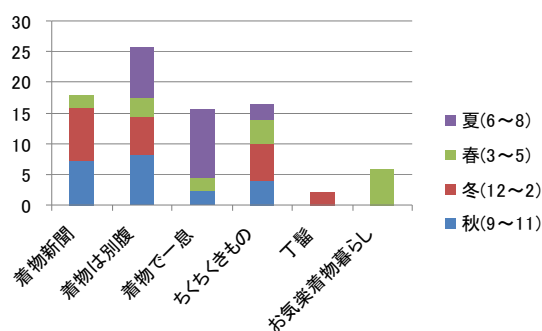


図 5-1-13 想起率比較「再利用」

⑤ 他の着用者との交流

「他の着用者」の話題は、ほぼ全員において時系列に沿って想起率が高まる。着物を着用することで知り合いが増えたりブログを通して繋がりが広がることがわかっており、着用歴が長く前者があまりなくてもブログは近年 1,2 年で付け始めた着用者が多いため後者が増える。

アンケートの結果にも「一緒に楽しむ仲間が出来たことも、着る機会が増える原因になった」「着物を着ていると知り合いが増える」などの意見があり、着物着用やブログを通して他の着用者との繋がりが生まれ、そのことによって着物着用の機会が増えたりブログ執筆の意欲を高めたりしていると考えられる。

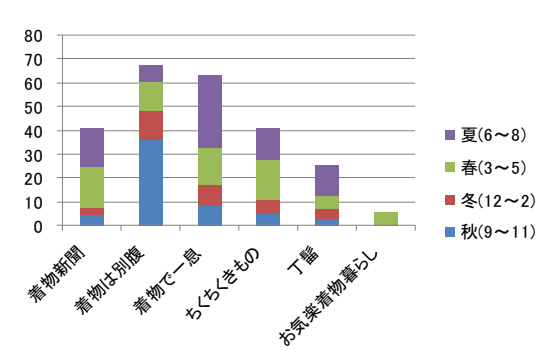


図 5-1-14 想起率比較「他の着用者」

⑥ 季節による想起率の変化が特徴的な話題

季節による想起率の変化が各対象に共通しているものは表 5-2 にまとめている。

「着付け」や「防寒・防暑」の想起率が増減するのは気候の変化のためであると考えられる。一方で「色」や「柄」や「道具」の話題が夏に減るのは、夏の着物の色や柄が他の季節に比べて単一化することや着付けが簡素になるためであると考えられる。

春に「花・植物」の話題が増えるのは桜の季節であるためである。日本の国花であり着物の柄にも最も多い桜は話題にも取り上げられやすい。

表 5-2 季節によって想起率が変化する話題

季節	想起率が高くなる話題	想起率が低くなる話題
秋		
冬	着付け, 防寒・防暑, 買い物, 風物	
春	買い物, 花・植物,	
夏	着付け, 風物,	道具, 色, 柄, 買い物

5-2 話題相関図の比較

話題相関図では各話題の話題出現率(想起確率)を丸いアイコンの大きさに示している. 同じ記事に出現した話題を線でつなぎ, その回数が多いほど太くなっている.

表 5-3 話題相関図 つながりの凡例(回)

			
各対象の相関図	3	4	5～
全対象の相関図		25～29	30～

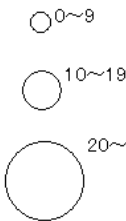
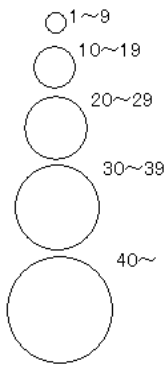


図 5-2-a 対象別話題相関図アイコン凡例(%) 図 5-2-b 全対象話題相関図アイコン凡例(%)

(1) 秋(2008/9～2008/11)

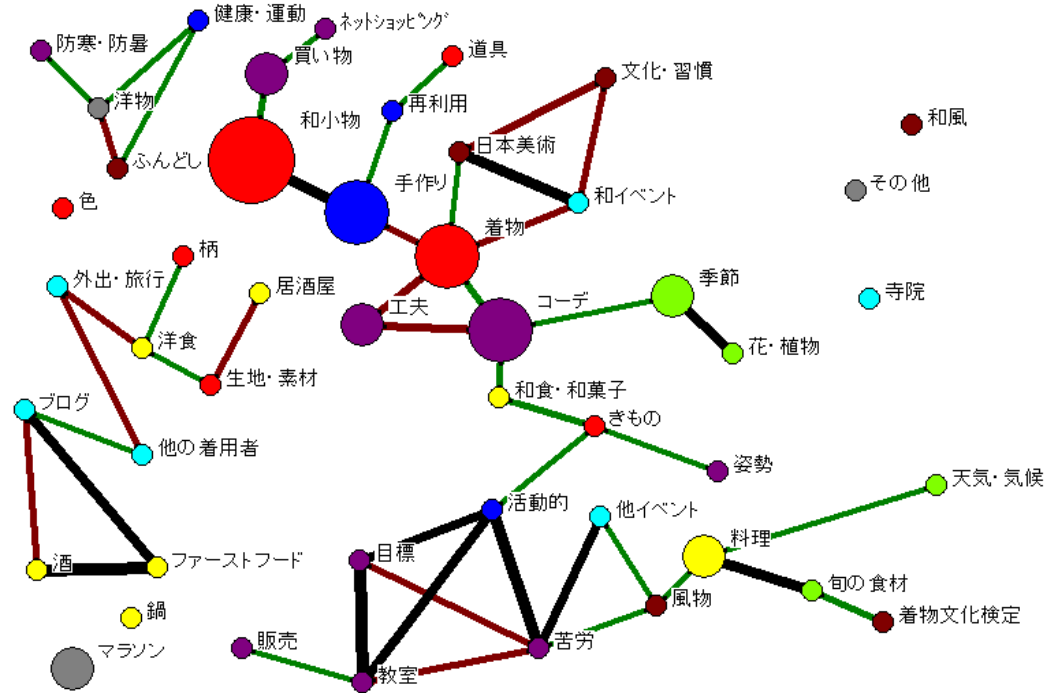
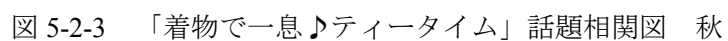
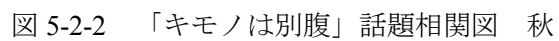


図 5-2-1 「ほぼ日刊? 着物新聞」 話題相関図 秋



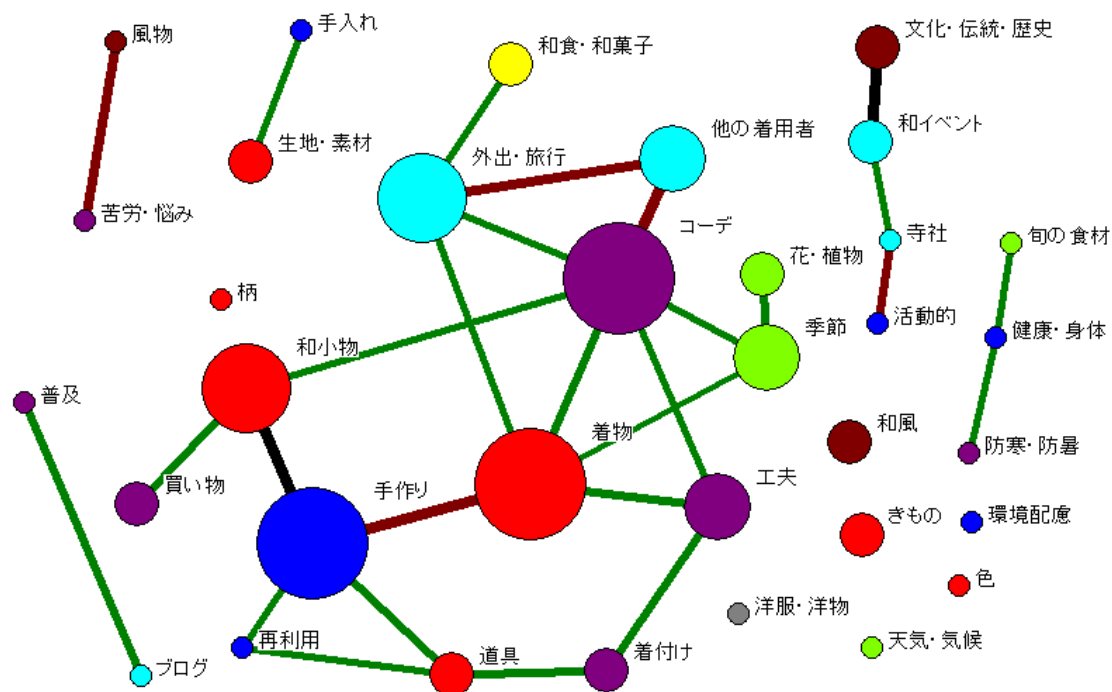


図 5-2-6 全対象話題相関図 秋

対象に共通する「話題相関図 秋」の特徴は以下の通りである。

- ①「他の着用者」の話題が「手作り」や「コーデ」とつながる
→他の着用者が作った小物などの紹介やコーディネートを紹介を挙げている。
- ②「和食・和菓子」の話題が「外出・旅行」,「コーデ」とつながる
→外出先で食べた物の紹介をする記事またはコーディネートと食事をセットで紹介する記事が多い。
- ③「着物」と「コーデ」のつながりの数が多い
→このふたつの話題を中心に記事が展開されやすいと考えられ, 簡素な夏着物や浴衣から秋の着物へと変わることによってこれらの話題が中心にのぼるといえる。

(2)冬(2008/12~2009/2)

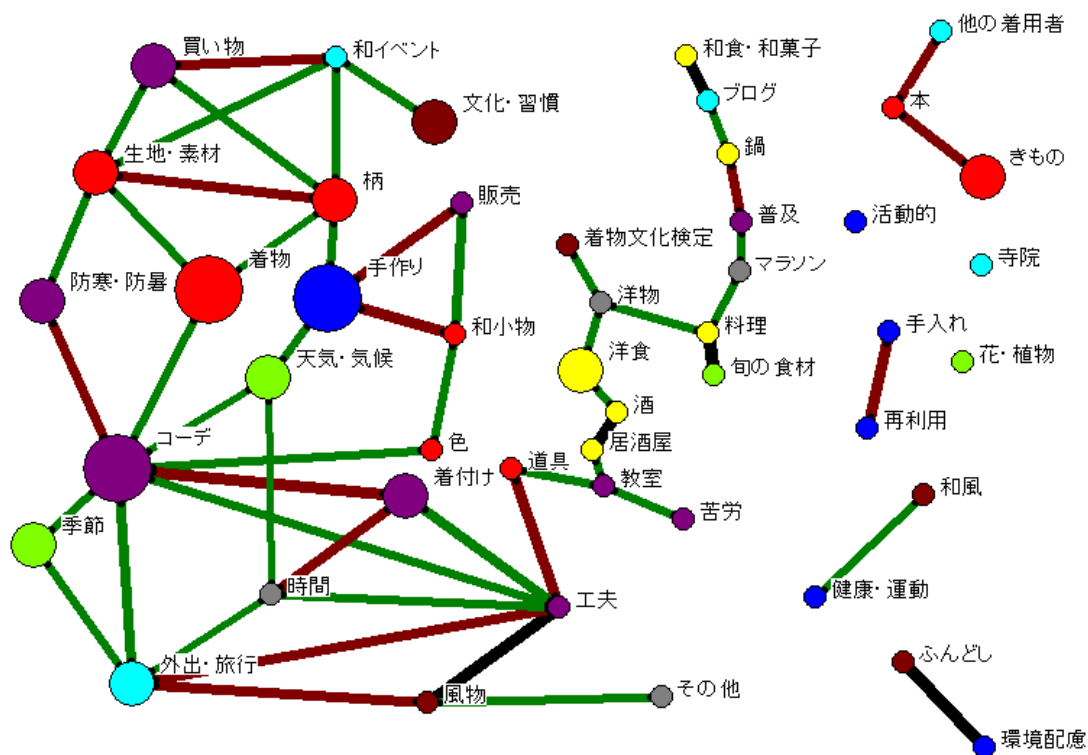


図 5-2-7 「ほぼ日刊？着物新聞」話題相関図 冬

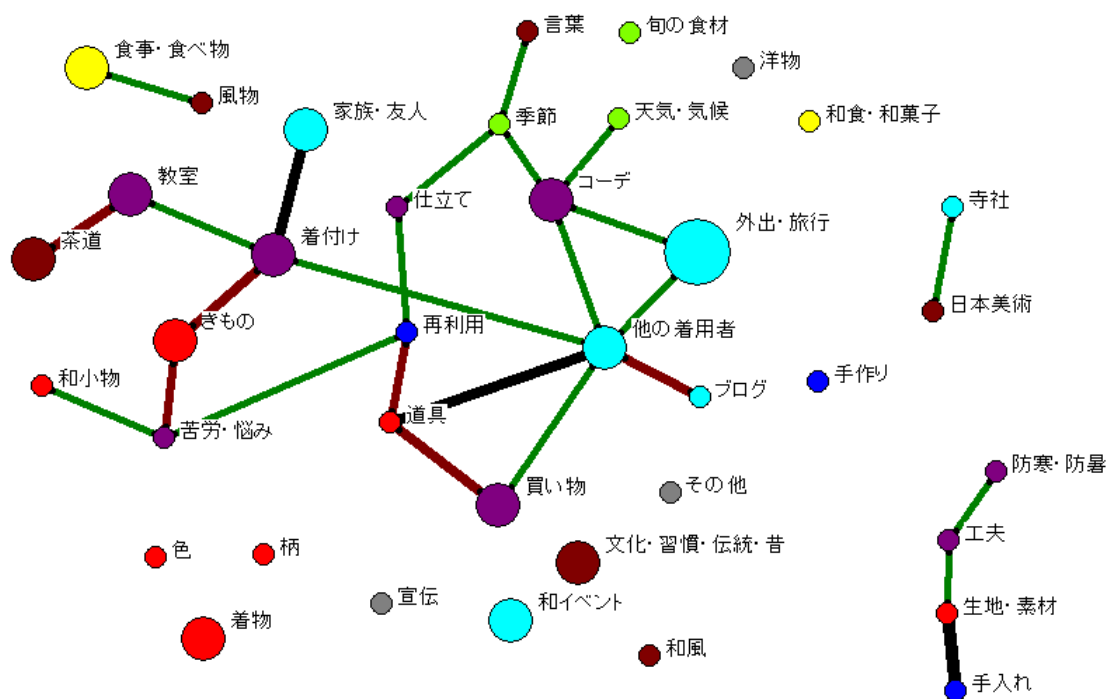
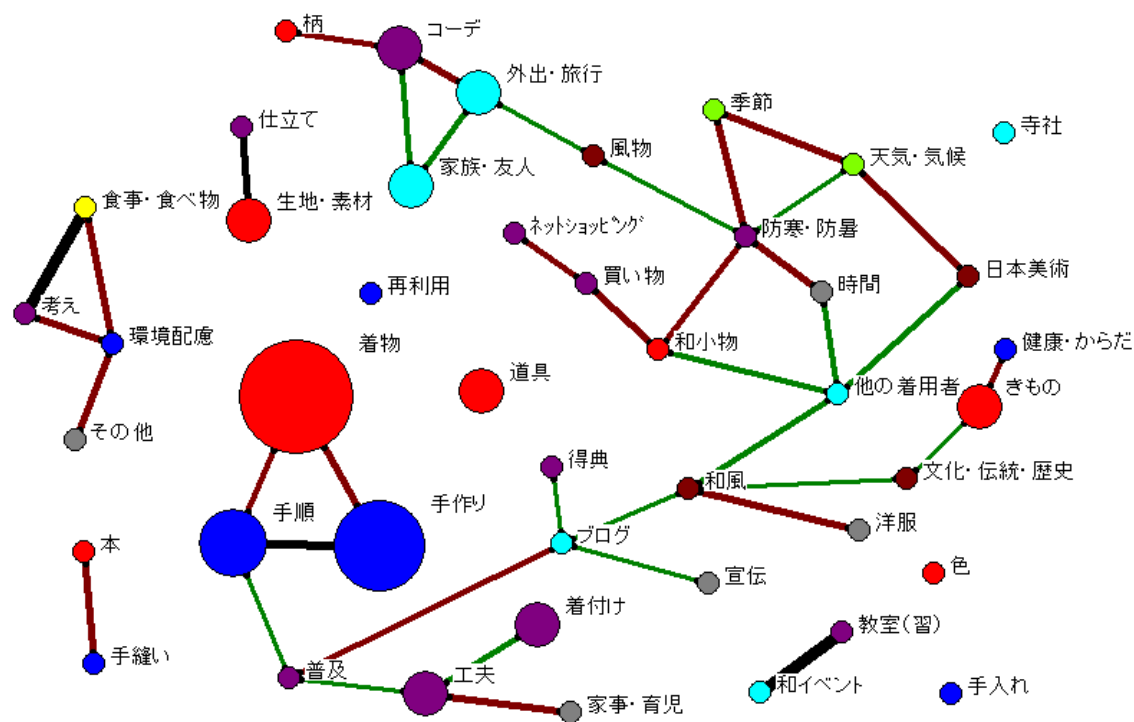
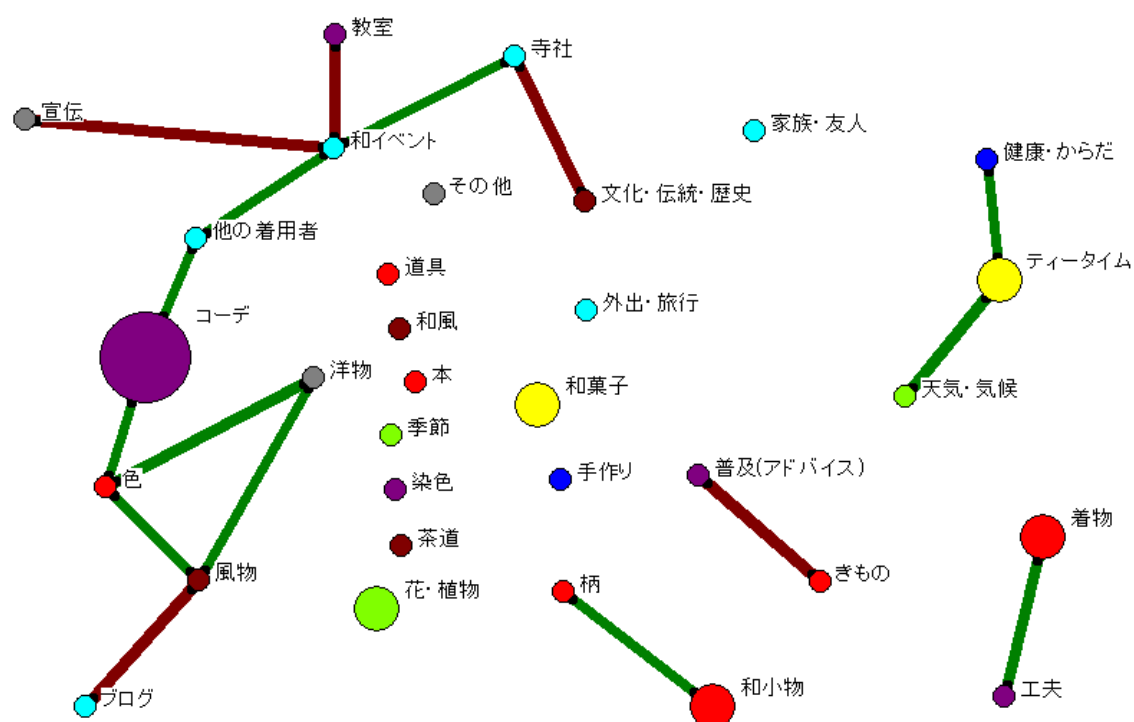


図 5-2-8 「キモノは別腹」話題相関図 冬



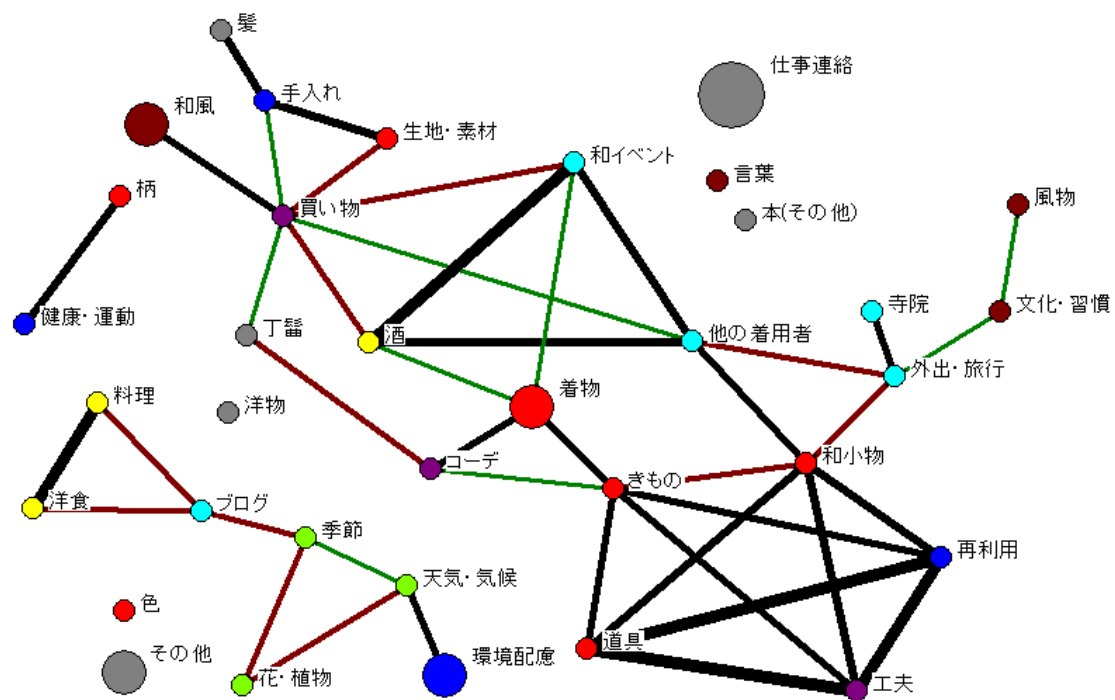


図 5-2-11 「丁髷 髪切り職人」話題相関図 冬

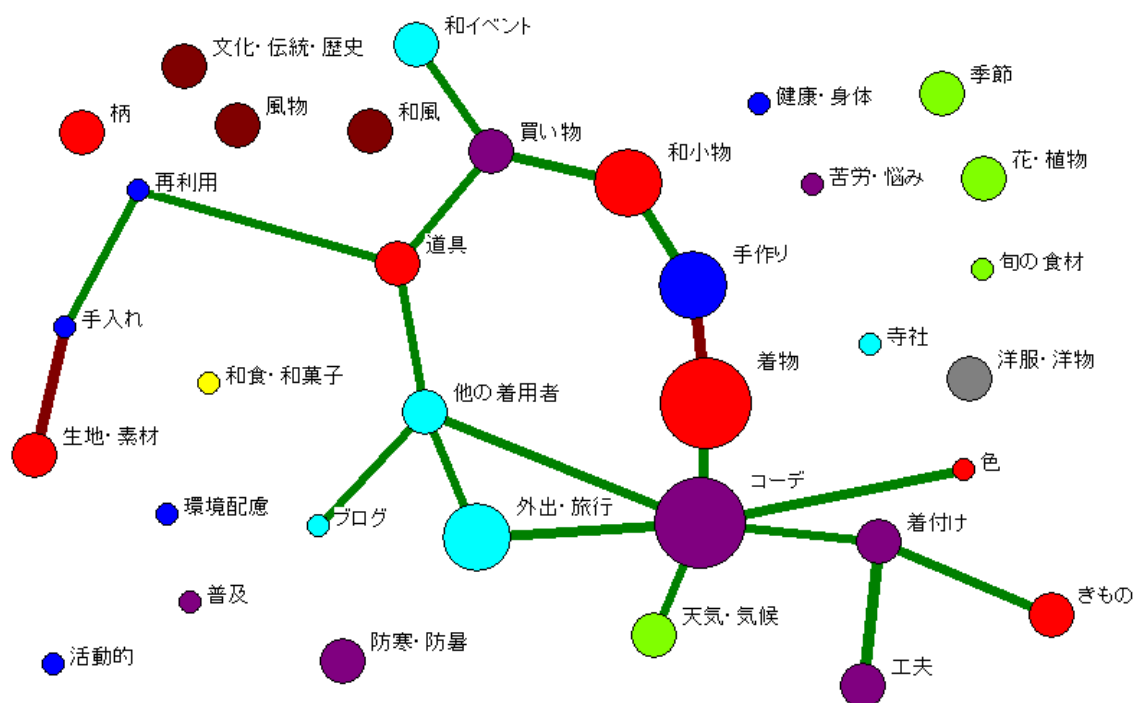


図 5-2-12 全対象話題相関図 冬

対象に共通する「話題相関図 冬」の特徴は以下の通りである。

- ①紫で示した「着物(動作・意識)」カテゴリーや水色の「交流」カテゴリーが目立つ
→冬は最もコーディネート幅が広がる季節であり、着用機会も増えるのでこれらの話題が増える。
- ②「コーデ」の話題を中心にして「着物(物)」や「着物(動作・意識)」、「交流」カテゴリーの話題へと放射状につながりがみられる
→①とも関連するが「着付け」や「防寒・防暑」等の着方についてのみでなく「色」や「柄」といった着物そのものの話題も多く、コーディネート多様性が窺える。更に、相関図ではつながりは見ることが出来ないが、「洋服・洋物」の想起率が増え、「着付け」と共に記事に登場する。具体的には、着物にブーツや帽子を合わせたり、防寒のために長襦袢の代わりにセーターを着たりマフラーやアームウォーマーを付けるといった方法が紹介されている。
- ③「工夫」が「着付け」「きもの」など着物関連の話題とつながる
→コーディネートと同時に、冬は気候に合わせて着る物や着方を工夫する必要がある、その幅も広いから、複数の話題とつながる

(3)春(2009/3～2009/5)

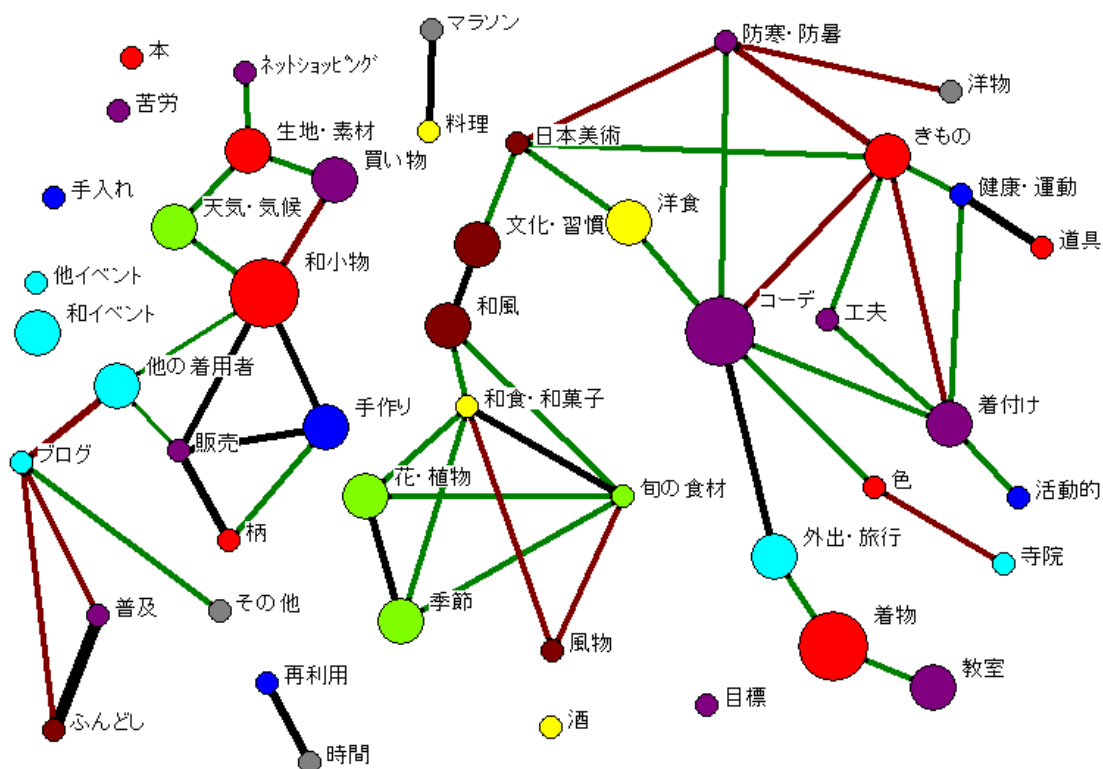


図 5-2-13 「ほぼ日刊？着物新聞」話題相関図 春

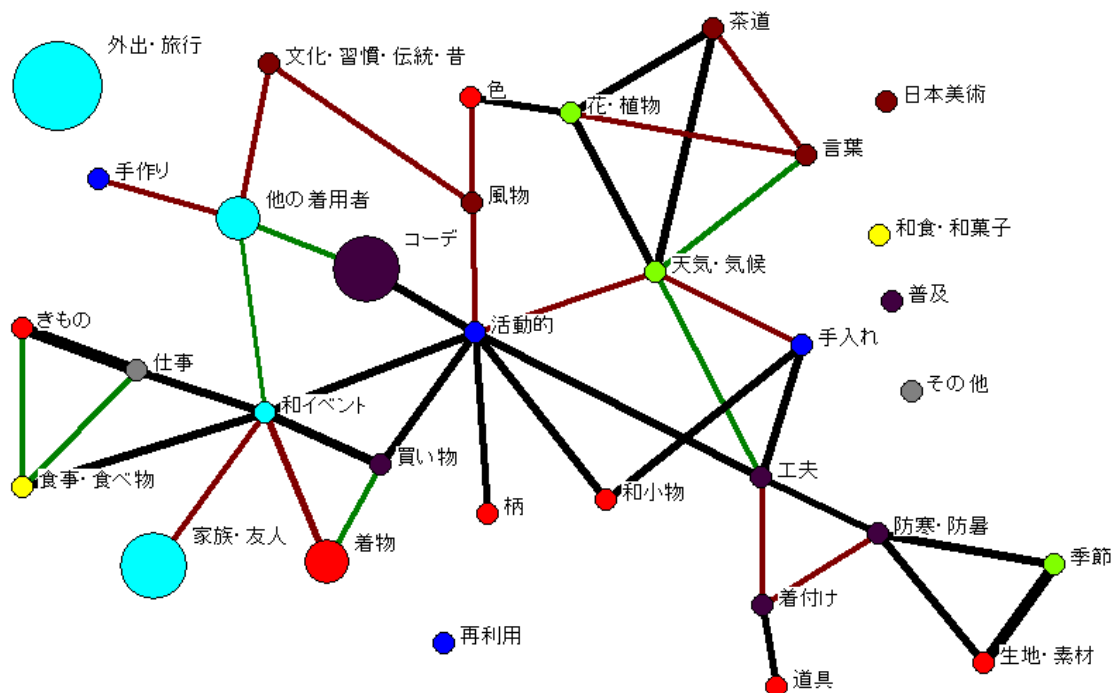


図 5-2-14 「キモノは別腹」話題相関図 春

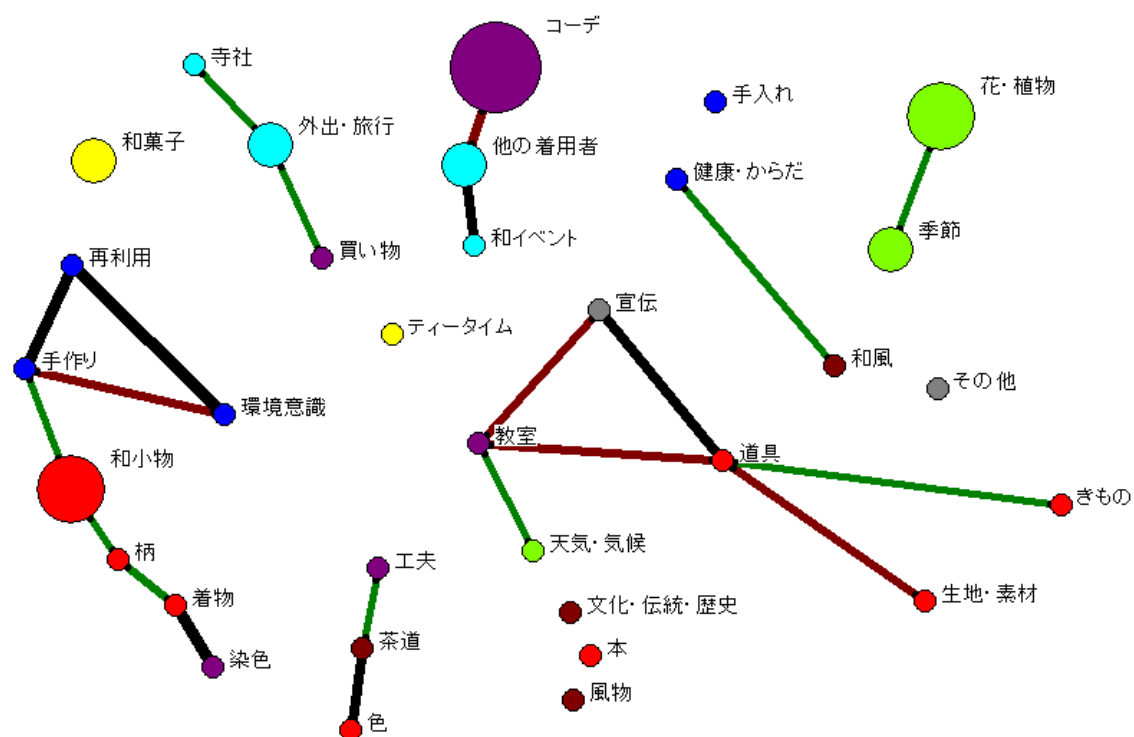


図 5-2-15 「着物で一息♪ティータイム」話題相関図 春

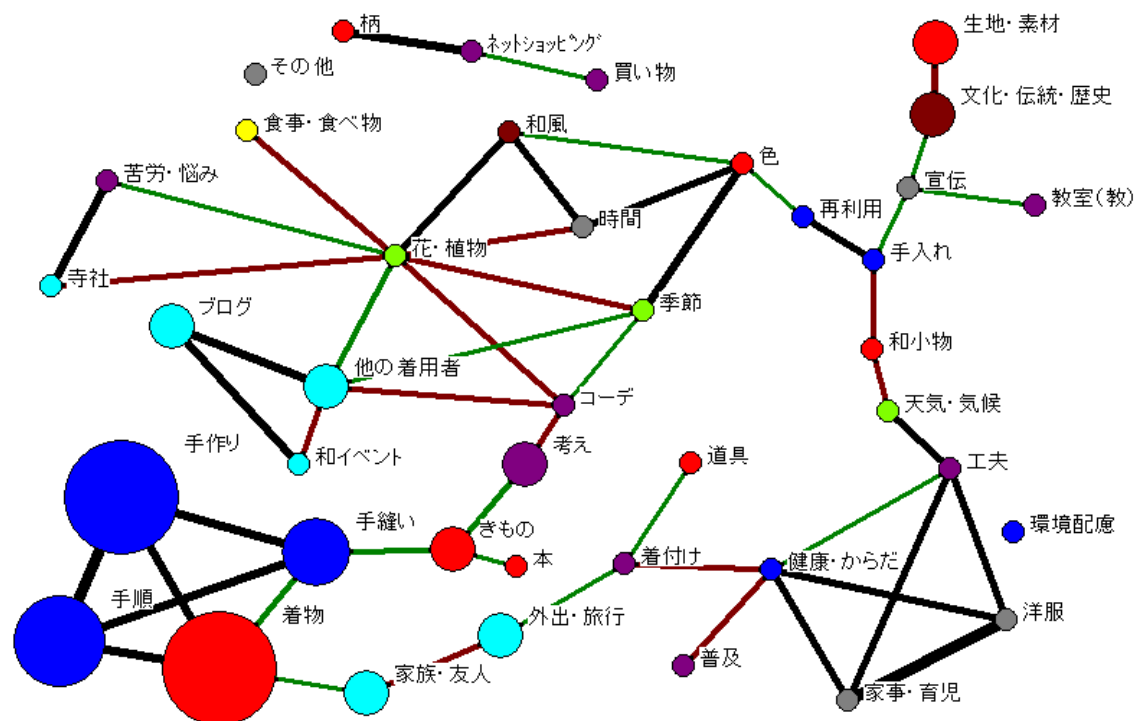


図 5-2-16 「ちくちくきもの」話題相関図 春

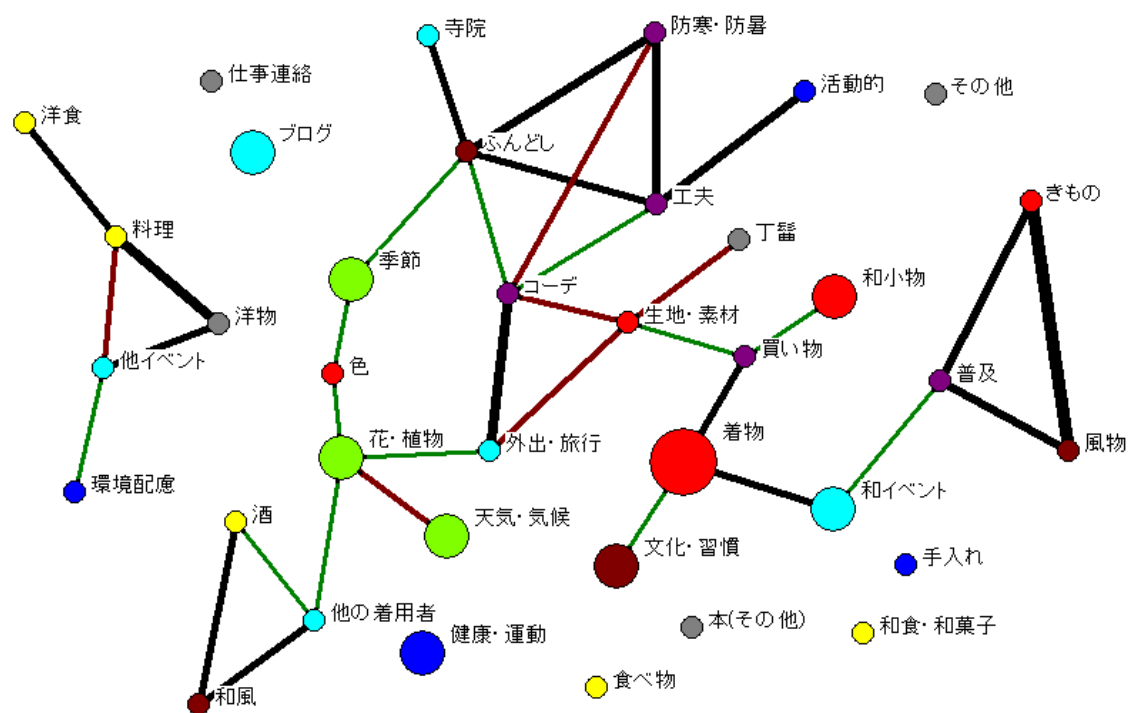


図 5-2-17 「丁髷 髪切り職人」話題相関図 春

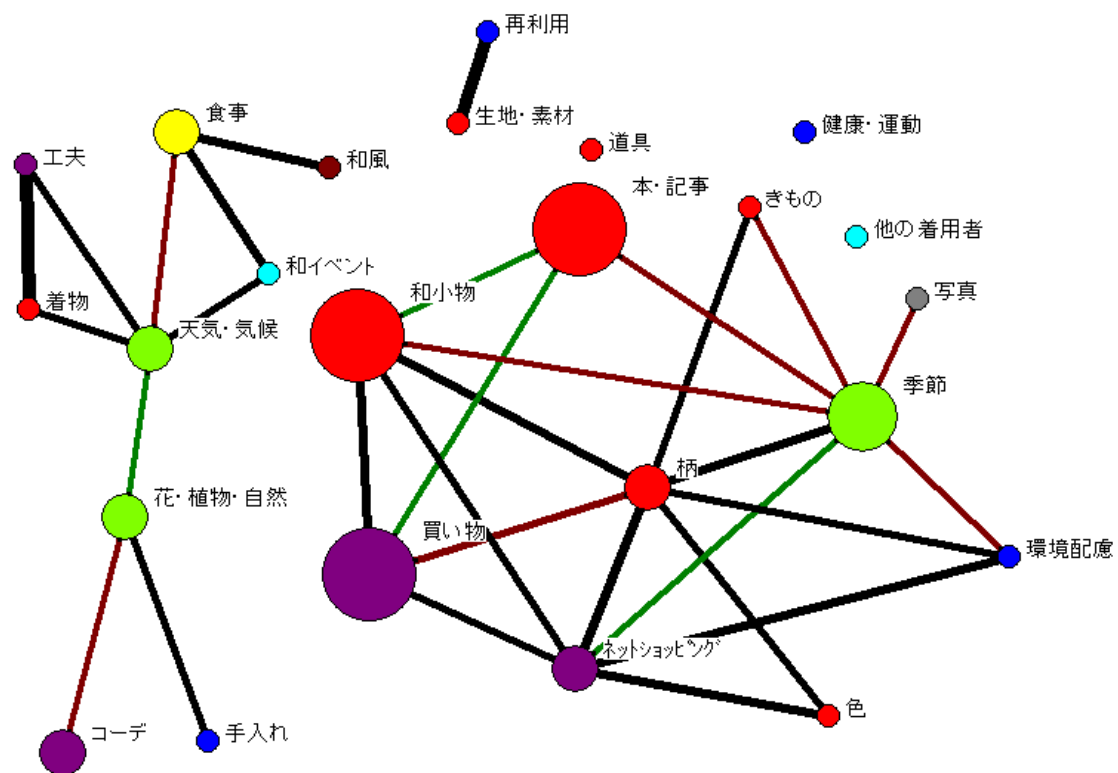


図 5-2-18 「お気楽着物暮らし」話題相関図 春

99



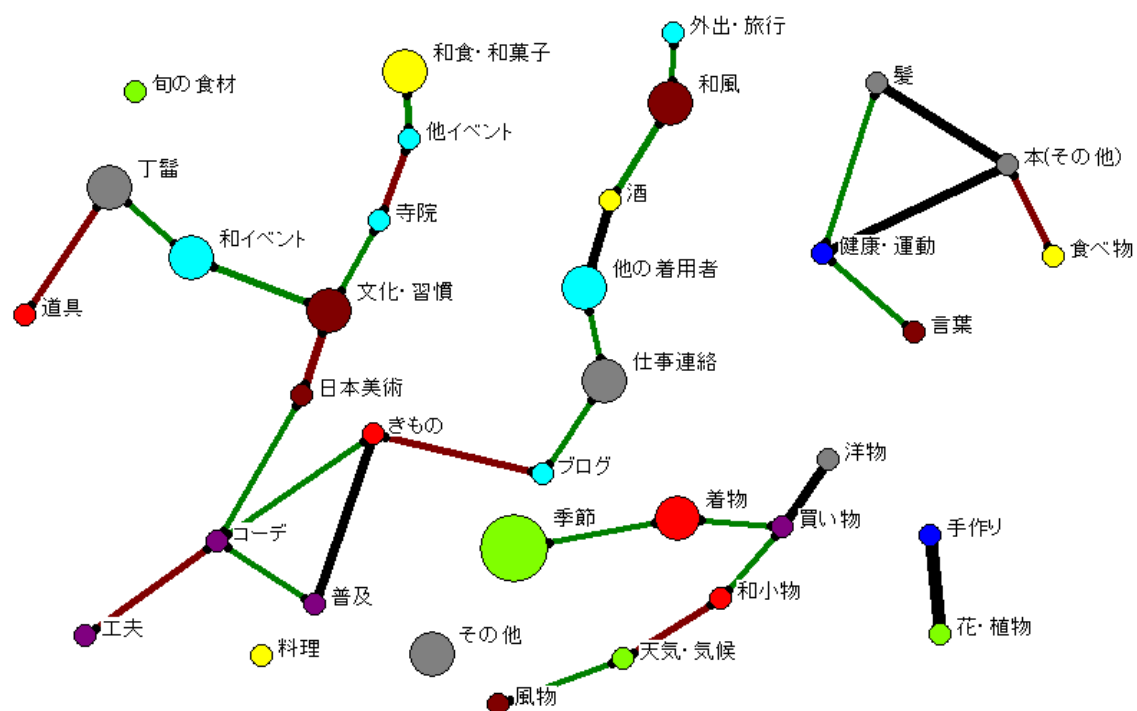


図 5-2-24 「丁髷 髪切り職人」話題相関図 夏

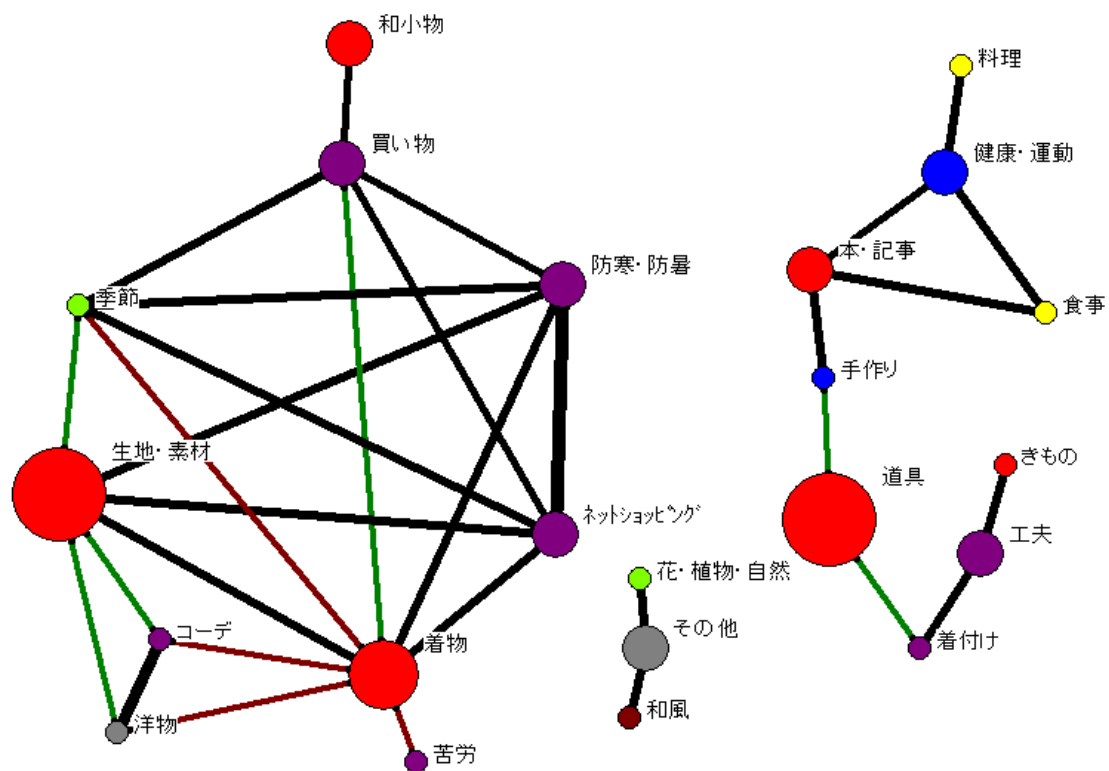


図 5-2-25 「お気楽着物暮らし」話題相関図 夏

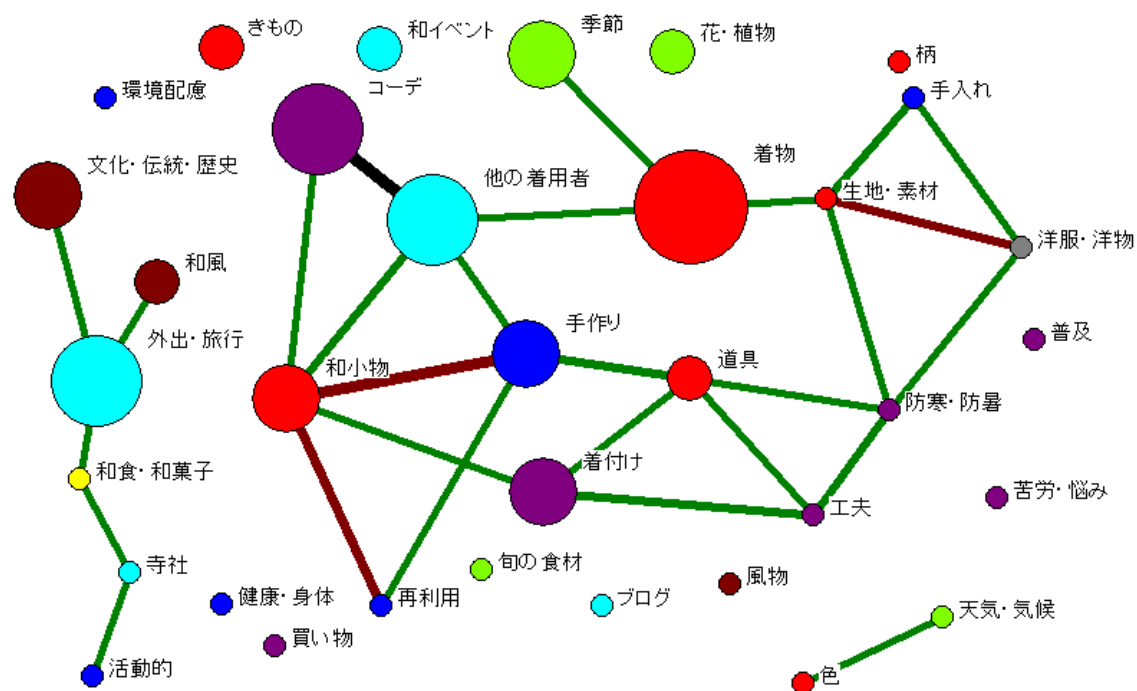


図 5-2-26 全対象話題相関図 夏

対象に共通する「話題相関図 夏」の特徴は以下の通りである。

①「再利用」のつながりが増える

→夏という季節が関係しているかどうかは測れないが、「手作り」とのつながりが複数見られるほか、「きもの」や「道具」とのつながりも見られ、着物や道具を再利用して使用していることがわかる

②「工夫」が着物関連の複数の話題とつながる

→冬と同様に、夏も気候のために着付けや素材を工夫する必要があり、そのための方法をそれぞれが紹介している。

5-3 アンケートの比較

5-3-1 衣服消費

対象者に対して行ったアンケートの中で衣服消費量に関する項目(問 6～11)の回答(表 5-4)を比較する.

[問]

- ①年間の着物入手数(内リサイクル品) ——— 着
 ②一か月の着物入手費用 ————— 円
 ③着物入手の割合 ————— 手作り：新品購入：古着購入：譲受
 ④年間の洋服入手数(内リサイクル品) ——— 着
 ⑤一か月の洋服入手費用 ————— 円
 ⑥洋服入手の割合 ————— 手作り：新品購入：古着購入：譲受

表 5-4 衣服消費に関するアンケート回答

	1.梅まり	2.ひよさ	3.神田	4.湖藤	5.髪切り	6.おきらく
①	3(0)	1～10(～9)	2(0)	5(0)	5～6(5)	5(4～5)
②	20000	1～40000	20000	～10000	5000	5000
③	5:5:0:0	0.5:1:7:1.5	4:2:0:4	7:2:0:1	0:1:8:1	0:1:8:1
④	15(0)	3(1)	5(0)	3(0)	1(0)	1(0)
⑤	2～30000	0～5000	20000	0～5000	年 10000	年 10000
⑥	0:10:0:0	0.5:6:2.5:1	0:10:0:0	0:10:0:0	0:10:0:0	0:10:0:0
職業	会社員	自営業	会社員	主婦	自営業	主婦
着用頻度	週 1 以上	週 2～3	週 1 以上	週 3 以上	毎日	毎日

洋服の入手数や入手(購入)費用を比べてみると、着用頻度に対応していることが分かる。着用頻度は、対象 1 梅まり氏や対象 3 神田氏のような会社員の場合は自ずと週に 1,2 回程度になるし、自営業でも対象 2 ひよさ氏のように職種によって着物着用機会が制限され、仕事の際に「洋服を着なければならない」状態を強いられている。よって出来るだけ着物で過ごそうと考える本研究の対象者のような着物着用者の洋服消費量は、職業に左右される。

和服入手数や入手費用を見ても、「着物を着たら衣服消費量が減る」とは言えない。しかし着物の特徴としてはリサイクルの多さがある。着物と洋服の入手割合を比べると違いは歴然であり、ほぼ全ての対象者が洋服を入手する際は新品を購入するが、着物の場合は古着を買う・お下がりを買う・自分で作るのが半分以上を占める。原因としては「単価が高いので新品は買えない」「形が変わらないので古いものでも着られる」ということが挙げられる。洋服では「単価が安い」「流行の入れ替わりが早い」という要因のためにファストファッションが広まり消費量が拡大しているが、消費者は単価が高ければ購入しないし、流行がなければ同じものを着続けられるということがここで明らかとなった。

5-3-2 属性と着用者のパターン

着用者のどんな要素がブログ内容に影響しているのか、性別・年代および着用歴・着物を着る目的・着物を着るようになったきっかけの4項目で比較する。

(1)性別

6名の対象のうち、男性は対象5長田氏の1名である。着物着用において男性と女性では性質が異なる(表5-6)。男性着物には「おはしより」が無く着付けに使う道具も少ない。また帯結びも女性に比べると簡素であるため、着付けは女性より容易である。一方で道具が少ない分帯周りの小物でコーディネートを多様にすることが困難なうえ、着物や帯の柄や色がシンプルであり、一枚の着物を様々に着こなしたり季節感を表現するといったことは女性に比べ難しい。また呉服店に売られているものや着物教室も女性向けのものが中心なので男性にとって着物はますます縁遠いものになりがちである。

表 5-5 対象者の性別

対象 1	対象 2	対象 3	対象 4	対象 5	対象 6
女性	女性	女性	女性	男性	女性

表 5-6 男女の着物の違い

	おはしより	紐の数※	帯周りの小物	種類	色・柄行
女性	有	3～6	帯上げ・帯留め・帯締め・根付・扇子等	着用の目的に合わせて様々(表1-3)	種々様々で「色無地」を除けば柄が目立つ物が多い
男性	無	1～2	根付・扇子等	女性ほど細かくな く定義は曖昧	シンプルな色で細かく地色に近い柄

※長襦袢・着物の着付けに使う紐の本数

ブログの内容を見ても、やはり「丁髷 髪切り職人」では「着物(物)」「着物(動作・意識)」カテゴリーの話題が少ない。そのためか、「和(日本)」や「自然」カテゴリーの話題が増えているにもかかわらず話題同士の繋がりはない。

男性のパターン：着物の着付けや着物着用についての詳しい話題はほとんど見られない
着物に限らず記事内で複数の話題に触れない

(2)年代および着用歴

本研究の対象では年代と着用歴が似ている(表 5-7)対象同士をグループに分け、対象 1・4 と対象 2・3 を比較する。対象 1 梅まり氏は 30 代前半で対象 4 湖藤氏は 20 代後半のため年齢も近い。対象 5・6 は年代・着用歴ともに共通しているが、両者が夫婦であり生活スタイルが同じであることとブログの更新頻度が他の 4 対象よりも極端に少ないことからこの比較では触れない。

表 5-7 対象者の年代と着用歴

	1.梅まり	2.ひよさ	3.神田	4.湖藤	5.長田	6.おきらく
年代	30 代	40 代	40 代	20 代	30 代	30 代
着用歴	2 年	23 年	15 年	2 年	4 年	4 年

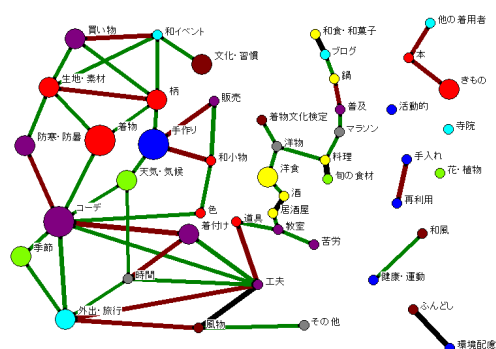


図 5-3-1 対象 1 話題相関図 冬

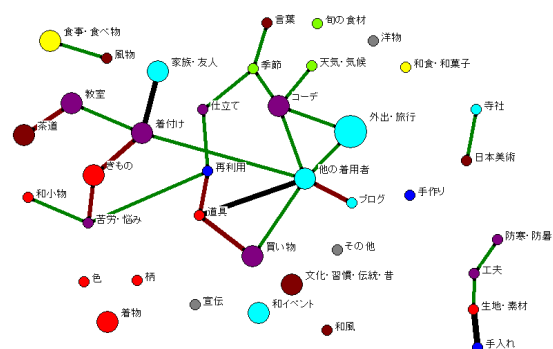


図 5-3-2 対象 2 話題相関図 冬

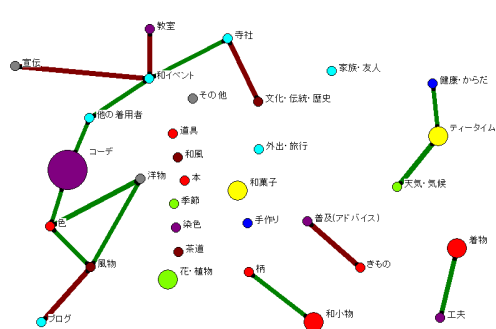


図 5-3-3 対象 3 話題相関図 冬

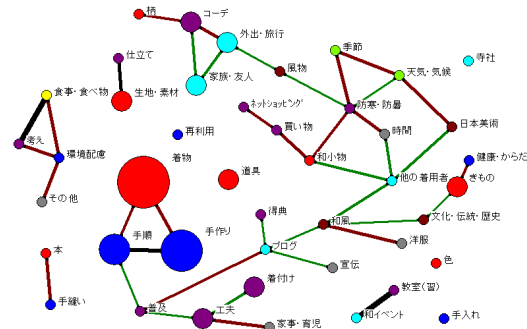


図 5-3-4 対象 4 話題相関図 冬

梅まり氏と湖藤氏は着物着用開始から現在で 2 年目であり、本研究の対象期間初期ではまだ初心者であったと言える。記事内容は着物に関する様々な話題に及び、話題相関図を見ると複数の話題が絡まり合うような形になっている。

また、時系列的な変化も顕著に見られ、「ほぼ日刊？着物新聞」では着物の話題から伝統や日本らしいものの話題が多くなり、「ちくちくきもの」では無秩序に繋がっていた話題が

「着物」「手作り」「手順」を中心として他の話題と繋がる構成に変わってきた。両対象ともに「他の着用者」の話題が増え、ブログなどのインターネットを通じて着物着用者の輪を拡げていることが窺える。

項目ごとの比較の際に「きもの」「生地・素材」「道具」「着物」「着付け」「工夫」のグラフの形が似ており、各対象がこの 6 話題を扱う比率が似ていることがわかったが、この 6 つの話題をより多く扱っているのが 2 対象である。着用歴が浅いだけに日々発見や変化、実感等があり、ブログに反映されている。同様に表現についても、この 2 対象ではたくさんの表現が見られた。

一方ひよさ氏と神田氏では、記事数や話題数は対象 1・4 と変わらないのに話題相関図はシンプルである。「キモノは別腹」は話題の幅は広いが、ひとつの話題について複数の記事で詳しく紹介することが多いので季節に関係なく出現率の高い話題が微妙に変化する。「着物で一息？ティータイム」では「コーデ」「花・植物」「ティータイム」等の話題を中心として運営されている。中心となる話題が固定されているかどうかの違いはあるが、記事の構成は似ていると言ってい

い。どちらも着物に携わる期間が長いので、着用に関して「ほぼ日刊？着物新聞」や「ちくちくきもの」のような発見や変化は見られにくい。しかし着用が長いだけに着物仲間が多く、交流の場も多い。

抽出した表現は少なかったが、日本の伝統を大切に思うことや着物の性質を活かしている点(季節のものに目が行く・一着の着物を長年着用する等)で表現内容は似通っている。

着物着用に関しては、梅まり氏と湖藤氏が着用「洋」の要素を取り入れたり普段着ということで楽な着方をしたりと自由な着用をしているのに対し、着物のルールと言われてるものにより忠実な着用をしているのはひよさ氏と神田氏である。ひよさ氏は防寒などの工夫に取り入れているのは対象者の祖母が行っていたもので、元々の着物着用の側面であると言えるが、梅まり氏や湖藤氏は現代の生活や物から着物に合うものを選んでいている印象がある。

着用開始時期はどの着用者も 20 代～30 代前半で共通している。表現にも「『歳をとったら着物を着るわ』というのは無理」(「着物で一息♪ティータイム」2008/11/6)とあったが、着用を開始する行動力や着用のための体力、日常着として馴染むまでの気力が必要でありそれには若いうちに取り組むことが重要と考えられる。

着用歴が短い者のパターン：話題の繋がりがたくさんできる

着用のなかで発見や実感が多く、変化がブログに現れやすい
生活や着物着用に関する意見等の表現がたくさん抽出できる
自由な着用をしている

着用歴が長い者のパターン：話題相関図がシンプルで話題同士の繋がりはない

ルールに忠実な着用をしている

「洋服だから」「着物だから」ということをあまり意識していない

着用歴に関わらず着用開始時期は 20 代～30 代前半

(3)着物を着る目的

着物着用の目的は人それぞれであるが、アンケートの項目の中で最も密接に関係しているのは着物と洋服の入手数であるという推察に至った。

洋服の入手数は着用頻度と関係していると前述したが、職業の関係上対象 1～3 は洋服を着ざるを得ない状況にある。そのことを踏まえても以下のことが言える。

梅まり氏は着用目的が「ファッションとして」であり、洋服時でもファッションへの関心が高く他の対象者よりも入手数が多い。

ひよさ氏の着用目的は「長い付き合いのできる衣類だから」であるが、入手する着物・洋服ともにリサイクル数が非常に多く、着られる物を長く着るという行動が読み取れる。

神田氏は気分転換に着物を着ており、洋服も着物も着るという姿勢であり、一週間に着物は 1,2 日洋服は 5,6 日という着用機会と、入手数の比率が合致している。

対象 4～6 からは「着物の方が楽」「着物の時は楽しい」「洋服はいい所が無い」「洋服はテンションが下がる」という意見があり、洋服よりも着物が良いから着ているのであって、目的と聞かれると答えるのは難しいという。「洋服は必要に迫られた時しか購入しない」ということで、着物については湖藤氏がほぼ手作り、長田氏とおきらく氏がほぼ古着である。

表 5-6 着物を着る目的と衣服入手数

	着物を着る目的	年間着物入手数	年間洋服入手数
1.梅まり	ファッションとして	3(0)	15(0)
2.ひよさ	好きだから・長い付き合いのできる衣類だから	1～10(～9)	3(1)
3.神田	気分転換	2(0)	5(0)
4.湖藤	楽しい・体調が良くなる	5(0)	3(0)
5.長田	普段着として	5～6(5)	1(0)
6.おきらく	普段着として	5(4～5)	1(0)

ブログ内容については全員について着用の目的が反映されているわけではないが、「キモノは別腹」では着物に限らず「古いもの」「人から譲り受けたもの」「歴史のあるもの」や文化・風習などに触れる記述がよく登場し、長い付き合いができるものに惹かれるという性質がわかる。神田氏は 1 カ月分、あるいは 1 シーズン分のコーディネートをもっと決めるなど趣味として楽しむ行動が表れている。

着用目的と着用のパターン：着用目的は衣服消費に影響する

ファッションや趣味のひとつとして着用する着用者は洋服も着物も同様に消費する

衣服は着物だけでいいと考える着用者は着物も洋服も新品のものはほとんど購入しない

(4)着物を着るようになったきっかけ

表 5-7 着物を着るようになったきっかけ

	着物を着るようになったきっかけ
1.梅まり	潜在的に着物に魅力を感じていた・一人で着られるようになった
2.ひよさ	祖母が日常着として着ていた
3.神田	手持ちの着物の保管や手入れの方法を習うために着付け教室へ行った
4.湖藤	洋服に疲れた・習い事をしたくて着付け教室に行った・手持ちの着物を着たかった
5.長田	妻(対象 6 に影響されて)
6.おきらく	好みに合う洋服が見つけにくかった・「着物は流行や体形に左右されずずっと着られる」と読んだ

梅まり氏とひよさ氏は元々着物を着たいという意思があり、神田氏と湖藤氏は元々持っていた着物を無駄にしないために着用を始め、長田氏とおきらく氏は着物の性質を知ったことが着用のきっかけとなった。

梅まり氏は、友人が着物を着られるようになり、元々着物を好きだった自分も着用を決めた。ブログ内容からも、着物だけでなく和食や伝統産業などの日本のもの・日本らしいものが好きであることがわかる。「日本の繊細な感性や技術が詰った伝統工芸ってすごい！この技術は無くならないでほしいし、自分がそれを買ったり身につけることで貢献したい」(「ほぼ日刊？着物新聞」2009/5/15)という表現通り、着物を着用したり和風なものを使用している。「着物や帯に描かれている花の開花時期や名前を知りたくなったり、そこから派生し咲いている花に目を留めるようになった」(「ほぼ日刊？着物新聞」2009/2/26)このように着用をきっかけに季節感を重視する意識も生まれているが、「体を動かした後に食べるご飯は、舌だけではなく全身で味わっている気がします！」(「ほぼ日刊？着物新聞」2009/1/10)「袖はピンヒールのようなもの？あまり役に立たないけれど、奇麗。」(「ほぼ日刊？着物新聞」2008/10/16)など、感覚が卓越しており独特の感性を持っている。

ひよさ氏は、子供のころから身近に着物を見ていたために着用への抵抗が無く、持っている着物の枚数に比例して序々に着用頻度が上がった。また友人が着物に興味を持ったことで着用の機会が増えた。ブログ記事にも幼いころに見た祖母の着用生活についての記述や友人の話題は頻繁に登場する。

話題ごとの比較で「ほぼ日刊？着物新聞」と「キモノは別腹」で共に話題出現率が高かったのは「文化・伝統・歴史」「風物」「和イベント」で、やはり和(日本)のものを話題に取り上げていることがわかる。

神田氏は着用のきっかけは着物の保管や手入れであったが、着てみたらよい気分転換に

なったということで趣味として15年も着物着用が続いている。本人も着用を通して季節や色、質感に敏感になると言っているが、ブログの表現にも「触れて気持ちのよい、体が喜ぶ自然素材は、間違いなく人と相性がよい」(「着物で一息♪ティータイム」2009/4/23)など素材を重視するものや、古い者を大切にすること意識、常に研究を怠らない姿勢などが読み取れる。

湖藤氏は、手持ちの着物を着ようという使命感と、時間がある時に習い事をしたかったこと、洋服のファストファッションに疑問を持ち疲れていたということが丁度重なり、着用に至った。チャレンジ精神が豊富で次々と新しいことに挑戦し、「仕立てる→着る→洗う→また仕立てるのサイクルをセルフでやれるようになりたい。これぞ普段着物の真骨頂！着物をライフスタイルとして楽しみたい！」(「ちくちくきもの」2009/5/27)という大きな目標を掲げている。また、親戚が呉服店を営んでおり、相談できることも強みとなっている。

「キモノで一息♪ティータイム」と「ちくちくきもの」の共通点は「普及」の話題が多いことと「風物」の話題が少ないことである。特に「普及」の話題ではアドバイスや手順の説明、着物のきまりの紹介など初心者が活用しやすい情報を提供している。

長田夫妻は元々環境などに興味関心があり、たまたま読んだ新聞記事で着物には流行がなくサイズ調整が容易なのでずっと着られることを知り、着用を始めた。また「人とは違うこと」が好きであることも影響している。

ブログ記事で共通しているのは「健康・からだ」の話題が多いことである。「着物を着るようになってお腹が冷えにくくなった」「冬は暖かく・夏は涼しい」など、洋服にはない性質を大事にしている。「健康・からだ」の話題については「ちくちくきもの」でも多く、この3者の共通点は着用頻度がほぼ毎日であることと洋服を着ることを拒否していることである。

着用のきっかけと着用のパターン：着物や日本の文化が好きな者は着用を通じてますます
興味を湧く

手持ちの着物を活用することが着用のきっかけになる者
は着物初心者向けの記事を書く

着物の性質(流行が無い・サイズ調節が容易)に惹かれて
着用する者は身体に関する着物の魅力によって洋服生活
を辞める

友人や家族などに一緒に装う仲間や助言を聞く相手が居
ると着用を始めやすい

第 6 章 結論

第6章 結論

6-1 着物着用と対象者の意識・行動

以上の分析および考察から、着物を着用することと関係していると考えられる対象者の意識・行動について、以下のことが推察される。

6-1-1 対象者に共通する意識・行動

(1) 季節による特徴

冬は最もコーディネート幅が広がる季節であり、着用機会も増えるので「着物(動作・意識)」カテゴリーや「交流」カテゴリーの話題が増える。コーディネート幅といっても、着付けや防寒などの着方に関するものと、色や柄、素材など着用に用いる着物や小物そのものの双方に、興味を向けたり工夫を施す余地がある。これらの特徴は話題相関図が複雑化することからもうかがえ、特に着用歴の浅い者に顕著である。

一方夏は全く逆のことが言え、着用枚数や小物の数が減り着物着用そのものが簡素になるために話題相関図は単純化する。他の季節では多くの話題とつながる「着物」がほとんどつながりを見せなくなり、「色」や「柄」の話題も少なくなる。着物の構造が身体を暖めやすくなっているため、夏の着物や浴衣は色や柄、素材は涼しげなものが多く、他の季節に比べて単一化している。しかし暑い気候ゆえに暑さを防止するための工夫や、熱を抜く方法などを着用者は身に付け、ブログの記事にも紹介して情報を共有している。そのため「工夫」の話題は冬と同様に多くの話題とのつながりが見られる。

着物は、季節によって着る物が決まっていたり色や柄によって季節感を表現できるという特性を持っている。着用のルールに捉われない着用者でも、気候の変化に合わせて着る物を変えて季節を楽しんでいる。中でも春は特に季節を意識して着物着用をしていることが話題相関図から明らかになった。もっとも一般的に季節感を表現できるものとして日本の国花であり着物の代表的な柄である桜が着物と自然のつながりに影響していると考えられる。また春は、ブログを通して交流の場を設けたり他の着用者と共にイベントに参加するといった内容の記事が多く見られる。

(2) 話題による特徴

①「苦労・悩み」の話題

どの着用者にも「苦労・悩み」の話題は少ないことから一般的に着物に対して持たれやすいイメージ(表 1-5, 表 1-6)は実際に着用すると無くなると考えられる。むしろ、着物着用によって洋服文化を客観視でき、洋服の短所や着物の長所を実感できる。

②日本らしさ

対象者は「和風」や「文化・伝統・歴史」といった日本らしいものの話題をよく扱い、

それらに興味があることがわかる。「着物」か「和風」か、どちらへの興味が先に湧いたかは着用者によって異なるが、着物を着ると一層日本の文化や伝統など着物が似合う「背景」「空間」「雰囲気」に興味が広がると考えられる。

どの対象にも着物を着用することで感覚が洗練され素材や季節感、色柄などに敏感になるといった表現があり、着物着用によって日本らしさを感覚で捉えられるようになると言える。

③手作り・再利用

「手作り」の話題は一様に多いが、対象者は「物を作ること」にも「手作りの物」にも興味関があり、着物に限らず「再利用」をしたり物を大切に長く使う行動が共通して見られる。「作る」ことが好きな者、古い者を修理して使うのが好きな者、着物の仕立てや仕立て直しを自分で行う者など対象者のほとんどが「もの作り」や「再利用」を生活の中で行っている。洋服入手時はほぼ100%新品購入であるのに着物では手作りやリサイクル品がほとんどであることから、「着物を着用すること」と「手作り」や「再利用」が関係していることがわかる。

④身体

健康に気を使う意識や着物着用による身体の変化がほとんどの着用者に見られる。「健康・身体」の話題から、着物着用によって身体に現れた変化として「代謝が上がるということ」、「姿勢や所作が変わること」が挙げられる。また、「服の形に体を合わせる洋服文化と違い、体の形に布を添わせる和服文化が、いかに体にやさしいか」(「ほぼ日刊?着物新聞」2008/11/21)「今では着物を着ない日がないくらいで着物を着ている方が楽。特に冬は帯でお腹が冷えにくい」(「丁髷 髪切り職人」2009/1/16)等の表現にも着物が身体に優しいと捉えられていることが表れている。

布を身体に沿わせて着用する衣服は、着物に限らずインドの「サリー」やブータンの「キラ」など他国の民族衣装にも共通している。

(3) 着用者の特性による特徴

①着物着用歴が短いもの(対象1・4)

ブログ記事で「着物」「生地・素材」等の「着物(物)カテゴリー」や「着付け」「工夫」などの「着物(動作)」カテゴリーの話題を多く扱うことから、着用歴が短いために着用に関する発見や実感、変化が頻繁にあらわれると考えられる。着用歴が短いほど「洋」にも意識が向きやすいことや自由な着用をしていることが言え、着物に着目してから時間が短いため視界が広いと考えられる。

②男性の着用者(対象 5.長田氏)

本研究では男性の対象が1名であったため断言はできないが、男性は着付けが単純なため「道具」や「着付け」などの話題は少なく話題相関図もシンプルであると言える。

③着用の目的

ファッションや趣味で着物を着用する者(梅まり氏・神田氏)は洋服も同様に着用するので洋服も着物もそれなりに消費する。

「長く着られる」という着物の性質を着用目的にする者(ひよさ氏・長田氏・おきらく氏)は洋服も着物もリサイクルが多い。

④着用のきっかけ

手持ちの着物を活用することが着用のきっかけであった者(神田氏・湖藤氏)はブログで初心者に向けた記事を書くことが多いため、着物を広める意識が高いと考えられる。またこの対象者は向上心があり新しく挑戦するという行動がよく見られる。

着物の性質に惹かれて着用する者や洋服のファストファッションを否定する者(湖藤氏・長田氏・おきらく氏)は洋服の着用頻度が減る。

以上を踏まえ対象者の着物着用のきっかけから現在までの流れを図に示した(図 6-1～図 6-6)。本研究の開始時期に相当する部分に★印を付けている。着物着用者には、生活の中に着物を組み込むことで感覚が豊かになったり、日本のものに興味が湧いたりといった変化が起きる。

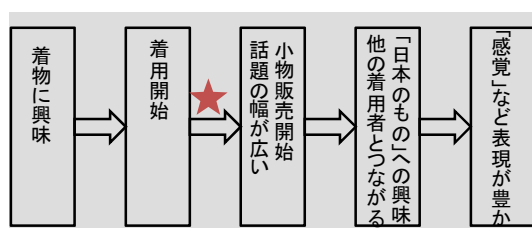


図 6-1 対象 1「ほぼ日刊?着物新聞」の流れ

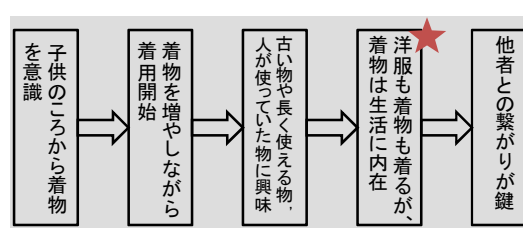


図 6-2 対象 2「キモノは別腹」の流れ

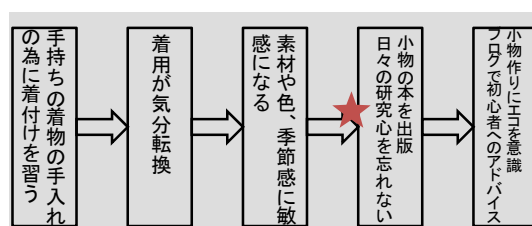


図 6-3 対象 3「着物で一息♪ティータイム」の流れ

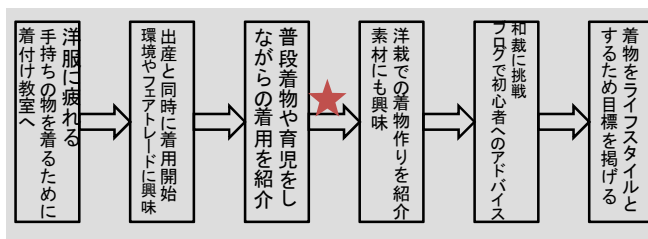


図 6-4 対象 4「ちくちくきもの」の流れ

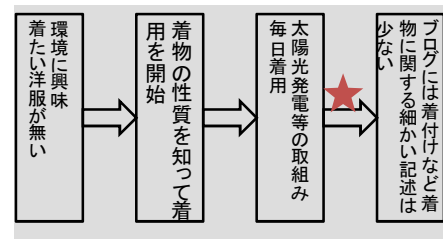


図 6-5 対象 5「丁髷 髪切り職人」の流れ

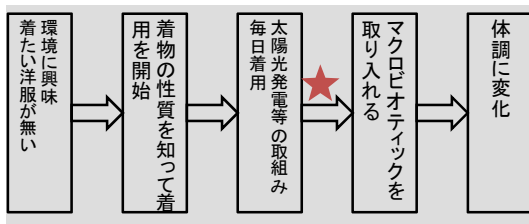


図 6-6 対象 6「お気楽着物暮らし」の流れ

6-1-2 着用者の環境意識

ブログの記事では「環境意識」の話題は少なく、表現などでも環境配慮と明確に捉えられるものは少なかった。しかし意識していなくても「再利用」等の行動が着物着用生活には内在する。また、アンケートやブログの表現にあるような「着物を着るようになってから季節に敏感になった」といった意見や、第 5 章で見たように対象者がブログの中で日本らしいものの話題を多く取り上げていることから、着物を着ると「着物が似合う生活」をしたくなり、食べるものや生活空間に対して季節感を感じるものや日本らしいものを求めるようになって考えられる。

そもそも衣服の大量消費はファストファッションの文化によるので、「流行が次々に変わること」「安く衣服が買えること」による。そんなファストファッションの性質とは真逆の性質を持つのが着物着用生活である。使い捨ての服を安い費用でたくさん買うことよりも、高くても長く着られるものを大切に着る方が環境にも経済的にも優しい。

対象 4 からは「ファストファッションに疲れた」「そんな若い世代の女性はたくさんいるはずで、その一部が着物着用を始めている」という意見を得たが、対象 5・6 でも「着物を着るようになって洋服には何もいい所が無いことに気付いた」という意見を得た。時代に流されてファストファッションが当然のようにになっているが、着物着用をして客観的に見ることで洋服の無駄な部分に気付くと言える。

6-2 ライフスタイルとしての着物

環境問題は人間が利便性を求めて研究・開発を繰り返した結果の副作用である。人間が作り出したものが身体に良いはずはない。添加物が入った食物、美しさを保つための化粧品、化学繊維…身体に直接触れるものならなおさらである。本研究の対象者にも、着物以外にも自然素材にこだわったり、化粧品を天然由来の原料で手作りするといった生活行動が見られる。素材にこだわる生活、健康にこだわる生活のひとつが着物着用生活である。

日本人は既に洋服での生活に慣れきっている。対象者から得た意見では洋服には「身体が冷える」「窮屈」「流行があつて数年で着たくなくなる」「個性に欠ける」「色や質感に鈍感になる」といった欠点がある。着物の方が窮屈なイメージを持ちやすいが、それは多くの人が着物を「着せてもらった」ことしかないからである。着用者意見に「着付けは自分でできなければ意味がない」とあったが、自分で着付けを出来れば着物を自分の身体の形に着ることが出来、着物はその形も身体に優しい。

身体に優しい生活をするのが豊かな感性を生むことにも環境に負荷を与えないことにも繋がる。

6-3 本研究の限界と課題

本研究のブログ分析(話題の分類・話題の抽出)方法は、筆者の主観で行うしかない。基準を設けても主観が抜けきらず、「何度行っても」「誰が行っても」同じ結果が出るとは言えない。第三者の立場で行える分析方法の検討が必要である。

また、研究の対象者が6名と少なく、属性も偏っていた。分析期間とその量を考慮するところの対象数は妥当だが、サンプル数を上げ、男女・年代・職業・家族構成など様々な属性比較を行えることが望ましい。

本研究の対象者は、多数いる着物着用者のほんの一部である。先にも述べた通り、属性を考慮しきれていない部分もある。また、ブログを書く者には少なからず「他者に見てほしい」という意識が存在し、ブログを書かない人とは異なる意識が存在する可能性もある。話を誇張したり見せたい部分のみを紹介したりすることがどれほど行われているかも測れない。その様な状況下で6つのサンプルの共通点を導き出すことが着物着用者全体あるいは「ブログを書いている」着物着用者全体に一般化することは難しい。しかし、現代の日常生活においてブログを通じた情報交換が特に若者を中心に一般的になっていることや、その影響を多に受けていることが考えられることから、本研究で結論として扱った内容は、ブログ読者がブログから受ける漠然としたイメージを具体的に示唆できたものと考えられる。